長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第29集

ARIDUKA－SITE

蟻塚遺跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００４・３

長坂町教育委員会

峡北地域振興局農務部

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第29集

ARIDUKA－SITE

蟻　塚　遺　跡

中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

２００４・３

長坂町教育委員会

峡北地域振興局農務部

序

長坂町は広大な八ヶ岳南麓のほぼ中央に位置し、国蝶オオムラサキの生息地として全国的に知られているように、自然に恵まれた高原の町です。それとともに、町内には200ヶ所以上もの遺跡が確認されており、県内でも有数の遺跡の密集地帯としても知られています。

長坂町教育委員会では各種の開発事業に際し、このように数多い遺跡の保護を図りつつ、必要に応じて発掘調査を実施し、記録として遺跡の内容を後世に伝えるための埋蔵文化財発掘事業を推進しております。

本書は平成15年度に、中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う緊急発掘調査を実施した蟻塚遺跡の調査報告書です。蟻塚遺跡では縄文時代の土器や石器、古墳時代の竪穴住居跡、平安時代の竪穴住居跡・掘立柱建物跡などが発見されました。小さな谷部に位置する本遺跡にはるか昔からの先人たちの足跡が残されていたことは、この地で生活を営んできた近隣のかたがたにとっても驚きであったようです。今後私どもといたしましては調査の成果を地域のかたがたをはじめ多くの方に活用していただけるよう努力を重ねてまいりたいと考えております。

最後に、蟻塚遺跡の発掘調査にあたり、格別なご理解をいただいた長坂上条地区の皆様をはじめとする関係各位に厚く御礼申し上げます。本書が広く教育や研究の場で活用されることを期待しています。

2004年3月

長坂町教育委員会
教育長　小尾章臣

例　　言

1．本書は、2002（平成14）年度に実施した山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字蟻塚地内に所在する蟻塚遺跡の発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う事前調査であり、山梨県峡北地域振興局農務部より委託を受けて長坂町教育委員会が実施したものである。

3．発掘調査組織は以下のとおりである。

事 業 主 体　長坂町教育委員会
事　務　局　教育長　小尾章臣
（教育課長事務取扱兼務）
社会教育係長　日向明美（～平成15年９月）
輿石君夫（平成15年10月～）
調 査 担 当　長谷川誠
発掘作業員　秋山かつゑ　大柴富子　小尾トヨ子
國府田幸吉　小林敏恵　小林　裕
小林立枝　清水純代　清水三恵
清井義雄　名取初子　畑　梅子
宮原征人　矢ケ崎健三　横山幸男
渡辺早月
大山達也　小杉秀幸　小薗陽介
矢花由希子（以上４名　創価大学学生）
整理作業員　有野明子　小澤恒子　清井ゆき枝
吉田光男

4．本書の執筆・編集は、長谷川誠（長坂町教育委員会臨時職員）が行った。

5．発掘調査および整理作業において一部の調査・業務を以下の各機関・各位に委託した。

基準点測量・空中写真測量　㈱シン技術コンサル
炭化材分析　㈱パリノ・サーヴェイ

6．遺構・遺物の写真撮影は長谷川が行った。

7．本報告書に関わる出土品及び記録図面・写真等は、長坂町教育委員会に保管している。

8．発掘調査および報告書作成にあたっては、下記の方々に多大なご指導、ご教示を賜った。記して深く感謝の意を表す次第である。

雨宮正樹（高根町教育委員会）　杉本充（白州町教育委員会）　高須秀樹（双葉町教育委員会）　渡邊泰彦（大泉村教育委員会）

凡　　例

1．掲載した遺構・遺物実測図の縮尺は、原則として下記のとおりである。

遺構　調査区全体図：1/250
住居跡・掘立柱建物跡：1/60または1/80
溝：1/80
土坑・カマド：1/30
遺物　縄文土器：1/3
石器：2/3または1/3
古墳時代土師器：1/4
土師器・須恵器：1/4

2．遺構・遺物図版中のスクリーントーンは以下のとおりである。

焼土
黒色土器　須恵器

3．拓影図で両面を載せているものは、外面－断面－内面の並びで配置している。

4．遺構および遺物写真の縮尺は統一されていない。

5．遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。

目　　次

序
例言・凡例
本文目次・挿図目次・表目次・写真図版目次
第１章　調査の経緯と概要……１
　１．調査に至る経緯
　２．調査の概要
第２章　遺跡周辺の環境……１
　１．地理的環境
　２．歴史的環境
　３．基本層序
第３章　発見された遺構と遺物……２
　１．住居跡
　２．掘立柱建物跡
　３．土坑
　４．溝
　５．遺構外出土遺物
第４章　住居跡出土炭化材の年代と樹種……５
第５章　調査の成果と課題……７
参考文献……８

挿図目次

第１図　長坂町遺跡分布図
第２図　調査区配置図
第３図　調査区全体図
第４図　１号住居跡
　１号住遺物出土状況
第５図　２・３号住居跡
　２号住１号カマド
第６図　２号住２号カマド
　２号住遺物出土状況
第７図　３号住遺物出土状況
第８図　４号住居跡
第９図　６号住居跡
第10図　６号住遺物出土状況①
第11図　６号住遺物出土状況②
第12図　７号住居跡
　７号住１号カマド
第13図　７号住２号カマド
　７号住炭化物出土状況
　７号住ピット５・６
第14図　７号住遺物出土状況
第15図　８号住居跡
　８号住カマド
第16図　８号住遺物出土状況
第17図　９号住居跡
　９号住遺物出土状況
第18図　10号住居跡
　１号掘立柱建物跡
　１号溝
　１号土坑
第19図　１号住居跡、２号住居跡出土遺物
第20図　２号住居跡、３号住居跡出土遺物
第21図　４号住居跡、６号住居跡出土遺物
第22図　７号住居跡、８号住居跡出土遺物
第23図　９号住居跡、10号住居跡出土遺物、土坑、ピット、遺構外出土土器
第24図　遺構外出土土器
第25図　遺構外出土土器・石器
第26図　遺物出土状況
第27図　遺構変遷図

表　目　次

第１表　長坂町遺跡地名表
第２表　放射性炭素年代測定および樹種同定結果
第３表　暦年較正結果
第４表　石器一覧表
第５表　遺構内ピット一覧表
第６表　土坑・ピット一覧表
第７表　土器一覧表
第８表　遺構別出土土器内訳表

写真図版

図版１　調査区全景（南から）
図版２　調査区全景（真上から）
　１号住居跡全景（西から）
　１号住遺物出土状況
　２・３号住居跡全景（西から）
　２号住１号カマド
図版３　２号住２号カマド
　３号住遺物出土状況①
　３号住遺物出土状況②
　４号住居跡全景（南から）
　６号住居跡全景（西から）
　６号住遺物出土状況
　７号住居跡全景（南から）

７号住炭化材出土状況
図版４　７号住居跡２号カマド
７号住遺物出土状況
８号住居跡全景（南から）
８号住カマド
９号住居跡全景（南から）
９号住遺物出土状況
10号住居跡全景（南から）
１号土坑遺物出土状況
図版５　出土遺物①
図版６　出土遺物②
炭化材割断面拡大写真

第１章　調査の経緯と概要

１．調査に至る経緯

１．調査にいたる経緯

山梨県は、八ヶ岳南麓において南北に走る国道や地方主要道路を東西に結び、地域間の連結・連携を強化するために中山間活性化ふれあい支援農道の整備を計画した。それは農産物及び畜産飼料などの流通・輸送を合理化し、地域の農業や酪農の振興を促進するためでもあり、事業の推進が急がれた。

2000（平成12）年、町産業課を通じて町教育委員会に、農道施工区間内の埋蔵文化財包蔵地有無の照会があり、その該当箇所を回答した。しかし、包蔵地以外にも遺跡が存在する可能性が高いので、工事優先区間から順次試掘調査を実施することとなった。2002（平成14）年10・11月に長坂上条地内において試掘調査を行い、その結果字蟻塚地内で新たに遺跡が発見され、その遺跡を「蟻塚遺跡」と登録した。

同遺跡内の施工箇所について、山梨県峡北地域振興局農務部、町産業課、町教育委員会が協議し、施工方法が遺構保存に影響を与えるものであったため、発掘調査を実施することになった。また、工程上、同箇所を緊急に施工する必要があったので、発掘調査も同年度に実施してほしいとの要請があり、町教育委員会内で事業調整し、緊急に同年度末に発掘調査を実施することになった。

2003（平成15）年１月に峡北地域振興局農務部より埋蔵文化財発掘の通知が提出された。

発掘調査は町直営で行い、同年２月10日に開始し、同年３月31日に終了した。整理作業は同年４月１日より開始し、翌2004（平成16）年３月31日に終了した。

２．調査の概要

蟻塚遺跡内における今回の調査区面積は1617㎡である。農地整備にともなう発掘調査のため調査区は東西約80m、南北に約20mと東西に細長い形をしている。

発掘調査・遺構測量の基準として国土座標にあわせ10m間隔で調査区にグリッドを設定した。南西を原点として、西から東方向に１～11、南から北方向にＡ～Ｆとグリッド番号をつけた。

もともと畑地であったため40～50㎝ほど耕作土が堆積しており、この耕作土を重機により取り去り、遺構確認面になると丁寧に精査をし、遺構を確認していった。

遺物は、表土中から出土したものは調査区一括としてまとめ、それ以降は出土原位置で光波測量機による記録・取り上げ作業をし、必要なものは簡易遣り方による手実測で図化していった。遺構内の遺物については、その遺構出土のものとして取り上げていった。遺構は土層断面・遺構平面図を簡易遣り方による手実測、または光波測量機により図化した。全体図は空中写真測量で図化した。また、調査の状況に応じて写真撮影を行った。

調査後は続けて整理作業に入り、2004（平成16）年３月に完了した。

発見された遺構は、古墳時代前期の竪穴住居跡が３軒、平安時代の竪穴住居跡が６軒、掘立柱建物跡１棟、土坑１基、ピット16基、時期不明の溝が１条などである。

第２章　遺跡周辺の環境

１．地理的環境

本遺跡は山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字蟻塚に所在する。長坂町は八ヶ岳南麓に位置する南北に細長い町であり、本遺跡のある長坂上条地区は町の中央部に位置し、長坂駅や公共施設などがあり町の中心部となっている。

長坂町は八ヶ岳を形成する北側の山間部と、八ヶ岳から放射状に流れる河川の氾濫原を中心とした町東部の緩斜面地と、河川の浸食によりいくつもの谷が形成された町西部の尾根状台地部の大きく３つの地形に分けることができる。

長坂上条地区は尾根状台地部に位置している。塩川に向けて流下する小河川の浸食により、いくつもの谷が形成されており、舌状台地が発達している。台地は南西の方角に伸びており、谷も南西に向かい口を開いている。長坂上条地区では台地上に集落が営まれ、小さな谷部を利用して農作が行われてきた。

本遺跡は、その長坂上条地区の東部にあり、舌状台地に挟まれた小さな谷の奥部に位置する。遺跡の標高は683m～687mほどであった。

２．歴史的環境

本遺跡がある長坂上条地区は、遺跡の宝庫として古くから周知されていたものが多い。その中には県下で初めて学術調査された遺跡として学史的にも非常に重要な長坂上条遺跡がある。長坂上条遺跡のすぐ北側の台地上には、縄文時代前期～中期にかけての大集落である酒呑場遺跡がある。山梨県埋蔵文化センターにより４次にわたる調査が行われており、縄文時代前期～後期にかけての住居跡、土坑などとともに、古墳時代の集落も発見されている。

また本遺跡の周辺では農道などの整備により近年発掘調査が多く行われている。本遺跡から小さな谷を挟んで一つ東側の台地上には段道遺跡がある。段道遺跡は2001（平成13）年度に町教育委員会により発掘調査され、縄文時代中期後半曽利式期の住居跡６軒などが確認された。また本遺跡の西側の台地上には上条宮久保遺跡がある。平成15年度に町教育委員会により調査され、縄文時代中期中葉から後葉にかけての住居跡６軒などが確認されている。

３．基本層序

１層として表土にあたる耕作土があり、40～50cmほどの深さで堆積している。その下に黄褐色土層の２層があり、これが地山に当たる。よって耕作土を取り外した段階で遺構の確認面となる。３層には暗褐色土層が堆積しており、４層には粘土質土を多く含む灰褐色土となる。調査区東西の端からは３層が確認されておらず、２層の下にすぐに４層がくることから、調査区の中心部には小さな埋没谷があったと考えられる。

第３章　発見された遺構と遺物

１．住居跡

１号住居跡

（位置）Ｃ－３グリッド

（重複）なし

（形状）方形を呈するが、少しゆがんでいる。

（床面）北東部の焼土が検出された付近が硬くしまっている。それ以外は、さほど踏み固められてはいない。

（施設）北壁中央部から東壁、そして南壁の途中にかけて１条、西壁に１条、周溝が巡っている。住居の北東部には焼土が検出されており、その付近には人頭大の礫が５個検出されていることから、カマドの跡とも考えられたが、はっきりとは判別できなかった。柱穴と考えられるピットは４基検出されている。

（遺物出土状況）全部で260点ほど遺物は出土しているが、住居の東寄りに固まって出土する傾向にある。そのうちロクロ甕は小片も合わせると100点出土しており、最も多く出土している。

（遺物）第19図。１は甲斐型の坏である。内面には放射状に暗文がみこみ部まで施されている。６～８はロクロ整形甕である。５、６は小型の甕であり、７は大型の長胴甕である。ロクロによるナデが明瞭に見られるほかは、カキメなどはみられない。

（時期）第19図１から甲斐型編年（甲斐型土器研究グループ1992）Ⅶ期（９世紀前半）と考えられる。ロクロ整形の長胴甕が出土していることからも、９世紀前半としておきたい。

２号住居跡

（位置）Ｃ－４グリッド

（重複）３号住居跡を切っている。

（形状）隅丸方形を呈する。

（床面）カマド付近と住居中央部が硬く踏み固められている。

（施設）東壁中央部に２号カマド、南壁東端部に１号カマドが構築されている。両者とも、袖石、天井石ともに原位置をとどめているものはなかったが、カマドの上部からはカマドを構築していたと考えられる礫が浮いた状態で出土している。

（遺物）第19・20図。９は黒色土器の坏である。10は甲斐型の蓋である。縁部に向かってやや内湾しながら開いていく。縁部は内側に向かい屈曲している。外面はロクロケズリ、内面はヘラミガキにより整形されており、放射状の暗文が描かれている。14～21は甲斐型甕である。20以外については、口径がほぼ20cm付近に集中する。

（遺物出土状況）全体的に、２つのカマド付近に遺物は固まって出土している。特に最も多く出土している甲斐型甕、ロクロ甕については、カマド付近に集中する。またカマド付近から出土しているものについては床面近くから出土しているものが多く、これらの遺物が住居の廃棄年代を示しているものと思われる。器種としては坏の出土が少なく、特に甲斐型坏については、小片が覆土中に散在するのみである。

（時期）出土遺物より甲斐型編年Ⅸ期（９世紀後半）と考えられる。

３号住居跡

（位置）Ｃ－４グリッド

（重複）２号住居跡に切られている。

（形状）隅丸方形を呈する。

（床面）覆土よりはやや硬いものの、全体的にそれほど踏み固めているような硬さではなかった。

床面北西部を中心にして炭化物が多く検出されている。

（施設）東壁寄りに深さ５cmほどの浅いピットが検出されている。

（遺物）第20図。大型の広口有段壷が２個体出土した（23、24）。23は外面、内面ともにハケメを施しているが、特に内面の方が顕著である。口縁部の段には、ハケメの工具

による刺突文がみられる。24は内面外面ともに明瞭なハケメはみられないが、肩部に、ハケ状工具による3段の短い刺突がなされている。口縁部の内面は丁寧に磨きがされている。25はS字甕である。肩部を境として羽状のハケメが施文される。横ハケメは見られない。

（遺物出土状況）北西部からは大型の壷2個体、小型壷1個体、器台1個体が床面に置いたまま放置されたようにまとまって検出されている。北壁際中央にS字甕がまとまって出土している。

（時期）出土遺物より古墳時代前期、小林健二氏の編年（小林1998、以下小林編年という）Ⅳ期と考えられる。

4号住居跡

（位置）B－4，B－5グリッド、C－4，C－5グリッド

（重複）なし

（形状）隅丸方形を呈する。

（床面）炉周辺が固くしまっているほかは、さほど踏み固められてはいない。

（施設）住居中央やや南西寄りに炉が構築されていた。燃焼面は検出されたものの、焼土の堆積は多くはない。各コーナー近くに柱穴と考えられるピットが検出された。

（遺物）第21図。28はS字甕である。内面にはハケメを施した後、ユビオサエを行っている。ヨコハケメはみられない。他には小型壷、小型丸底鉢、高坏の脚部が出土している。

（遺物出土状況）遺構の落ち込み自体も極めて浅く、遺物も100点ほどしか出土していない。

小型壷は北壁周辺から1個体出土した。S字甕は住居の中心部に集中して出土している。

（時期）出土遺物より古墳時代前期、小林編年Ⅳ期と考えられる。

6号住居跡

（位置）B－5，B－6，C－5，C－6グリッド

（重複）なし

（形状）隅丸方形を呈する。

（床面）全体的に床面は硬く踏みしめられているが、南壁周辺だけはやや硬さが弱かった。

（施設）南西のコーナー付近に長軸121cm、短軸98cm、深さ63cmほどの貯蔵穴が検出された。貯蔵穴付近の覆土中からは焼土がまとまって検出されているが、床面よりも40cmほど高い位置から検出されており、住居に直接ともなうものではない可能性がある。南壁下には深さ10cmほどの周溝が検出されている。

住居中央やや北東寄りからは深さ5cmほどのピットが列状に配置されるように検出されている。住居の西側からはピットは検出されていない。

住居北壁中央部付近にはピットが4基検出されており、そのうち3基は一直線に並んでいる。これらは入り口部の施設に伴うものの可能性がある。

（遺物）第21図。36は大型の加飾広口壷である。口縁部には2条の垂下隆帯が6単位貼付られている。隆帯のすぐ下の肩部にはボタン状の貼付文が施文されている。外面については全面丁寧なミガキが施されている。37は直口縁壷である。あまり明瞭ではないが内・外面ともにハケメが施されている。胴部下半部には強い被熱痕がある。40は高坏である。坏部は碗形を呈している。器面全面に丁寧にミガキが施されている。41、42は小型丸底鉢である。外面はヘラケズリ、内面は斜めにミガキが施されている。

（遺物出土状況）住居北西部からは大型の壷が床面よりやや浮いた状態で出土している（第11図）。3重、4重にも重なるようにして出土しており、散在している小片が数点見られるが、ほぼ全て北西部の狭い範囲に集中して出土していることから、ただ単なる廃棄行為の結果とは考えにくい。

貯蔵穴からは小型丸底鉢が覆土中から、S字甕が底部付近から出土している。

（時期）出土遺物より古墳時代前期、小林編年Ⅳ期と考えられる。

7号住居跡

（位置）D－5，D－6グリッド

（重複）なし

（形状）隅丸方形を呈する。

（床面）焼土付近が固く踏み固められている。

（施設）北壁中央やや東寄りに2号カマド、東壁中央部に1号カマドと、2基カマドが構築されていた。2号カマドは遺存状態が良く袖石、天井石ともによく残存しており、燃焼部中央には支脚石も検出された。燃焼面は床面より約10cmほど掘り下げて構築されており、焼土も良く残っていた。煙道についても焼土がはっきりと残されていた。1号カマドには北側の袖石は残されていたものの、南側の袖石、天井石については残存していなかった。

床面よりやや浮いた位置からは炭化材が大量に検出されており、炭化材は多くのものが中心部から放射状に検出された。住居中心部からは不定形の被熱部が2ヶ所検出されていることからも、焼失住居と考えられる。

（遺物）第22図。51は須恵器の高台付坏である。底部外面はやや外側に膨らみ、高台部も外側に向かいつけられ

ている。
（遺物出土状況）全体的に覆土中からの出土が少なく、ほとんどが床面直上からの出土である。坏の出土が極めて少ないのが特徴で、図示できるものはピットから出土した須恵器の高台付坏の１点だけである。２号カマドからは甲斐型甕１個体が出土している。
（時期）出土遺物より９世紀中頃と考えられる。

8号住居跡
（位置）Ｃ－７グリッド
（重複）なし
（形状）隅丸方形を呈する。
（床面）全体的に踏み固められているが、特にカマド周辺が固い。
（施設）東壁中央やや南寄りにカマドが構築されていた。袖石は北側、南側ともに残存していたが天井石については検出されなかった。燃焼面の中央部付近からは支脚石が２つ検出された。幅の細い礫を袖石に使用しているためか、袖石を床面から20cm以上も埋め込んでカマドを構築していた。
南東部のコーナーには、地山を掘り残すことで構築した階段状の段差が検出された。
（遺物）第22図。52は甲斐型の坏である。外面は口縁部にかなり近い位置までヘラケズリを行った後、底部に近い位置からさらにもう一度ヘラケズリを行っている。底部にもヘラケズリがある。内面にはヘラミガキがなされており、放射状に暗文が描かれている。器形は口縁部に近いところからやや外反している。53は土師器坏である。外面にはヘラケズリが施されるが、内面のヘラミガキは施されていない。54は甲斐型の蓋である。ロクロナデにより整形した後、外面の上半部はロクロケズリを行っている。内面はヘラミガキが丁寧に行われており、同心円状の暗文が施されている。
（遺物出土状況）南東部からカマドにかけて集中して遺物が検出されている。カマドからは燃焼面を覆うように甲斐型甕が出土しており、黒色坏なども検出されている。
（時期）出土遺物より９世紀後半と考えられる。

9号住居跡
（位置）Ｅ－８グリッド
（重複）１号溝に切られている。
（形状）隅丸方形を呈する。
（床面）全体的に踏み固められている様子はなかった。
（施設）カマドは検出されなかったものの南西部からは人頭大の礫が６個ほどまとまって出土しており、遺物もこの付近に集中することからも南壁の西側付近にカマドがあった可能性が高い。住居の北側の床面から７～８cmほど浮いた位置から炭化物が大量に検出されている。炭化物の遺存状態は非常に良く、硬くしまっていたため、これらの炭化物はこの住居に伴うものではなく後代の炭焼きなどに伴うものと考えていたが、分析の結果平安時代に比定されたことから本遺構に伴うものと考えられる。
（遺物）第23図。58～60は土師器の坏である。下半部のヘラケズリは施されておらず、胎土の色調は甲斐型坏と比べると白味が強く、赤色粒子も少ない。62～64は甕である。やはり、胎土は雲母、赤色粒子などの混合物が少なく、内・外面に施されるハケメも甲斐型甕に比べると幅が広い。65は羽釜である。外面にタテハケメ、内面にはヨコハケメが施されており、甲斐型と製作技法は同じであるが、やはり混合物が少なく、色調の違いなど胎土が甲斐型とは異なっている。
（遺物出土状況）杯・甕は、住居全体から出土している。羽釜は、住居中央部の床面直上や掘り方直上からまとまって出土している。
（時期）出土遺物より10世紀半ばと考えられる。

10号住居跡
（位置）Ｅ－８グリッド
（重複）なし
（形状）隅丸方形を呈する。
（床面）全体的に硬く踏みしめられていたが、中央部に近い方では特に硬かった。
（施設）半分以上が調査区外になっているため、カマドなどは検出できなかった。西壁の南側から南壁、さらに東壁の南側にかけて壁際に周溝がめぐっていた。南壁には壁と周溝を切るように２基のピットが検出された。
（遺物）第23図。71は甲斐型坏である。墨書土器であり、書かれている文字はおそらく「人」であろう。
（遺物出土状況）遺物は非常に少ない。甲斐型の坏が床面直上から、須恵器甕が覆土の中層から出土している。
（時期）出土遺物より９世紀半ばと考えられる。

２．掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡
（位置）Ｄ－7，Ｄ－8，Ｅ－7，Ｅ－８グリッド
（重複）なし
（形状）長方形
（規模）1.88m×1.55m
（柱穴等）柱穴は６本検出されている。ピット個々の詳細は第６表に記載している。それぞれ平面形は円形を呈

し、径は24～42cm、深さは18～28cmを測る。
（遺物）ピット１からは縄文時代晩期の浮線文系土器が出土している。ピット３からは甲斐型坏の破片が出土している。ピット４からは縄文時代晩期の条痕文系土器の小片が出土している。
（時期）出土遺物からは縄文時代晩期の遺構かとも考えられたが、覆土は平安時代の住居と同じ黒色土であることや、その形状などから平安時代の掘立柱建物跡と考えるのが妥当と考えた。

３．土坑

１号土坑

（位置）Ｃ－３グリッド
（重複）なし
（形状）不整円形
（規模）長軸80cm、短軸56cm、深さ34cmを測る。
（遺物）第23図70の須恵器甕が出土している。
（遺物出土状況）遺構確認面で人頭大ほどの礫が３個検出され、そのすぐ下から須恵器甕が検出された。
（時期）平安時代

４．溝

１号溝

（位置）調査区の東側を南北に走る。
（重複）９号住居跡を切っている。
（形状）幅42～50cm、深さ12～20cmを測る。
（遺物）遺物は縄文土器、土師器を中心に出土しているが、ほとんどが流れ込みによるものであろう。
（時期）平安時代の９号住居跡の廃絶後に作られたので、平安時代以降のものである。

５．遺構外出土遺物

包含層の残りがよくなかったことから、遺構外からの遺物はそれほど多くはない。遺物個々の詳細は第７表に記載した。ここでは特に特筆すべきものだけを取り上げておきたい。

縄文時代

前期～晩期まで幅広く出土しているが、中期の遺物がやや多い。

晩期の土器については、浮線文系と条痕文系の２群に分かれる。浮線文系土器は器種を見ると深鉢、浅鉢とあるものの、口縁部の構成は２～３本の平行沈線が描かれているものに限られている。条痕文系土器は小片のものが多く全体の構成が判別できるような資料はないが、126については条痕文を施文後、「く」の字形の沈線が施文されている。

139は耳飾である。中心と四方に合わせて５つ表面に突起状の貼り付けをしてあったことが確認されたが、そのうち４つはすでにはがれてしまっており、１つしか残っていない。

144～148は石鏃である。

古墳時代

131は古墳時代前期のＳ字甕の口縁部である。胴部は口縁直下の一部しか残存していないが、ヨコハケメは施されていないことから、小林編年Ⅳ期と考えられる。

第４章　住居跡・出土炭化材の年代と樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条に所在する蟻塚遺跡は、舌状台地に挟まれた標高650m前後の小規模な谷の斜面及び平坦地に立地している。本遺跡の発掘調査の結果、古墳時代前期及び平安時代の住居跡や、溝状遺構・土坑などの遺構や、当該期の土器や須恵器などの遺物が確認されている。

本報告では、古墳時代前期及び平安時代の住居跡より出土した炭化材を対象に、放射性炭素年代測定及び樹種同定を行い、遺構の年代や木材利用の検証を行う。

１．試料

試料は、３・７・９号住居跡から出土した炭化材17点である。以下に、各住居跡の発掘調査時の所見及び試料とした炭化材の出土状況について示す。

・３号住居跡

２号住居跡によって住居跡南東部が破壊されており様相は不明であるが、検出された平面プランから方形を呈する住居跡と考えられる。住居跡北側からは、壷・甕・器台などの土器がまとまって出土しており、これらの遺物から４世紀後半の年代が想定されている。また、炭化材は、住居跡北西部に偏在する傾向が認められている。試料とした炭化材は、床面近くから出土した３点（1,613,616）である。

・７号住居跡

住居跡平面形は隅丸方形を呈し、出土遺物などから９世紀中頃の遺構と想定されている。炭化材は、住居跡中心部より放射状に出土し、壁際からも確認されている。

試料とした炭化材は、床面直上及び床面付近より採取された３点と、壁際より採取された10点の計13点である。

・９号住居跡

住居跡平面は方形を呈し、10世紀半ばの遺構と想定されている。炭化材は、住居跡北側の覆土中より大量に出土しており、硬質で遺存状況も非常に良好であることが確認されており、後代の炭焼きに由来する可能性も示唆されている。試料とした炭化材は、覆土中より一括採取された試料中より選択された２点である。

これらの炭化材については、放射性炭素年代測定試料を選択・抽出するため、肉眼観察を行った。ただし、試料は、いずれも細片化していたため、本来の形状を推測することは困難であった。上記の各試料の詳細は、分析結果と共に第２表に記す。

２．分析方法

⑴放射性炭素年代測定

測定は株式会社加速器研究所の協力を得て、β線計数法により行った。なお、放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,570年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（ＢＰ）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4（Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer）を用い、いずれの試料も北半球の大気圏における暦年校正曲線を用いる条件を与え計算を行っている。

⑵樹種同定

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

３．結果

⑴放射性炭素年代測定

結果を表２・３に示す。試料の測定年代（補正年代）値は、３号住居跡より出土した炭化材は約1700～2100年前（ＢＣ150～３世紀後半頃）、７号住居跡より出土した炭化材は約1200～1600年前（４世紀後半～８世紀後半）、９号住居跡より出土した炭化材は約900～1200年前（９世紀～11世紀後半）を示した。一方、これらの炭化物の測定年代を RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4 (Copyright 1986-2002 M Stuiver and PJ Reimer) を用い暦年較正を行うと、３号住居跡は紀元前４世紀～５世紀前半、７号住居跡は５～９世紀後半、９号住居跡は７世紀後半～13世紀中頃となる。また、各試料の暦年較正値より相対比の高い値を抽出し、遺構の年代観を比較しても、第３号住居跡では紀元前３世紀～５世紀前半、第７号住居跡では５世紀前半～９世紀後半、第９号住居跡では８世紀後半～13世紀前半の範囲となり、年代幅に大きな変化は認められない。

⑵樹種同定

結果を表１に示す。炭化材は全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。以下に、解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris*）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は１－２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１－20細胞高のものと複合放射組織とがある。

４．考察

⑴遺構の年代観

発掘調査時の所見による遺構の年代と本分析結果を比較すると、いずれも測定年代（補正年代）値及び暦年較正値は年代幅があり、考古学的な年代観と調和する結果やこれらの年代観と異なる結果が混在している。このような状況については、炭化材が試料であることを考慮すると、用材とした部位の影響や古材等の再利用などの要因が推測される。

⑵木材利用

各住居跡より出土した炭化材は、全てクヌギ節であった。クヌギ節は、重硬で強度の高い材質を有する種類である。また、クヌギ節は、国内ではクヌギとアベマキの２種があり、山梨県内ではアベマキは自生していないことから、今回の試料はクヌギの可能性がある。クヌギは、人里周辺の二次林の主構成種であり、現在の遺跡周辺にも生育するとされている（宮脇，1985）。また、３・７号住居跡の炭化材は、いずれも床面や壁際などから出土しており垂木や上屋に由来する住居構築材に由来する可能性がある。したがって、遺跡周辺に形成していた２次林から、強度の高いクヌギを選択的に利用したと考えられる。

ここで、長坂町内に所在する健康村遺跡の平安時代と考えられる住居跡より出土した炭化材の調査結果によれば、クヌギ節や近縁種のコナラ節が多数認められており（パリノ・サーヴェイ株式会社，1994）、本分析結果と調和的である。また、健康村遺跡の分析調査ではクヌギ節以外にスギ、ヒノキ属近似種、ハリギリなどが確認されていることから、クヌギ節以外の木材も利用されていた可能性がある。

一方、9号住居跡は年代測定結果では9～11世紀後半（補正年代値）の年代を示した。そのため、住居跡に伴う炭化材、あるいは、後代の炭焼きに由来する炭化材であるか、本分析結果から明確に示唆することはできない。なお、クヌギ節は、住居構築材としても強度の高い種類であることから有用材と判断される。一方、薪炭材としても国産材の中でも特に優良な木材とされている（平井，1979）ため、当遺構から出土したクヌギ節が住居構築材、あるいは炭焼きによる木炭であるか、樹種同定結果からも言及することは難しい。

引用文献

平井　信二，1979，木の事典　第2巻．かなえ書房．

宮脇　昭(編)，1985，日本植生誌　中部．至文堂，604p．

パリノ・サーヴェイ株式会社，1994，健康村遺跡自然科学分析調査報告．「山梨県北巨摩郡長坂町　健康村遺跡―（仮称）東京都新宿区立区民健康村建設事業に伴う発掘調査報告書―」，新宿区区民健康村遺跡調査団，116－128．

第5章　調査の成果と課題

縄文時代

本遺跡からは縄文時代の遺構は確認されなかったが、前期～晩期に至るまで遺物は確認されている。各時期の遺物の散布状態をみても、各時期において出土位置に偏りがないことから考えると（第26図）、これらの出土遺物は周辺の台地上などから流れ込んだものと考えてよいであろう。

晩期の土器については、すべて浮線網状文系の範疇でとらえられるものである。器種としては、甕、鉢、浅鉢などが推定できるが、破片資料のため詳細は不明である。口縁部は、口縁下に2～3条の平行沈線を巡らす（116～122）。胴部資料は細密条痕文が施されている。条痕文は極めて条幅が1㎜程度と極めて細密で条溝も浅い。口縁部と胴部が接合できた資料は無かったが、胎土も近似しており、焼成の具合などもよく似ていることから、これらの資料は口縁下に2～3本の平行沈線を巡らし、胴部に細密条痕文を施す中山分類、Ⅲ群深鉢C類に属するものであろう（中山　1985）。晩期終末期に位置づけられよう。129は条痕文を有するが、他の細密条痕文に比べると条間は一定しておらず条溝は深い。植物の枝茎を束ねたものを工具としたものと考えられる。小破片のため詳細な検討はできないが、中山編年Ⅳ期、弥生時代初頭に位置づけられる可能性がある。

本遺跡から台地を一つ挟み西側に展開する長坂上条遺跡においても浮線網状文系の土器がまとまって出土している。長坂上条遺跡は小さな舌状台地上に位置しており、本遺跡とも地形が良く似ていることから、本遺跡の周辺にも長坂上条遺跡と同じように晩期の集落が展開している可能性は高い。また長坂町中丸に所在する健康村遺跡からは、本遺跡と併行すると考えられる氷Ⅰ式の土器群が出土している。このように長坂町からは晩期終末期の資料が比較的豊富に出土している。しかし弥生時代初頭の資料が少ないため、縄文時代から弥生時代にかけての社会の動態は未だ捉えられていない。今後の資料の増加を待つとともに、これら縄文時代晩期終末の資料を、縄文から弥生へという大きな社会の変化のなかで、再度その歴史的意義を検討していかなくてはならないであろう。

古墳時代

本遺跡から出土した古墳時代の遺構は、3号、4号、6号竪穴住居跡の3軒である。3軒とも小林編年Ⅳ期に比定されることから、同時存在と考えてよいだろう。それぞれの床面積を比較すると、3号住13.1㎡、4号住15.9㎡、6号住75.9㎡となり、6号住居が圧倒的に大きいことが分かる。県内の古墳時代前期の住居跡サイズについては、平均で長軸5.64m、短軸5.11m、床面積で27.7㎡を測る（宮澤1999）。床面積が20～30㎡のものが圧倒的に多く、該期の一般的な住居の大きさといえよう。本遺跡の住居構成は、この一般的な大きさの住居は検出されておらず、小型の住居跡2軒と大型住居跡1軒の組み合わせとなっていた。

本遺跡からは、小林編年Ⅲ期以前と考えられる資料は遺構外からも検出していないことから、Ⅳ期になって集落が営まれはじめたと考えられる。八ヶ岳南麓地域においては、Ⅰ～Ⅲ期の資料は非常に少なく、唯一柳坪A遺跡3号住がⅢ期の住居と考えられるものであり、Ⅰ、Ⅱ期の資料は現在のところ確認されていない。住居跡の検出例は少ないものの長坂町北村遺跡からはⅢ期の方形周溝墓が発見されていることから、周辺にはⅢ期以前の集落が存在しているはずである。しかし本遺跡を含め長坂町龍角西遺跡、同酒呑場遺跡など、Ⅳ期から集落が営まれる例が極めて多いのが実状である。一方広く北巨摩地域を見渡せば、七里岩台地の先端にあたる坂井南遺跡や藤井平の後田遺跡などはⅠ期から集落が営まれていたことが確認されており、塩川や釜無川の流域や七里岩台地の先端部では古墳時代の初めから集落が確実に展開していたことが分かる。

八ヶ岳南麓地域においては北村遺跡の存在などからⅢ気以前にも人々が生活をしていたことは間違いないが、

これまでの調査事例からはⅣ期になり遺跡数が一気に増加していく傾向は捉えられる。東日本全体を通してみても、Ⅲ期からⅣ期の間には大きな社会的画期があったと考えられている。八ヶ岳南麓地域においてもこの時期に遺跡数の増加を促した大きな画期があったと考えてよいであろう。遺跡数の増加の背景については、今後八ヶ岳南麓地域ばかりではなく汎東日本的な視点から検討をしていく必要があろう。

平安時代

平安時代の遺構は住居跡６軒、掘立柱建物跡１軒、土坑１基である。ピット群については、縄文土器が出土しているものもあり、時期の判別は難しい。しかし該期の住居跡の覆土に良く似た黒色土であったので、ピット群についても平安時代の所産であると考えておきたい。

住居跡６軒の時期的な変遷について考えてみたい。９世紀の前半と考えられるのが１号住居跡、９世紀半ばと考えられるのが７号住居跡と10号住居跡である。９世紀後半と考えられるのが２号住居跡と８号住居跡である。９号住居跡は10世紀半ばの所産と考えられる。住居の時期とカマドの配置を考えると、

９世紀半ば…７号住居跡　カマド北壁、東壁
９世紀後半…２号住居跡　カマド東壁、南壁
　　８号住居跡　カマド東壁
10世紀半ば…９号住居跡　カマド南壁（？）

というようになり、時期が下るにつれて北壁から東壁へ、そして南壁へというようにカマドの位置が変化していく様子が分かる。

次に各住居から出土している土器の種別の割合をみてみる。まず甲斐型坏と黒色土器の坏を比べてみると、１号住、２号住、７号住、９号住では黒色土器のほうが多く出土している。重量で比較すると、特に１号住では甲斐型坏16ｇに対し黒色坏258ｇ、２号住では甲斐型坏25ｇに対し黒色坏296ｇと、圧倒的に黒色坏の出土量が多い。一方８号住、10号住は黒色坏に比べ甲斐型坏が多く出土している。10号住では黒色坏が１点も出土しておらず、８号住においてもその差は明瞭である。土師器坏についても住居ごとに出土量の差はある。古い時期には出土量は少なく、甲斐型土器が消滅していく10世紀半ばの９号住では甲斐型坏18ｇ、黒色坏31ｇに対し、土師器坏584ｇと圧倒的な出土量になる。このことから土師器坏の出土量の変化は、甲斐型土器の消滅に伴う、時期的な変化であるといえる。しかし、９世紀後半に比定される２号住居は黒色土器が多く、同じく９世紀後半の８号住居では甲斐型坏が多いように、同じ時期の住居においてもその割合は住居ごとに異なっていることから、甲斐型土器と黒色土器の出土量の違いは時期の違いによるものではない。両者の出土量の違いは何に起因するものなのかは分かっていない。黒色土器は長野県に分布の中心を持つ土器であり、県内では北巨摩地域に集中して出土する傾向がある。長野県との密接な関係を示すものとして考えられており（渡邊　2000）、平安時代の北巨摩地域を考えるうえでは重要な遺物である。遺跡や住居によってさまざまな出土状況があることから、今後遺跡ごとに黒色土器の出土状況を詳細に分析していくことが必要であろう。

前述したように甲斐型編年Ⅶ期に位置づけられる１号住からは、黒色土器が出土している。しかしこれまで北巨摩地域では一番古いもので韮崎市宮ノ前遺跡のⅥ期の住居跡から黒色土器が出土しており、Ⅶ期では検出されておらず、Ⅷ期から黒色土器が本格的に導入されてくると考えられてきた（渡邊　2000）。しかし今回１号住居跡から黒色土器が出土したことで、Ⅵ期に移入されはじめた黒色土器はその後も途切れることなく移入されていたことが分かった。しかし未だⅦ期での検出例はこの１遺構のみであることから、本格的に導入されるのはⅧ期になってからであったのであろう。

参考文献

大山柏・竹下次作・井出佐重　1941「山梨県日野春村長坂上条遺跡発掘調査報告」『史前学雑誌』13－３　史前学会

甲斐型土器研究グループ　1992『甲斐型土器　―その編年と年代』山梨県考古学協会

小林健二　1998「甲斐における古式土師器の成立―３・４世紀の土器編年と墳墓―」『専修考古学』第７号　専修大学考古学会

小宮山隆　1996『北村遺跡』長坂町教育委員会

小林青樹　1994「第３節　縄文時代晩期終末の土器群について」『健康村遺跡』新宿区区民健康村遺跡調査団

中山誠二　1985「甲斐における弥生文化の成立」『研究紀要』２　山梨県立考古博物館　山梨県埋蔵文化財センター

平野修・櫛原功一　1992『宮ノ前遺跡』韮崎市遺跡調査会

保坂康夫　1988「山梨県下における古代前半のロクロ整形土師器甕をめぐって」『山梨県考古学協会誌』第２号　山梨県考古学協会

宮澤公雄　1999「古墳時代の住居と集落」『山梨県史』資料編２　原始・古代２　考古（遺構・遺物）　山梨県

2000『紺屋遺跡　―第２次発掘調査報告書』紺屋遺跡発掘調査団

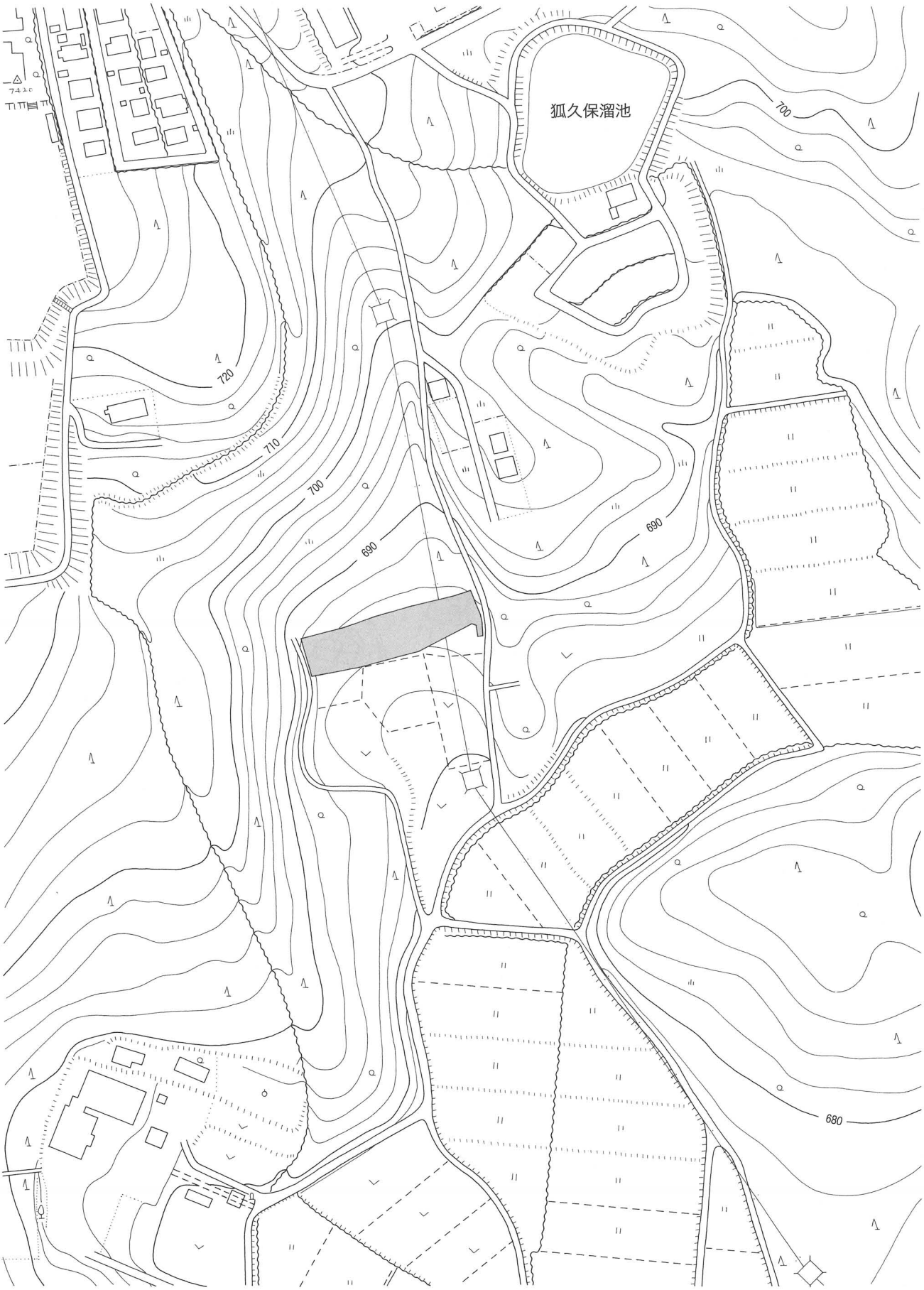
村松佳幸　2001『紺屋遺跡　―第１次発掘調査報告書―』長坂町教育委員会

2001『龍角西遺跡』長坂町教育委員会

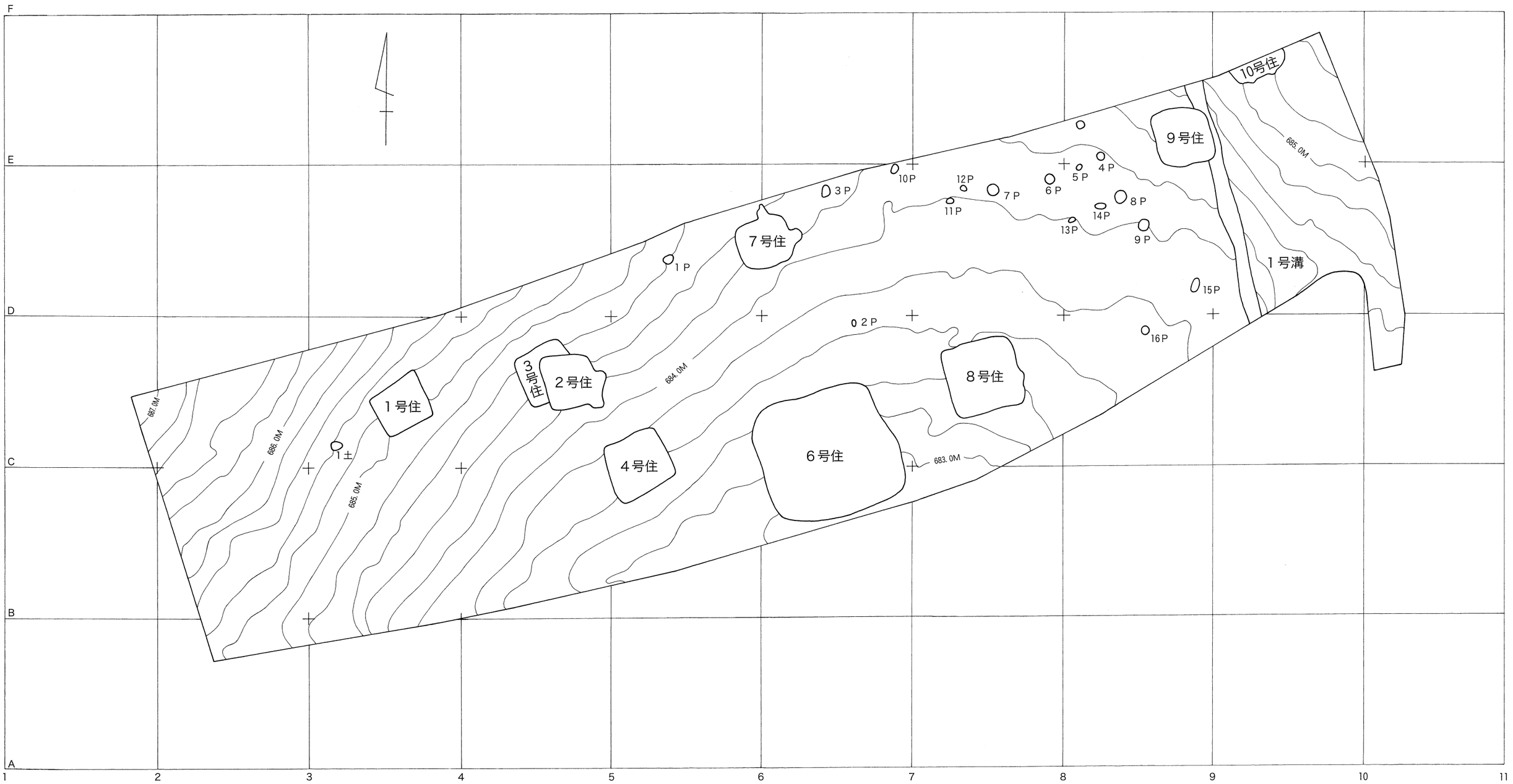
米田明訓　1986『柳坪遺跡』山梨県教育委員会

渡邊泰彦　2000「北巨摩地域における黒色土器の様相」『八ヶ岳考古』平成11年度年報　北巨摩市町村文化財担当者会

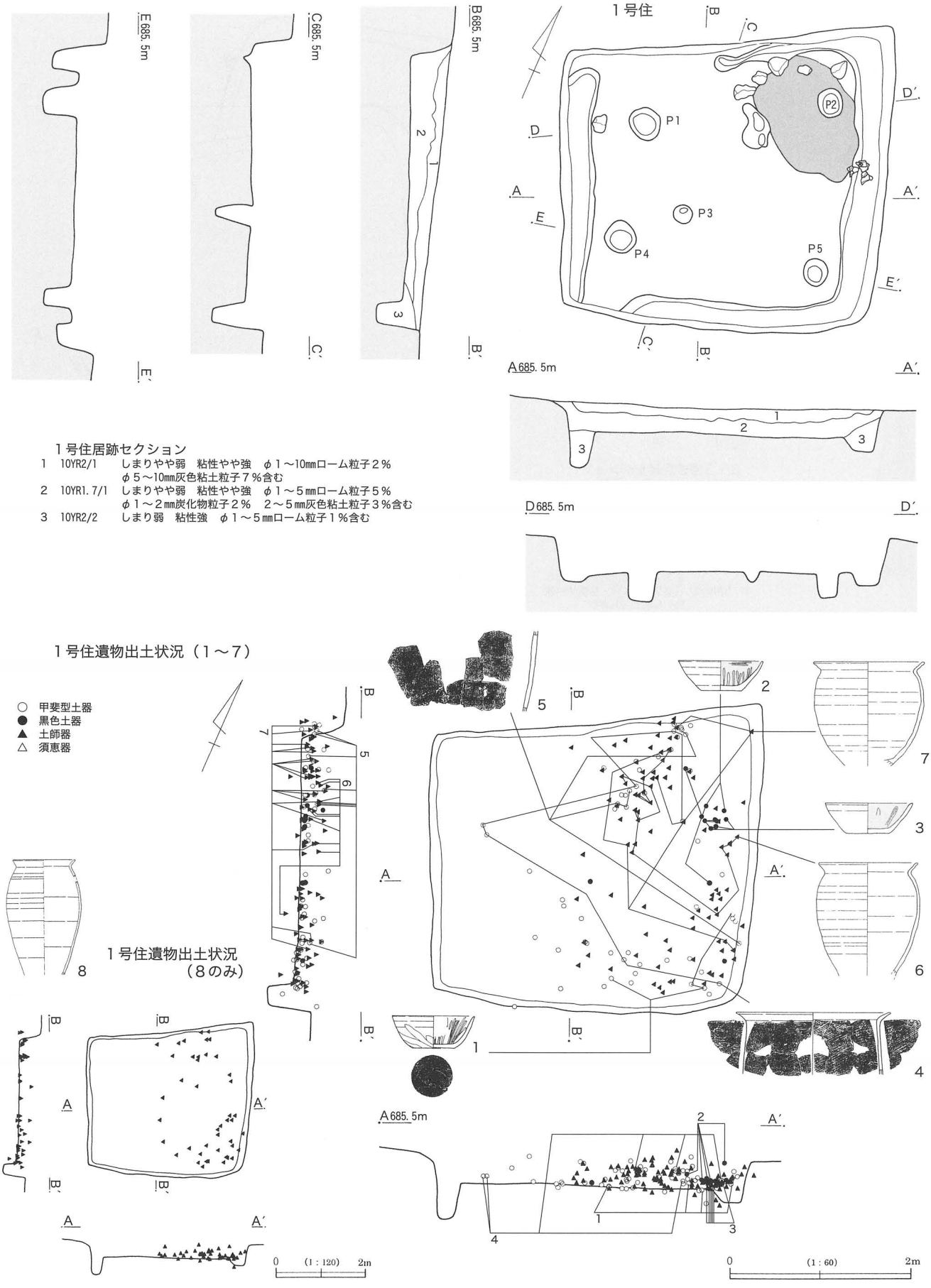
第１図　長坂町遺跡分布図



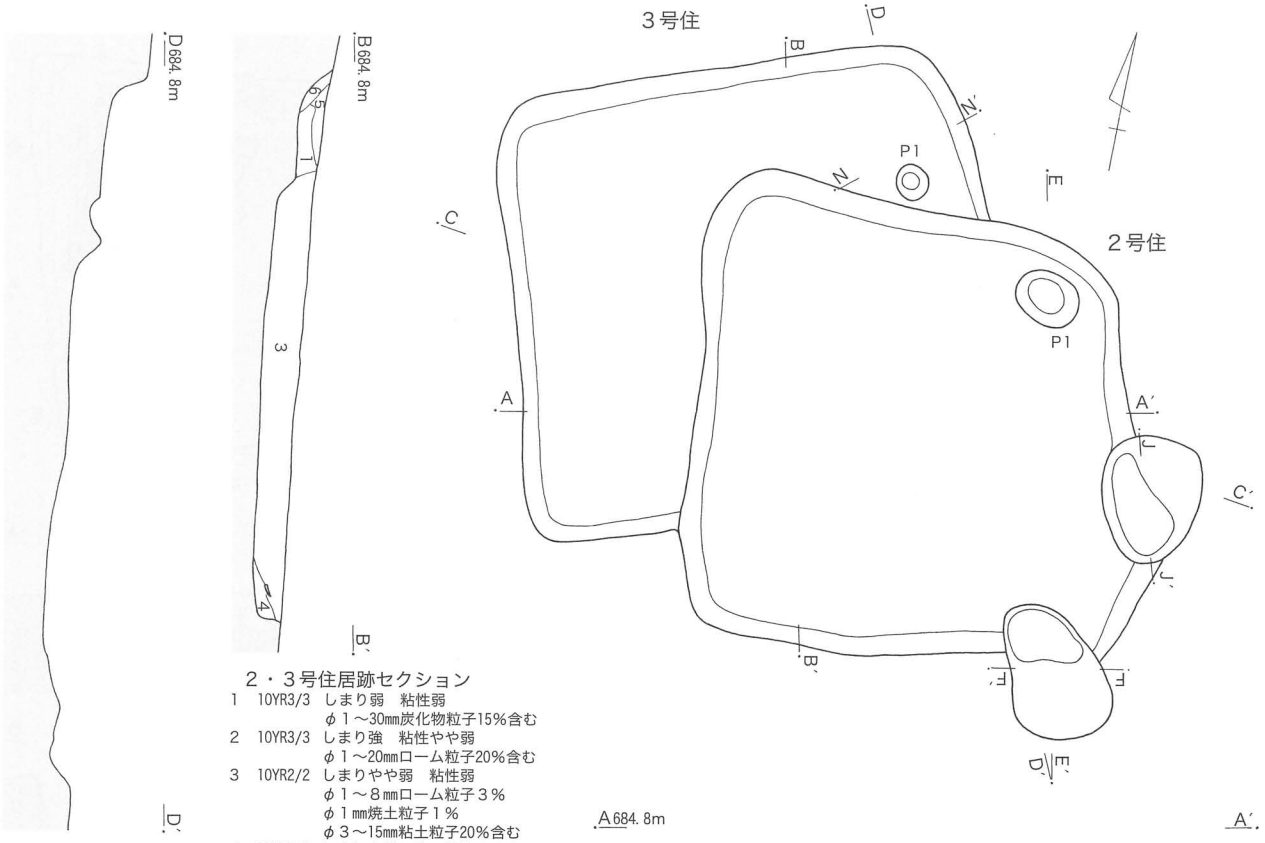
第２図　調査区配置図（１/2500）



第3図　調査区全体図（1/250）

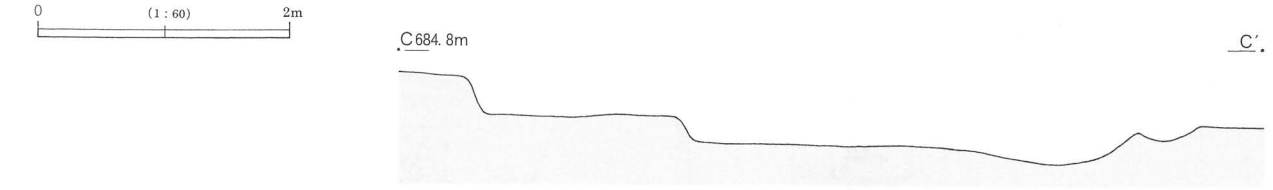


第4図　1号住居跡・1号住遺物出土状況



2・3号住居跡セクション

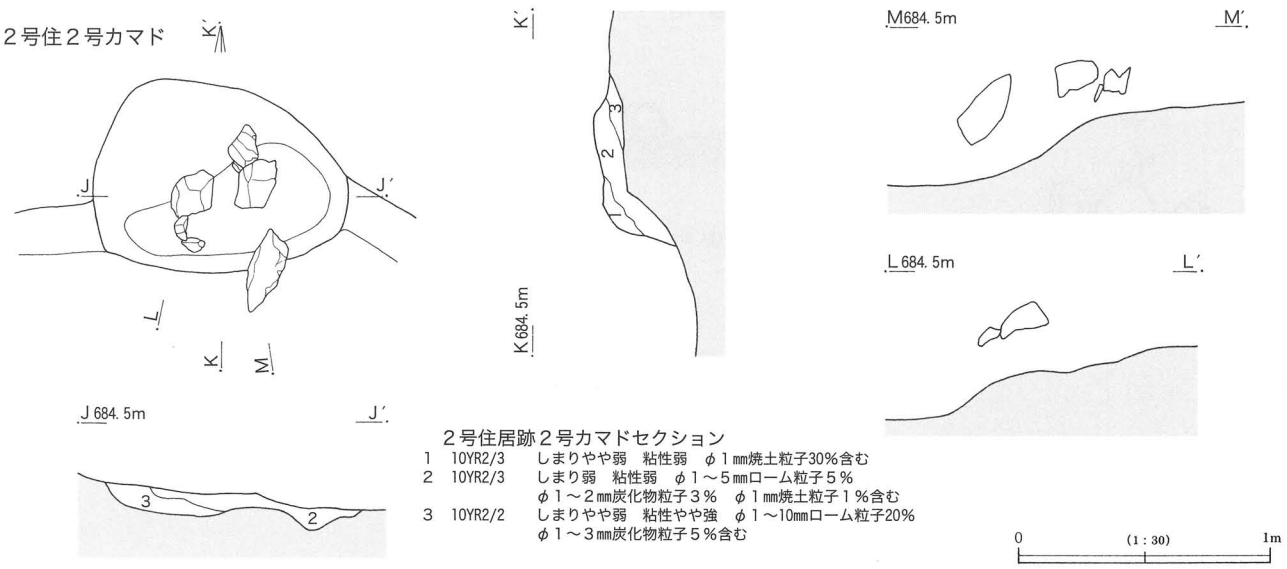
1 10YR3/3 しまり弱 粘性弱
φ1～30mm炭化物粒子15%含む
2 10YR3/3 しまり強 粘性やや弱
φ1～20mmローム粒子20%含む
3 10YR2/2 しまりやや弱 粘性弱
φ1～8mmローム粒子3%
φ1mm焼土粒子1%
φ3～15mm粘土粒子20%含む
4 10YR2/3 しまり非常に強 粘性やや強
ローム質土30%含む
5 10YR2/3 しまり弱 粘性弱
φ1～5mmローム粒子2%含む
6 10YR2/3 しまり強 粘性弱
φ1～5mm炭化物粒子7%含む

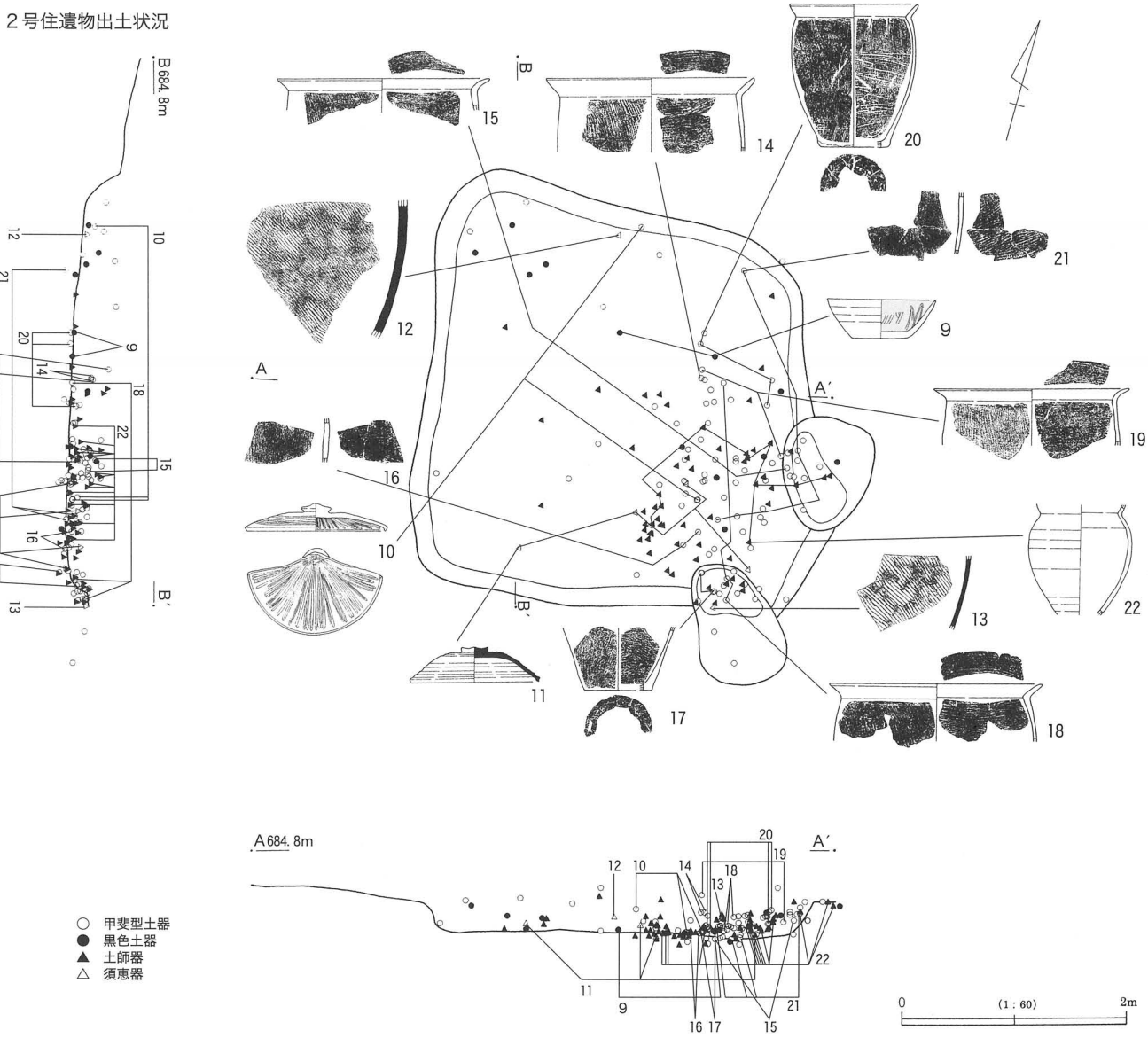


2号住居跡1号カマドセクション

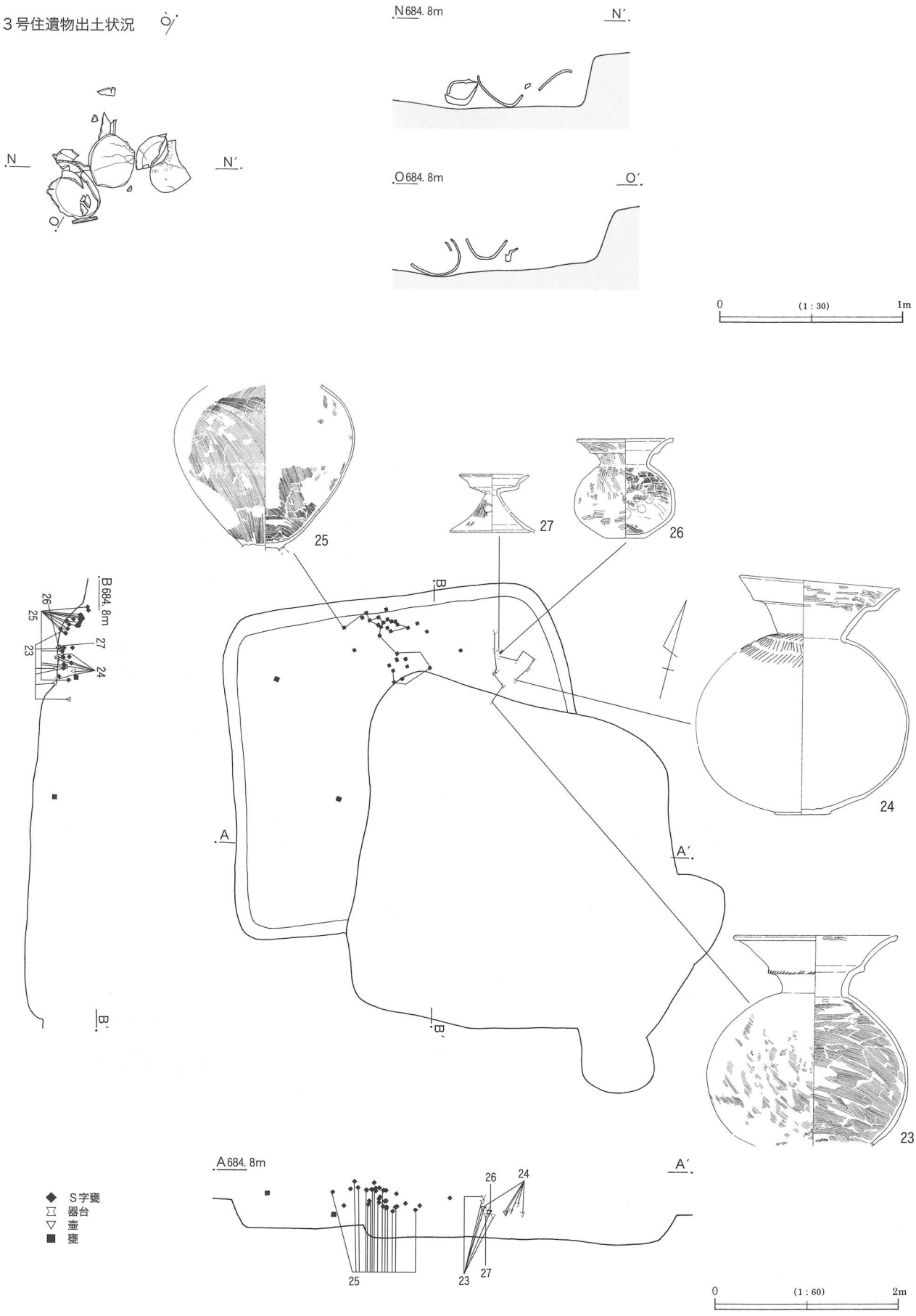
1 10YR2/2 しまり弱 粘性やや弱
1mm未満焼土粒子2%含む
2 10YR2/3 しまりやや強 粘性やや強
φ1～5mmローム粒子7%含む
3 10YR2/2 しまり弱 粘性やや弱
φ2～4mmローム粒子3%
φ1～5mm焼土粒子3%含む
4 10YR3/3 しまり弱 粘性弱 炭化物粒子30% 焼土粒子50%含む
5 10YR2/2 しまりやや弱 粘性弱
φ1～3mm炭化物粒子1% φ1mm焼土粒子20%含む
6 10YR2/3 しまりやや強 粘性やや強 φ1mmローム粒子5%含む

第5図 2・3号住居跡・2号住1号カマド

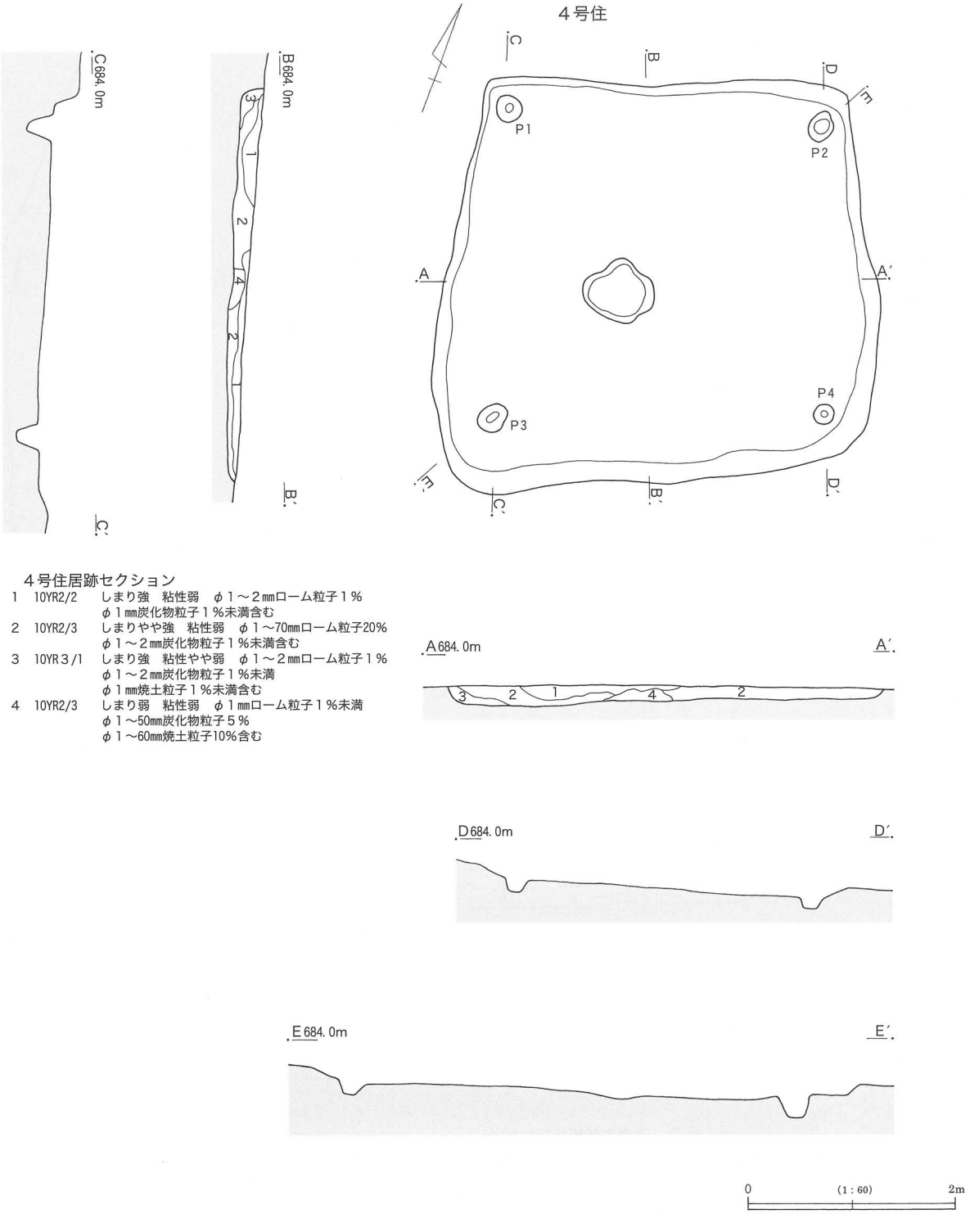




第６図　２号住２号カマド・２号住遺物出土状況



第７図　３号住遺物出土状況



4号住居跡セクション

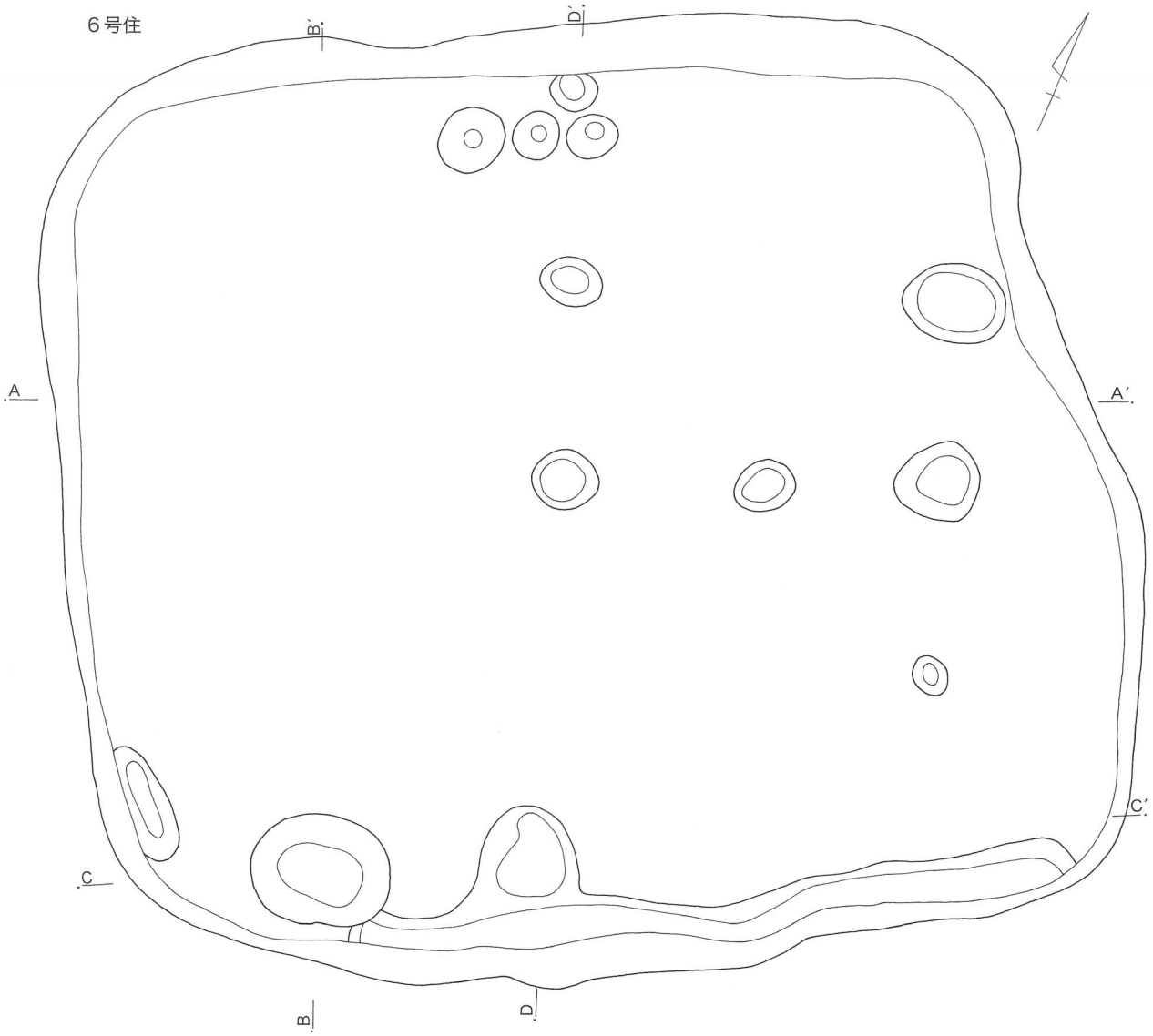
1　10YR2/2　しまり強　粘性弱　φ1～2㎜ローム粒子1％
φ1㎜炭化物粒子1％未満含む

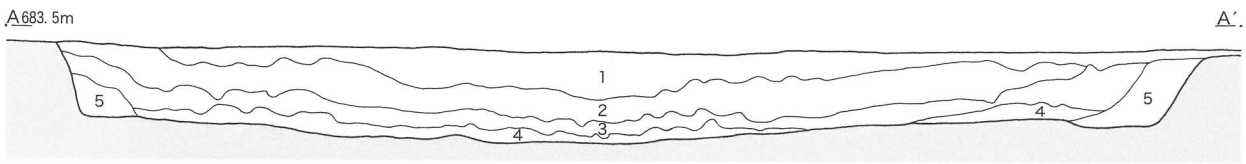
2　10YR2/3　しまりやや強　粘性弱　φ1～70㎜ローム粒子20％
φ1～2㎜炭化物粒子1％未満含む

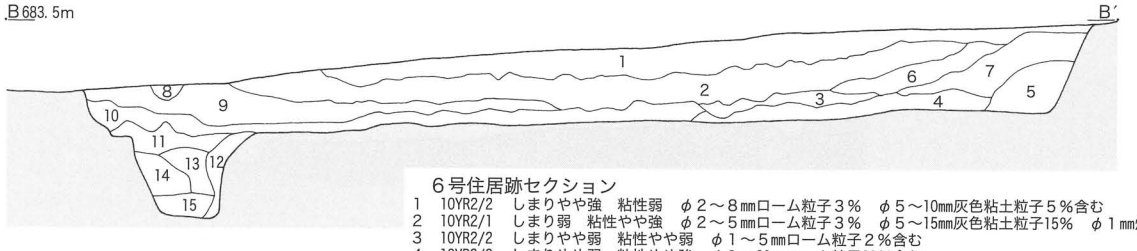
3　10YR3/1　しまり強　粘性やや弱　φ1～2㎜ローム粒子1％
φ1～2㎜炭化物粒子1％未満
φ1㎜焼土粒子1％未満含む

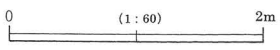
4　10YR2/3　しまり弱　粘性弱　φ1㎜ローム粒子1％未満
φ1～50㎜炭化物粒子5％
φ1～60㎜焼土粒子10％含む

第8図　4号住居跡





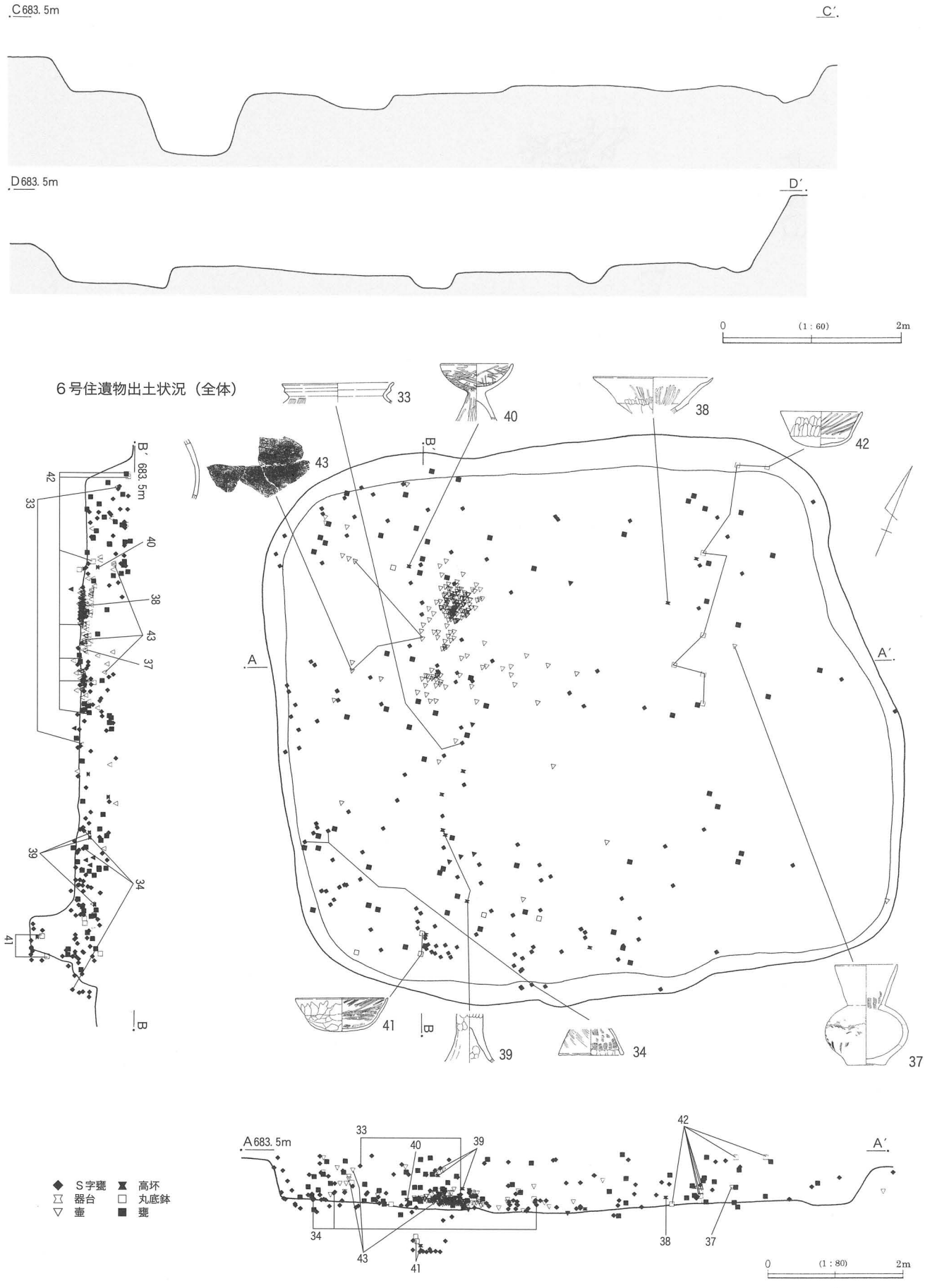




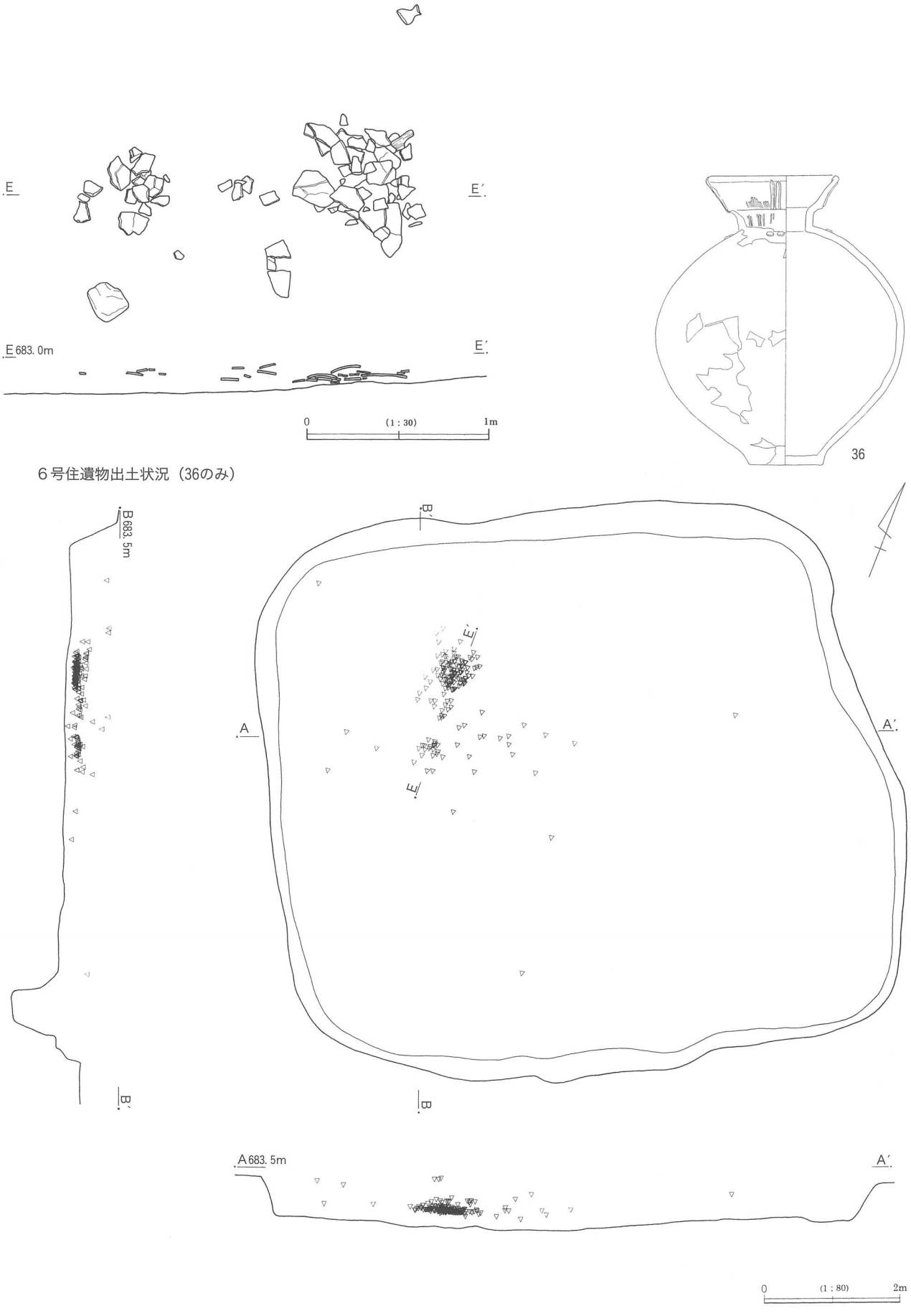
6号住居跡セクション

1	10YR2/2	しまりやや強　粘性弱　φ2～8㎜ローム粒子3％　φ5～10㎜灰色粘土粒子5％含む
2	10YR2/1	しまり弱　粘性やや強　φ2～5㎜ローム粒子3％　φ5～15㎜灰色粘土粒子15％　φ1㎜焼土粒子1％含む
3	10YR2/2	しまりやや弱　粘性やや弱　φ1～5㎜ローム粒子2％含む
4	10YR3/2	しまりやや弱　粘性やや強　φ1～20㎜ローム粒子30％含む
5	10YR3/3	しまりやや弱　粘性やや弱　φ1～2㎜ローム粒子2％含む
6	10YR3/3	しまり弱　粘性弱　φ1～3㎜ローム粒子2％含む
7	10YR2/3	しまりやや弱　粘性やや弱　φ1～5㎜ローム粒子5％　φ2～10㎜炭化物粒子3％含む
8	10YR2/2	しまり弱　粘性弱　φ1㎜以下ローム粒子1％含む
9	10YR2/3	しまりやや強　粘性弱　φ1～3㎜ローム粒子1％　φ1㎜焼土粒子1％含む
10	10YR2/3	しまりやや弱　粘性やや弱　φ1～8㎜ローム粒子3％含む
11	10YR2/2	しまり弱　粘性やや強　φ1～10㎜ローム粒子5％含む
12	10YR3/2	しまりやや強　粘性やや強　φ1～50㎜ローム粒子40％含む
13	10YR2/3	しまり弱　粘性強　φ1～3㎜ローム粒子5％　φ1～10㎜硬化粒子3％含む
14	10YR2/2	しまり弱　粘性やや強　φ1～3㎜ローム粒子3％含む
15	10YR2/3	しまりやや弱　粘性やや強　φ5～10㎜ローム粒子7％含む

第9図　6号住居跡

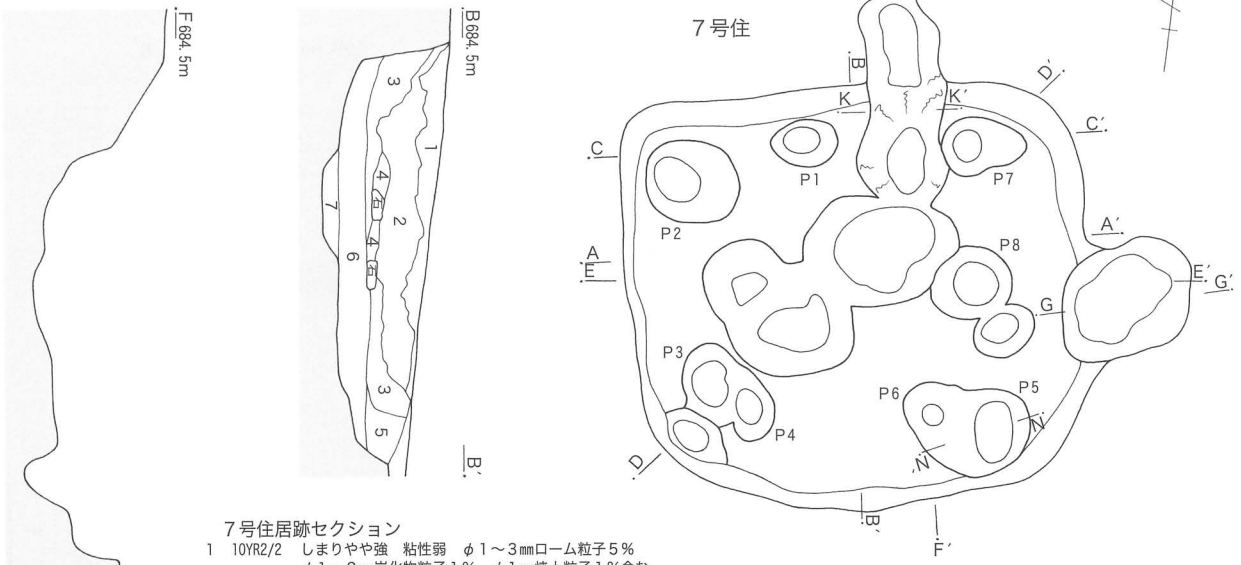


第10図　6号住遺物出土状況①



6号住遺物出土状況（36のみ）

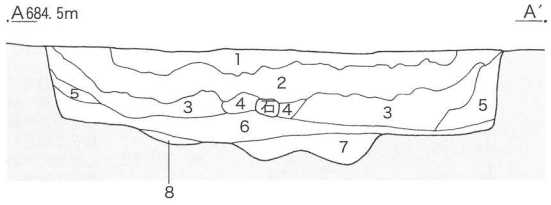
第11図　6号住遺物出土状況②



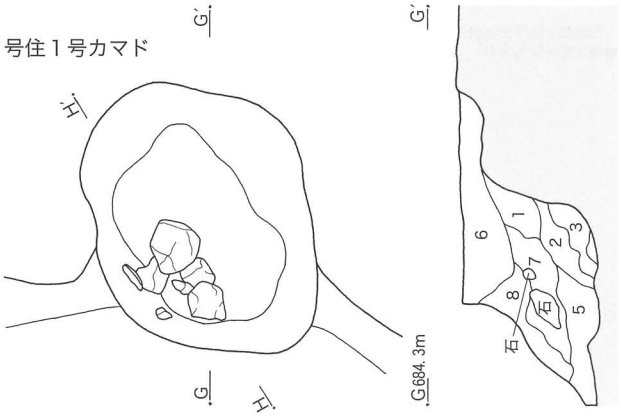
7号住

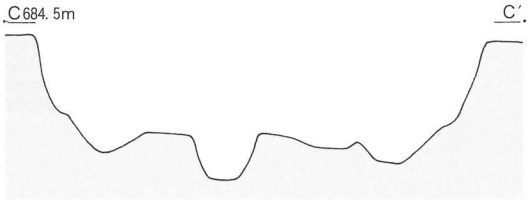
7号住居跡セクション

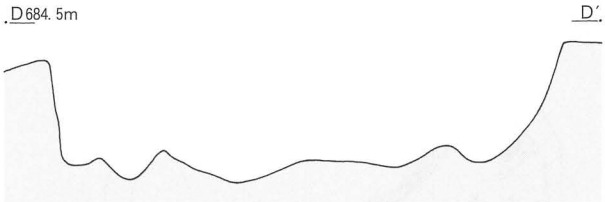
1　10YR2/2　しまりやや強　粘性弱　φ1～3㎜ローム粒子5％
φ1～2㎜炭化物粒子1％　φ1㎜焼土粒子1％含む
2　10YR2/3　しまりやや弱　粘性やや強　φ1～5㎜ローム粒子8％
φ1㎜炭化物粒子1％　φ1～3㎜焼土粒子3％含む
3　10YR2/2　しまりやや弱　粘性やや強　φ1㎜ローム粒子2％
φ1～20㎜炭化物粒子8％　φ1～10㎜焼土粒子8％含む
4　10YR3/3　しまりやや弱　粘性やや弱　φ1～20㎜ローム粒子25％
φ3～10㎜炭化物粒子7％　φ3～10㎜焼粒子土5％含む
5　10YR3/3　しまりやや強　粘性やや弱　φ1～5㎜ローム粒子1％
φ2～5㎜焼土粒子3％含む
6　10YR4/4　しまり強　粘性やや強　φ1～5㎜ローム粒子10％
φ1～3㎜白色粒子5％含む
7　10YR3/3　しまりやや弱　粘性やや強　φ1～3㎜
炭化物粒子2％含む
8　10YR3/3　しまり強　粘性弱　φ1～3㎜ローム粒子5％
φ1～5㎜炭化物粒子7％含む

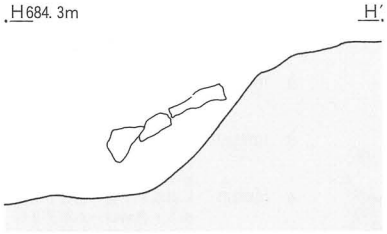


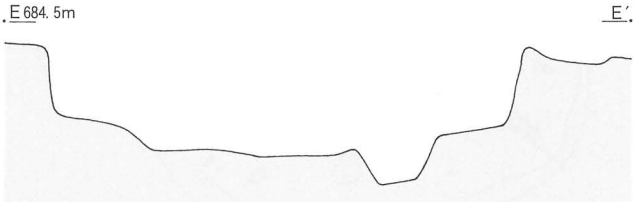
7号住1号カマド











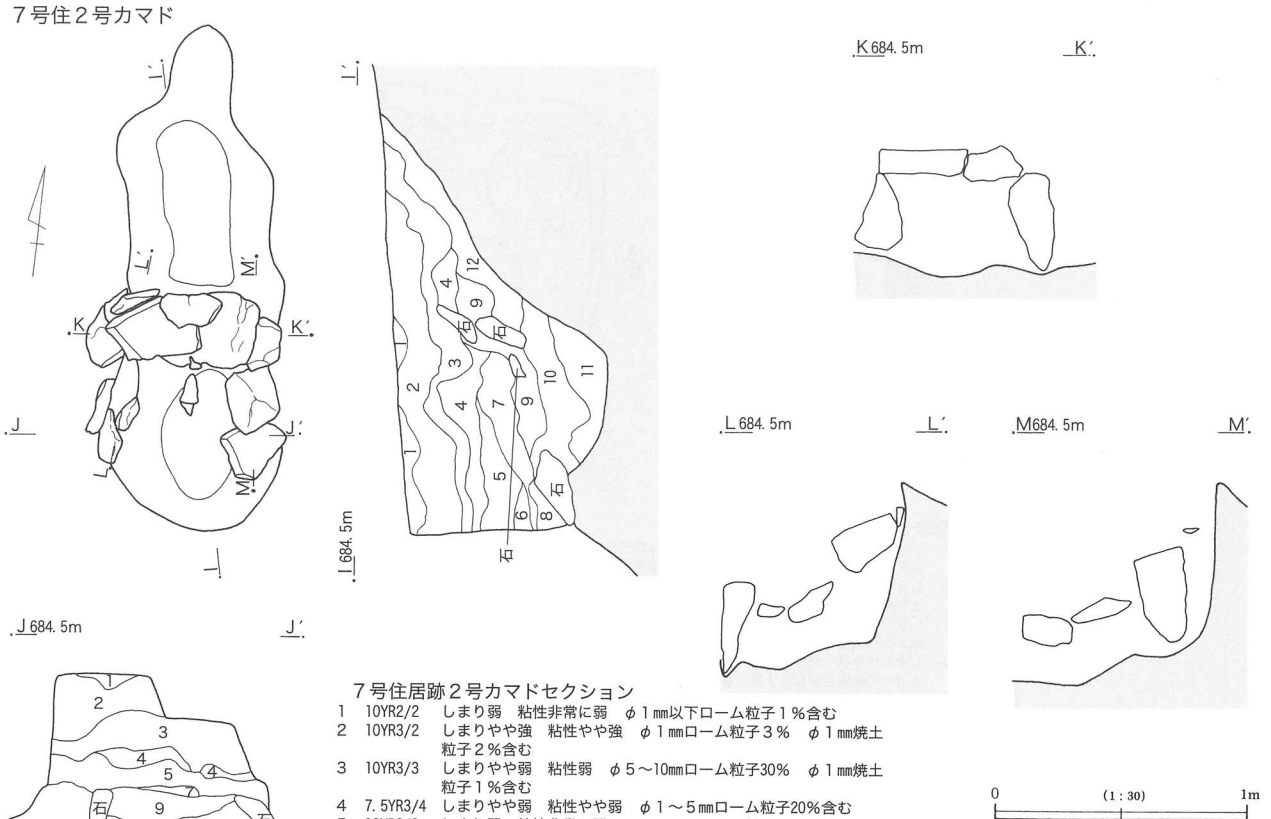
7号住居跡1号カマドセクション

1　10YR3/3　しまりやや弱　粘性やや弱　φ1～2㎜焼土粒子1％含む
2　10YR3/3　しまりやや強　粘性やや弱　φ1～2㎜ローム粒子1％　φ1㎜焼土粒子2％含む
3　10YR3/3　しまり強　粘性やや強　φ1～2㎜ローム粒子2％含む
4　10YR4/4　しまりやや弱　粘性やや強　ローム質土80％含む
5　7.5YR3/3　しまり弱　粘性弱　φ1～5㎜焼土粒子20％含む
6　10YR2/2　しまりやや強　粘性弱　φ1～3㎜ローム粒子5％　φ1～2㎜炭化物粒子1％　φ1㎜焼土粒子1％含む
7　10YR2/3　しまり強　粘性弱　φ1～5㎜ローム粒子3％含む
8　10YR2/2　しまりやや弱　粘性やや強　φ1～5㎜ローム粒子8％　φ1㎜炭化物粒子1％　φ1～3㎜焼土粒子3％含む

0　(1：30)　1m

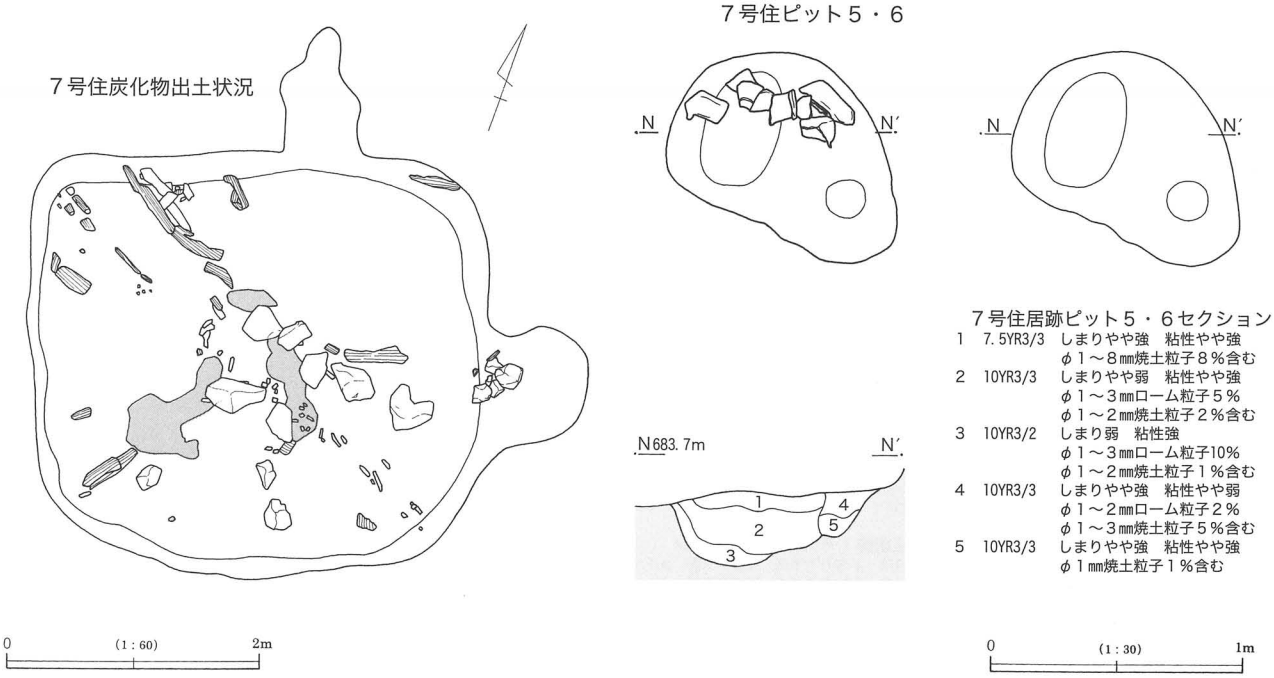
0　(1：60)　2m

第12図　7号住居跡・7号住1号カマド



７号住居跡２号カマドセクション

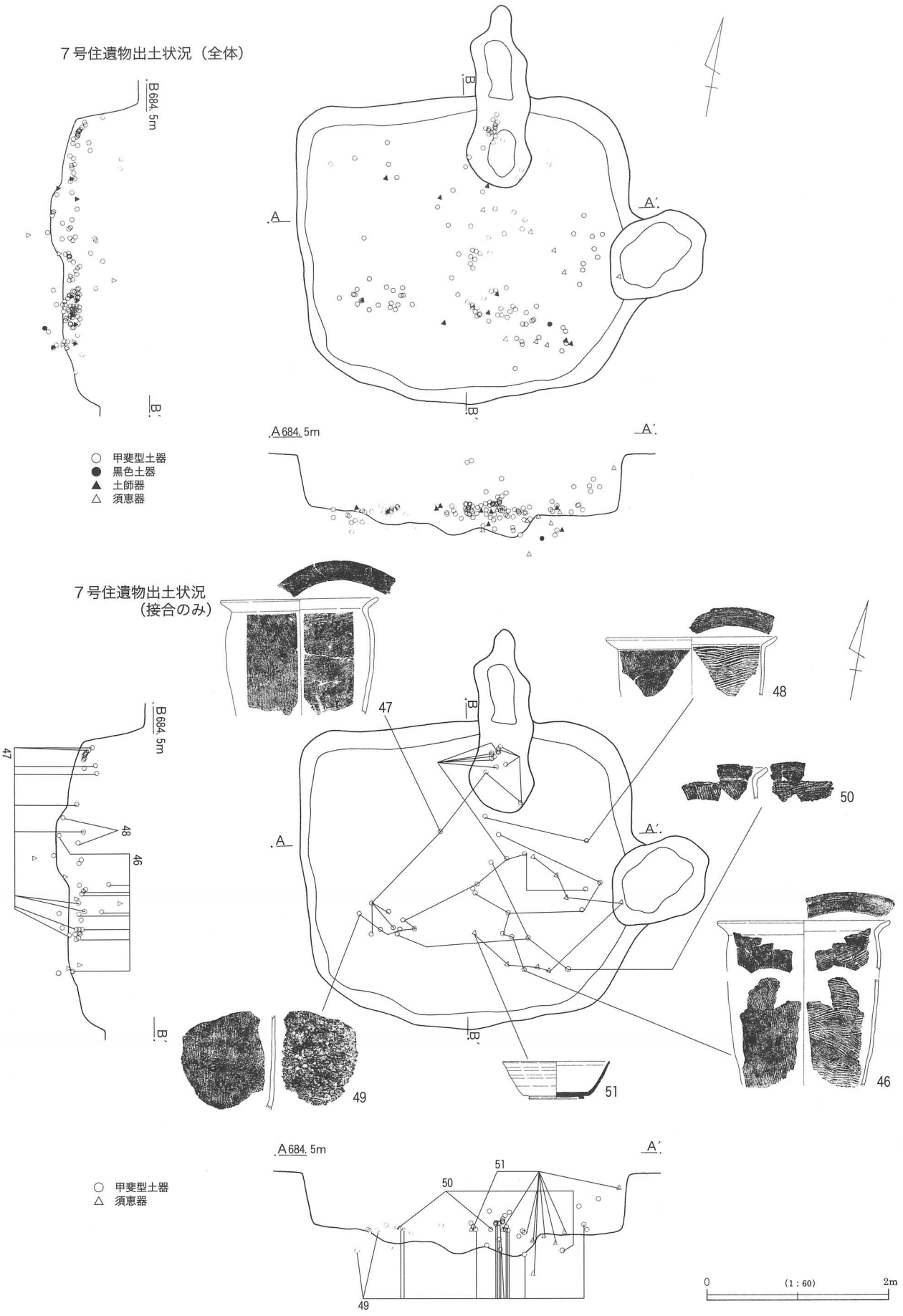
1　10YR2/2　しまり弱　粘性非常に弱　φ１㎜以下ローム粒子１％含む
2　10YR3/2　しまりやや強　粘性やや強　φ１㎜ローム粒子３％　φ１㎜焼土粒子２％含む
3　10YR3/3　しまりやや弱　粘性弱　φ５～10㎜ローム粒子30%　φ１㎜焼土粒子１％含む
4　7.5YR3/4　しまりやや弱　粘性やや弱　φ１～５㎜ローム粒子20％含む
5　10YR3/3　しまり弱　粘性非常に弱　φ１～５㎜ローム粒子５％　φ１～３㎜焼土粒子８％含む
6　10YR4/4　しまり弱　粘性やや弱　φ１～２㎜ローム粒子２％含む
7　2.5YR4/4　しまりやや弱　粘性弱　φ１～10㎜焼土粒子30％含む
8　7.5YR4/4　しまりやや強　粘性やや弱　φ１㎜焼土粒子１％含む
9　10YR4/6　しまりやや弱　粘性やや強　φ１～10㎜焼土粒子40％含む
10　10YR4/4　しまりやや強　粘性やや弱　φ１～５㎜ローム粒子15%　φ１～５㎜焼土粒子５％含む
11　7.5YR4/4　しまりやや弱　粘性弱　φ10～20㎜焼土粒子30％含む
12　7.5YR4/6　しまりやや弱　粘性弱　φ10㎜焼土粒子50％含む



７号住居跡ピット５・６セクション

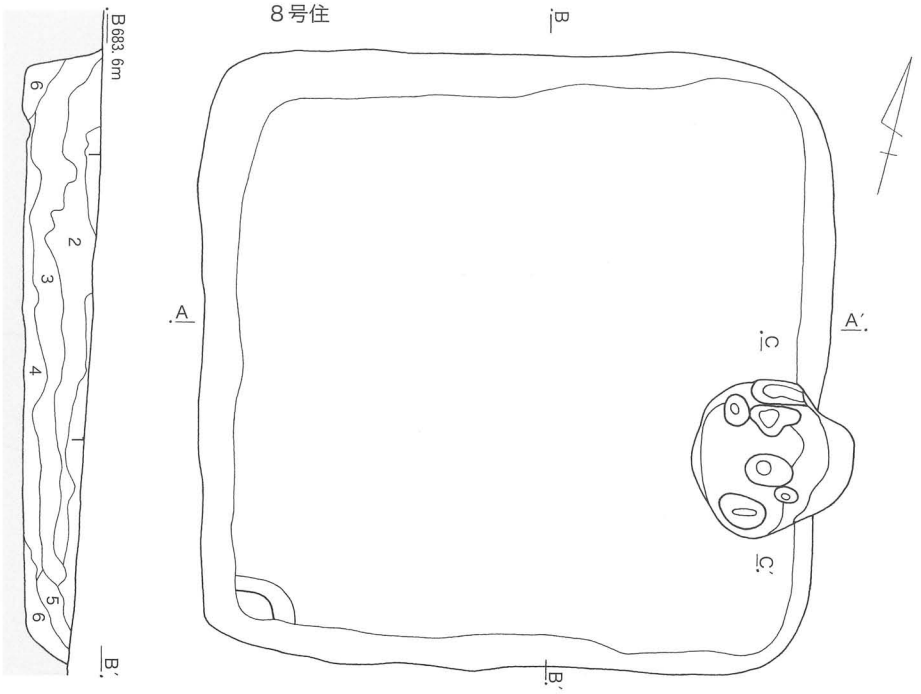
1　7.5YR3/3　しまりやや強　粘性やや強　φ１～８㎜焼土粒子８％含む
2　10YR3/3　しまりやや弱　粘性やや強　φ１～３㎜ローム粒子５％　φ１～２㎜焼土粒子２％含む
3　10YR3/2　しまり弱　粘性強　φ１～３㎜ローム粒子10％　φ１～２㎜焼土粒子１％含む
4　10YR3/3　しまりやや強　粘性やや弱　φ１～２㎜ローム粒子２％　φ１～３㎜焼土粒子５％含む
5　10YR3/3　しまりやや強　粘性やや強　φ１㎜焼土粒子１％含む

第13図　７号住２号カマド・炭化物出土状況・ピット５・６



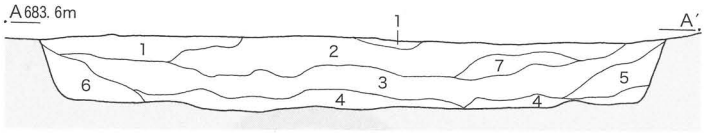
第14図　7号住遺物出土状況（上全体、下接合のみ）

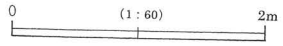
8号住



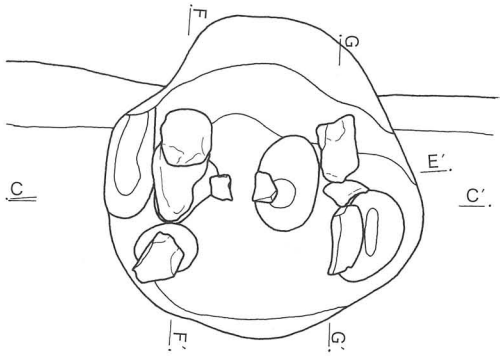
8号住居跡セクション

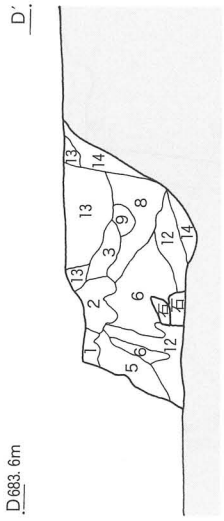
1　10YR2/2　しまりやや弱　粘性弱
　　φ1㎜以下ローム粒子1～2％
　　φ1㎜　焼土粒子1％未満含む
2　7.5YR2/2　しまり弱　粘性やや弱
　　φ1㎜以下ローム粒子5％
　　φ1㎜以下炭化物粒子1％未満
　　φ1㎜以下焼土粒子1％未満含む
3　10YR2/3　しまり強　粘性やや弱
　　φ1～2㎜ローム粒子8％
　　φ1㎜以下炭化物粒子1％未満
　　φ1㎜以下焼土粒子1％未満含む
4　7.5YR3/3　しまり強　粘性やや強
　　φ2～5㎜ローム粒子15%
　　φ1㎜以下炭化物粒子1％未満
　　φ1㎜以下焼土粒子1％未満含む
5　10YR3/2　しまりやや弱　粘性弱
　　φ1㎜ローム粒子3％　φ1㎜以下
　　炭化物粒子1％未満
　　φ1㎜以下焼土粒子1％未満含む
6　7.5YR3/2　しまり強　粘性やや強
　　φ2～3㎜ローム粒子3％
　　φ1㎜以下炭化物粒子1％未満
　　φ1㎜以下焼土粒子1％未満含む
7　10YR3/2　しまりやや強　粘性やや弱
　　φ1～3㎜ローム粒子1％
　　φ1～2㎜焼土粒子1％含む

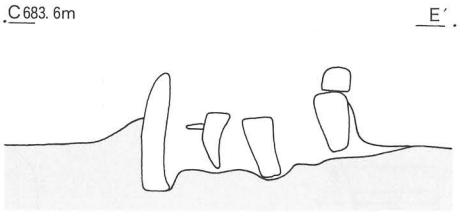


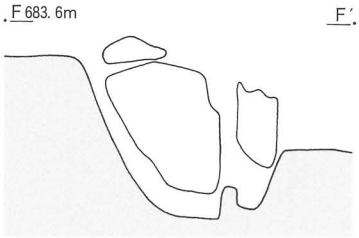


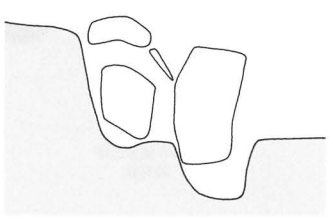
8号住カマド

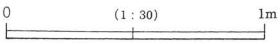










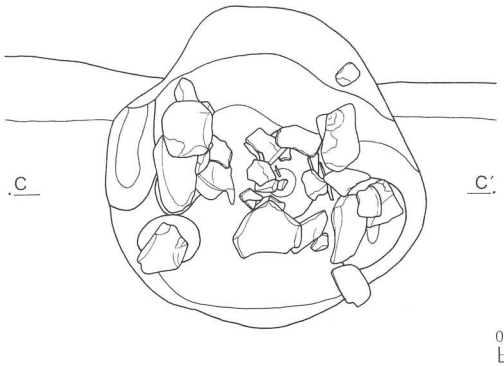


8号住居跡カマドセクション

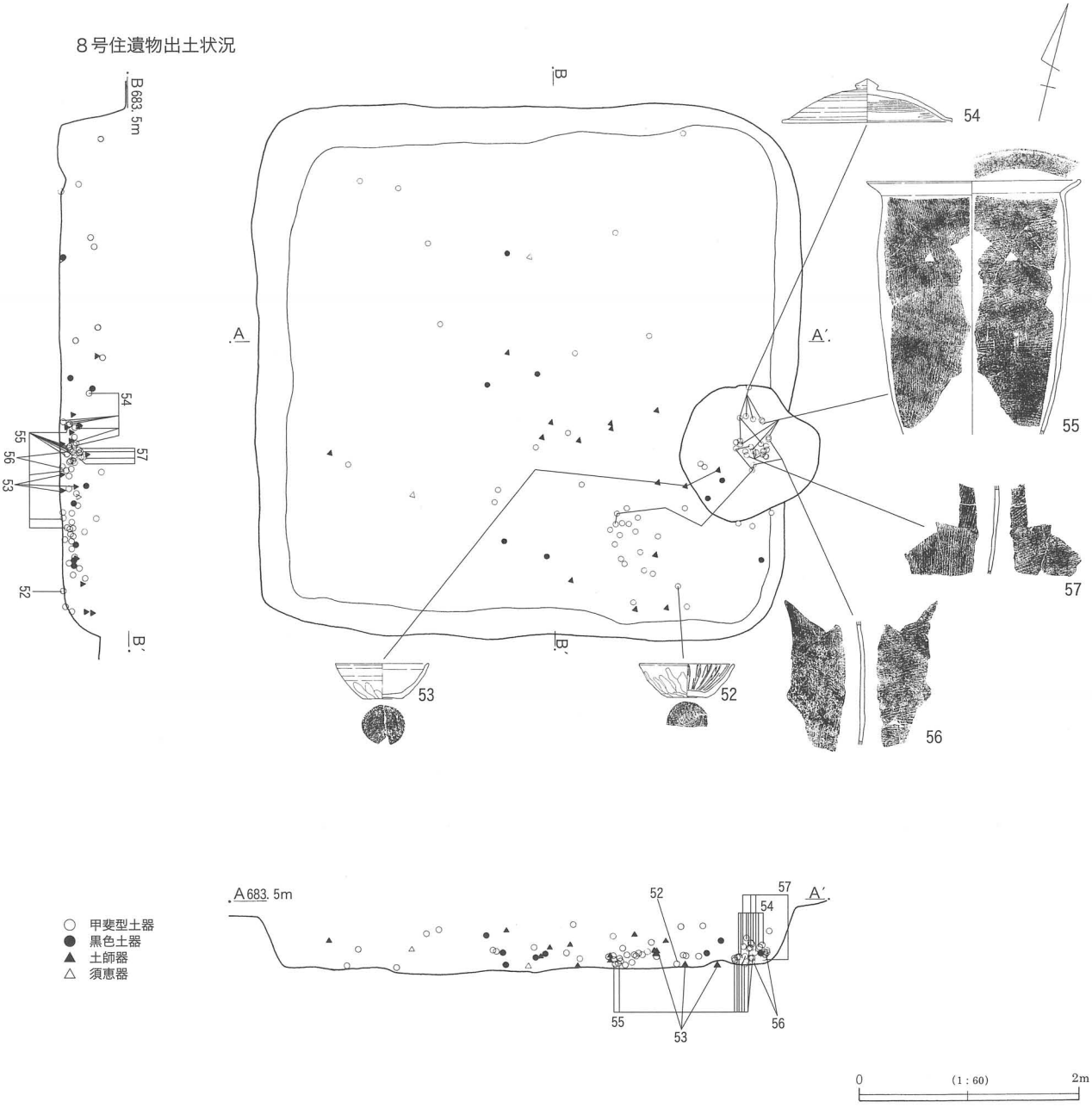
1　10YR2/3　しまりやや強　粘性弱　φ1㎜ローム粒子3％　φ5㎜ローム粒子1％未満　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
2　10YR2/2　しまりやや強　粘性やや弱　φ1㎜ローム粒子5％　φ5㎜ローム粒子1％未満　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
3　7.5YR2/3　しまりやや弱　粘性やや弱　φ1㎜ローム粒子2％　φ3㎜ローム粒子2％　φ3㎜焼土粒子3％含む
4　7.5YR2/2　しまり弱　粘性やや弱　φ1㎜ローム粒子2％　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
5　7.5YR2/3　しまり弱　粘性弱　φ1～2㎜ローム粒子2％　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
6　7.5YR2/2　しまり非常に弱　粘性弱　φ1㎜ローム粒子1％未満　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
7　10YR2/3　しまり強　粘性やや強　φ3～5㎜ローム粒子7％　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
8　7.5YR4/4　しまり強　粘性やや強　φ1㎜炭化物粒子1％未満　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
9　7.5YR2/2　しまりやや弱　粘性やや強　φ1㎜未満ローム粒子2％　φ2～5㎜焼土粒子1％含む
10　10YR3/4　しまりやや弱　粘性やや弱　φ2～5㎜ローム粒子7％　φ10㎜ローム粒子1％　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
11　10YR4/4　しまりやや強　粘性やや強　φ20㎜ローム粒子20%　φ1～2㎜炭化物粒子2％　φ1～3㎜焼土粒子2％含む
12　7.5YR2/3　しまり強　粘性やや強　φ2～4㎜ローム粒子5％　φ3㎜炭化物粒子1％未満　φ2～8㎜焼土粒子5％含む
13　5YR2/2　しまり弱　粘性やや強　φ1㎜ローム粒子3％　φ1㎜焼土粒子1％未満含む
14　7.5YR2/3　しまり強　粘性やや強　φ3～10㎜ローム粒子3％　φ2～10㎜焼土粒子7％含む
15　10YR2/3　しまりやや弱　粘性やや強　φ1～3㎜ローム粒子3％　φ2㎜焼土粒子1％含む

第15図　8号住居跡・8号住カマド

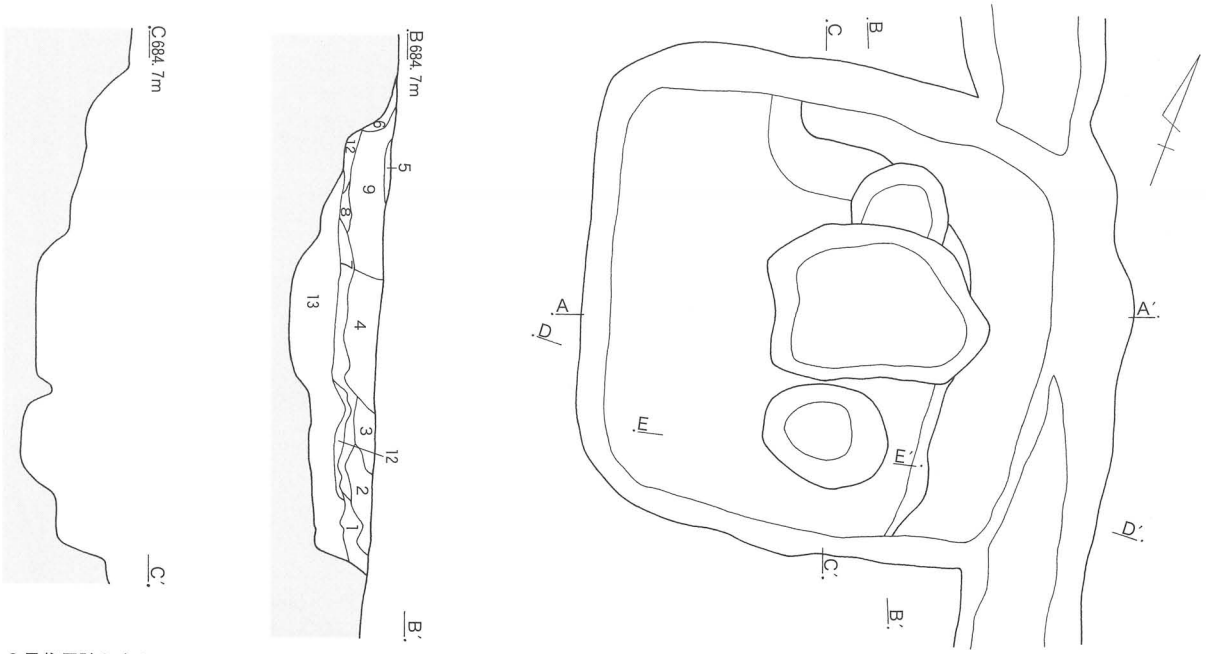
8号住カマド遺物出土状況



8号住遺物出土状況

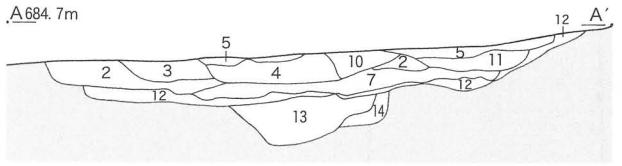


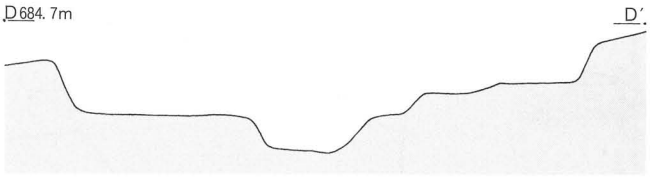
第16図　8号住遺物出土状況



9号住居跡セクション

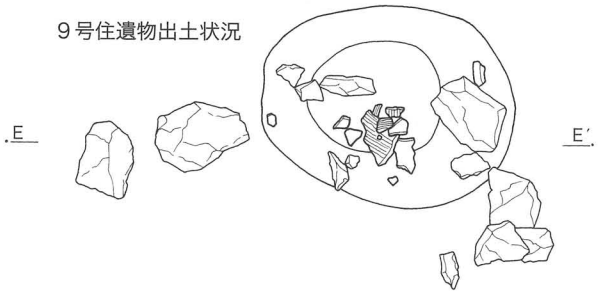
1	10YR3/4	しまりやや弱　粘性やや強	φ1～7㎜ローム粒子30%
		φ5㎜以下炭化物粒子3%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
2	10YR2/3	しまりやや弱　粘性やや弱	φ30㎜以下ローム粒子10%
		φ4㎜以下炭化物粒子2%　φ2㎜以下焼土粒子3%含む	
3	10YR2/3	しまりやや弱　粘性やや弱	φ1㎜以下ローム粒子1%
		φ1㎜以下炭化物粒子1%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
4	10YR2/2	しまりやや弱　粘性やや強	φ10㎜以下ローム粒子5%
		φ1㎜以下炭化物粒子1%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
5	10YR3/3	しまりやや弱　粘性やや強	φ2㎜以下ローム粒子3%
		φ3㎜以下炭化物粒子2%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
6	10YR3/3	しまりやや弱　粘性やや強	φ1㎜以下ローム粒子1%
		φ30㎜以下炭化物粒子10%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
7	10YR3/4	しまり弱　粘性強　φ5㎜以下ローム粒子3%	
		φ20㎜以下炭化物粒子5%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
8	10YR2/2	しまり弱　粘性強　φ10㎜以下ローム粒子3%	
		φ50㎜以下炭化物粒子50%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
9	10YR2/3	しまりやや弱　粘性やや強	φ2㎜以下ローム粒子3%
		φ50㎜以下炭化物粒子30%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
10	10YR2/3	しまりやや弱　粘性やや強	φ10㎜以下ローム粒子5%
		φ1㎜以下炭化物粒子1%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
11	10YR3/3	しまり弱　粘性強　φ3㎜以下ローム粒子3%	
		φ1㎜以下炭化物粒子1%　φ1㎜以下焼土粒子1%含む	
12	10YR4/4	しまり強　粘性強　φ2㎜以下炭化物粒子2%	
		φ5㎜以下焼土粒子5%含む	
13	10YR4/4	しまりやや弱　粘性非常に強　φ2～5㎜炭化物粒子3%	
		φ1～10㎜焼土粒子15%含む	
14	10YR4/4	しまりやや弱　粘性やや強　φ1～5㎜ローム粒子2%	
		φ1～5㎜焼土粒子3%含む	

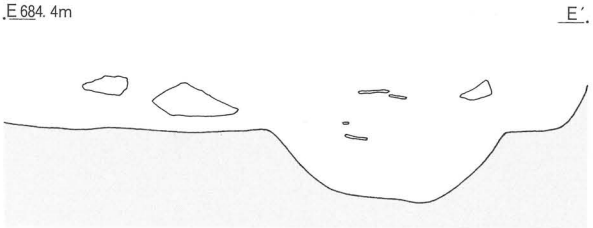




0　(1：60)　2m

9号住遺物出土状況



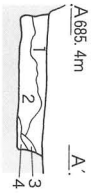


0　(1：30)　1m

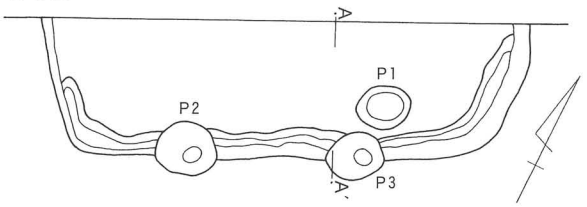
第17図　9号住居跡・9号住遺物出土状況

10号住居跡セクション

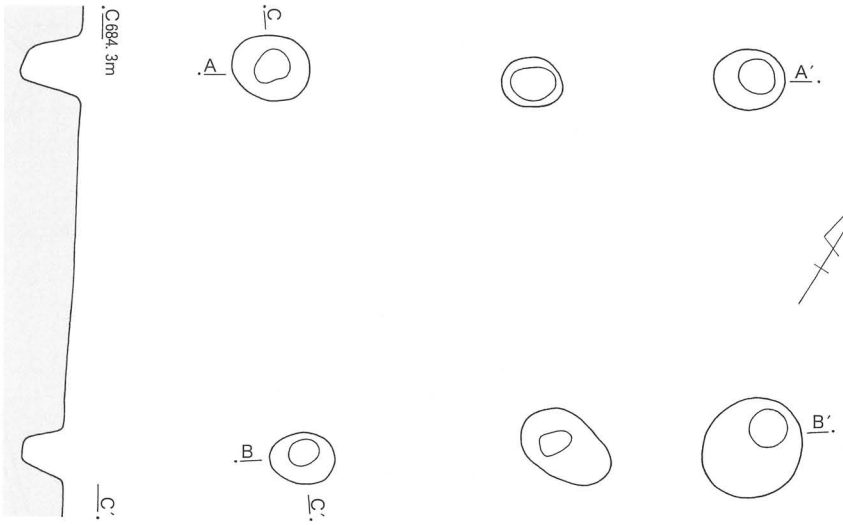
1　10YR3/3　しまり強　粘性弱　φ1～2㎜ローム粒子3％
　　φ2～3㎜炭化物粒子1％
　　φ2～3㎜焼土粒子2％含む
2　10YR3/3　しまり強　粘性やや弱　φ5～6㎜ローム粒子10％
　　φ1～2㎜炭化物粒子1％　φ2～3㎜焼土粒子3％含む
3　10YR4/3　しまりやや強い　粘性やや弱　φ1～2㎜ローム粒子3％
　　φ1㎜未満炭化物粒子1％　φ5～6㎜焼土粒子1％含む
4　10YR3/3　しまり強　粘性やや強　φ1～2㎜ローム粒子1％
　　φ5～6㎜焼土粒子1％含む

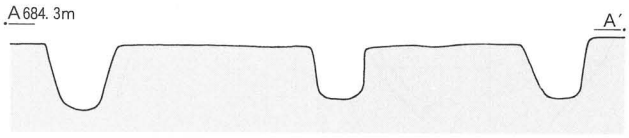


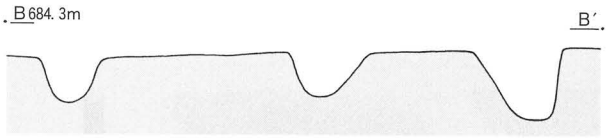
10号住

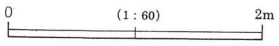


1号堀立柱建物跡

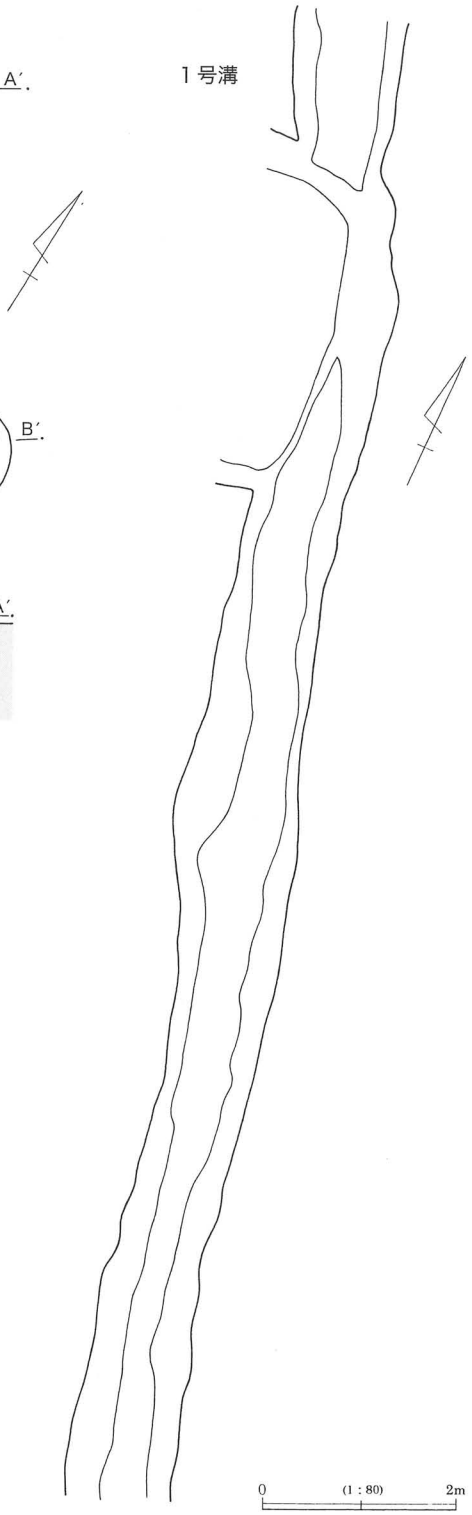




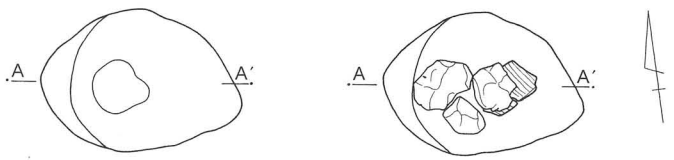




1号溝

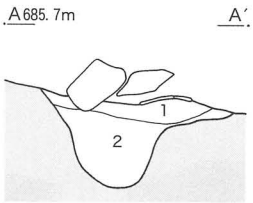


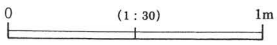
1号土坑



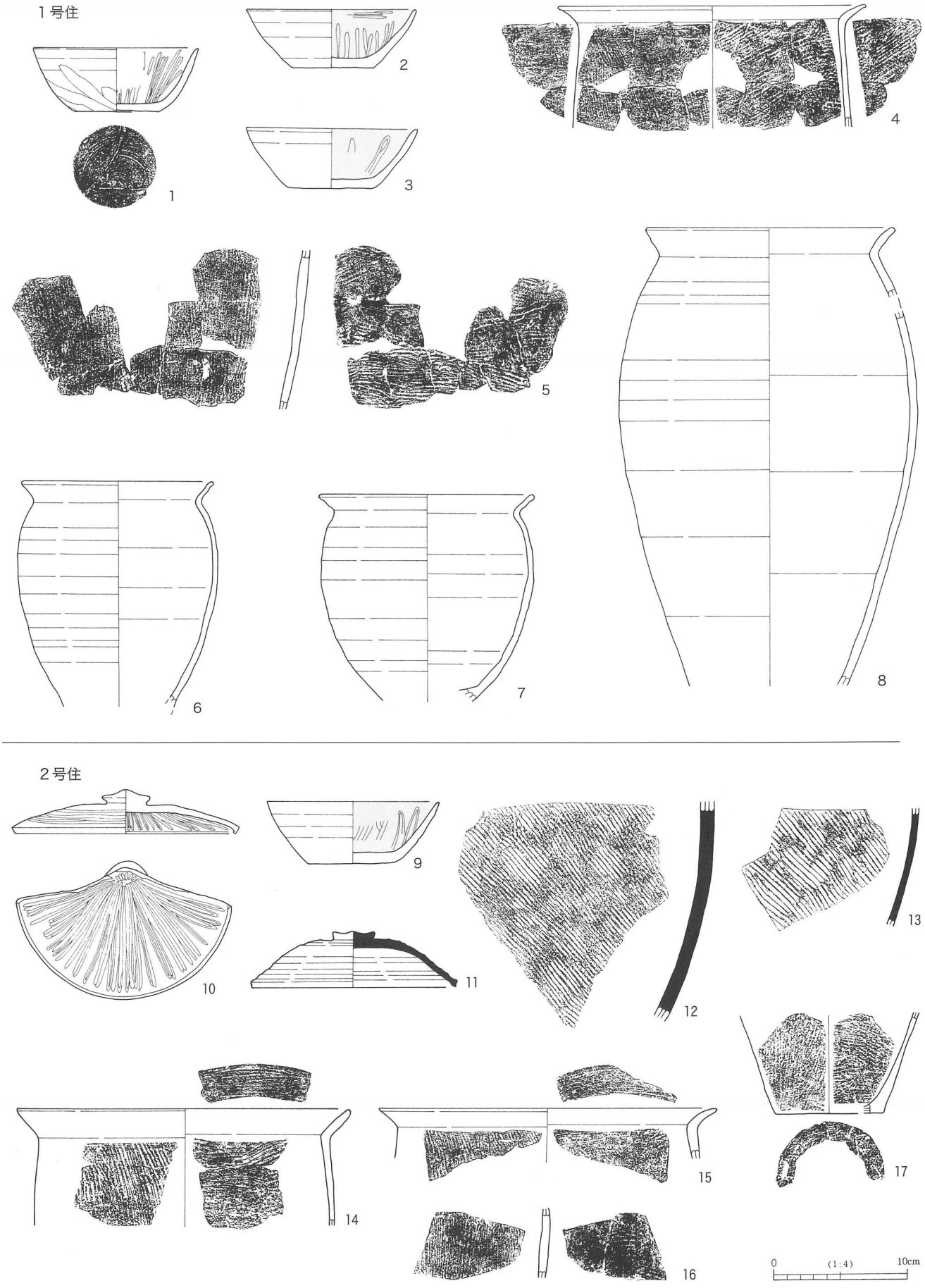
1号土坑

1　10YR2/2　しまりやや強　粘性やや強
　　φ1～5㎜ローム粒子1％含む
2　10YR3/2　しまりやや強　粘性強
　　φ1～10㎜ローム粒子3％含む

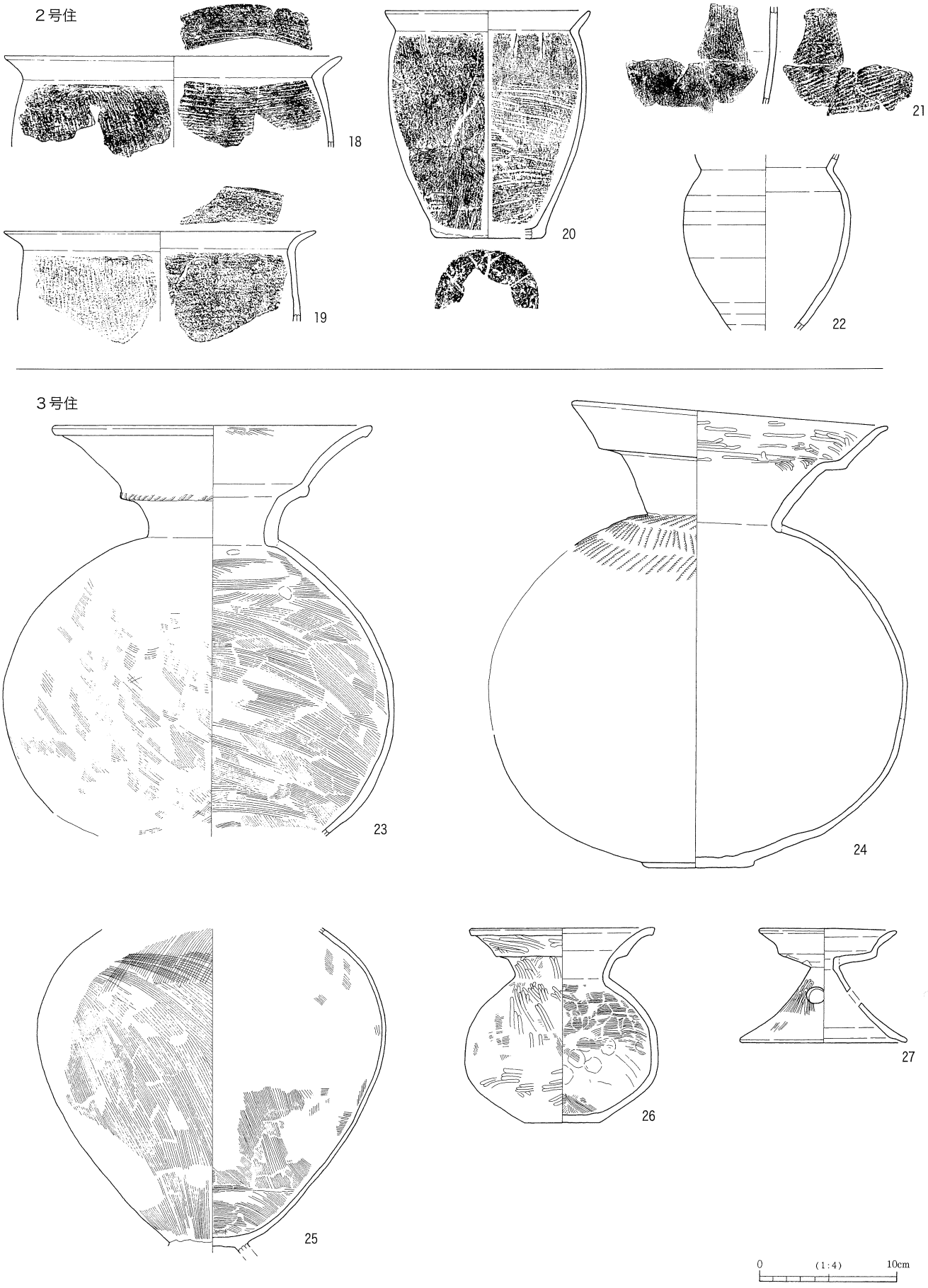




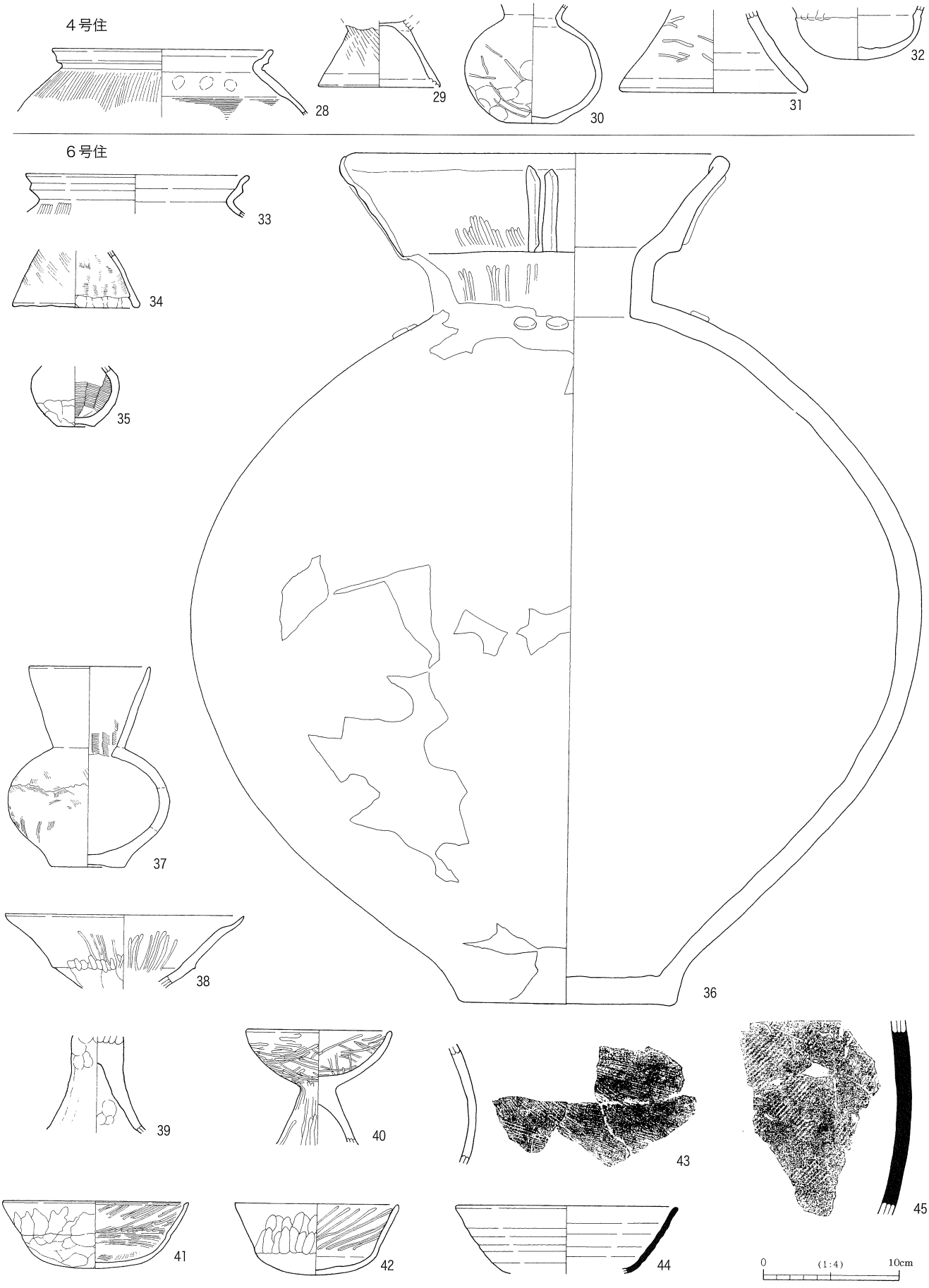
第18図　10号住居跡・1号掘立柱建物跡・1号土坑・1号溝



第19図　1号住居跡・2号住居跡出土遺物

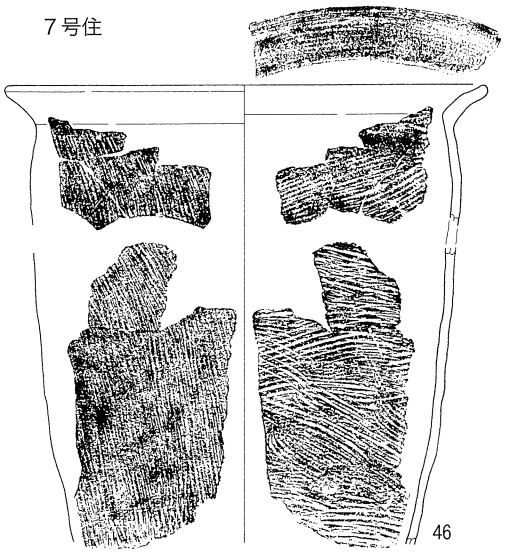


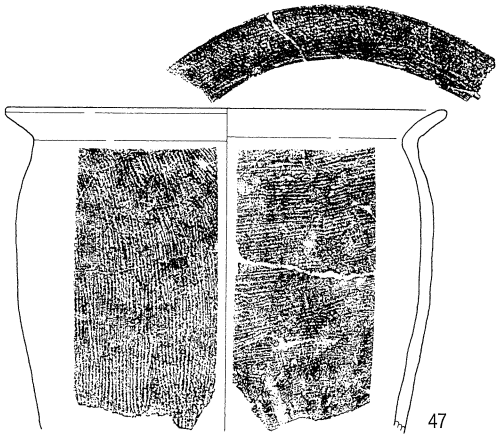
第20図　2号住居跡・3号住居跡出土遺物

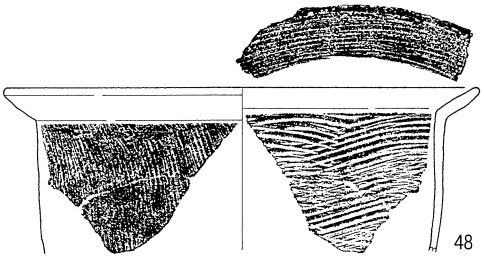


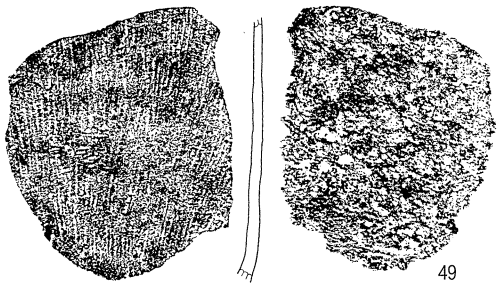
第21図　4号住居跡・6号住居跡出土遺物

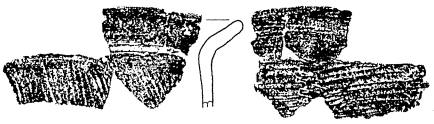
7号住

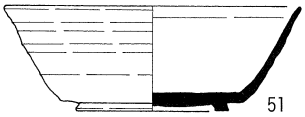




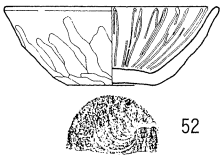


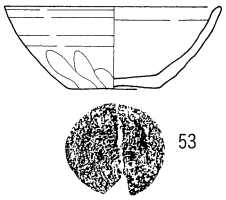


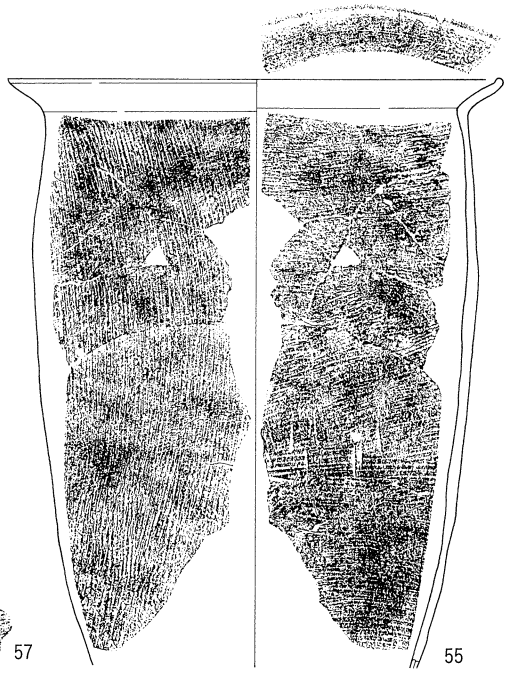


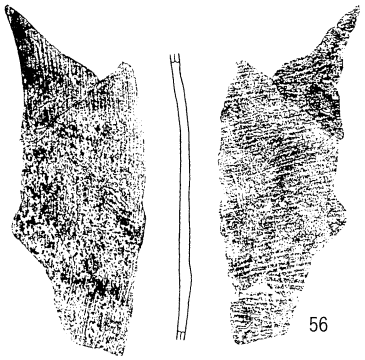


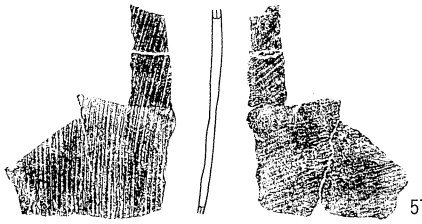
8号住

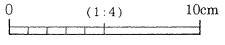




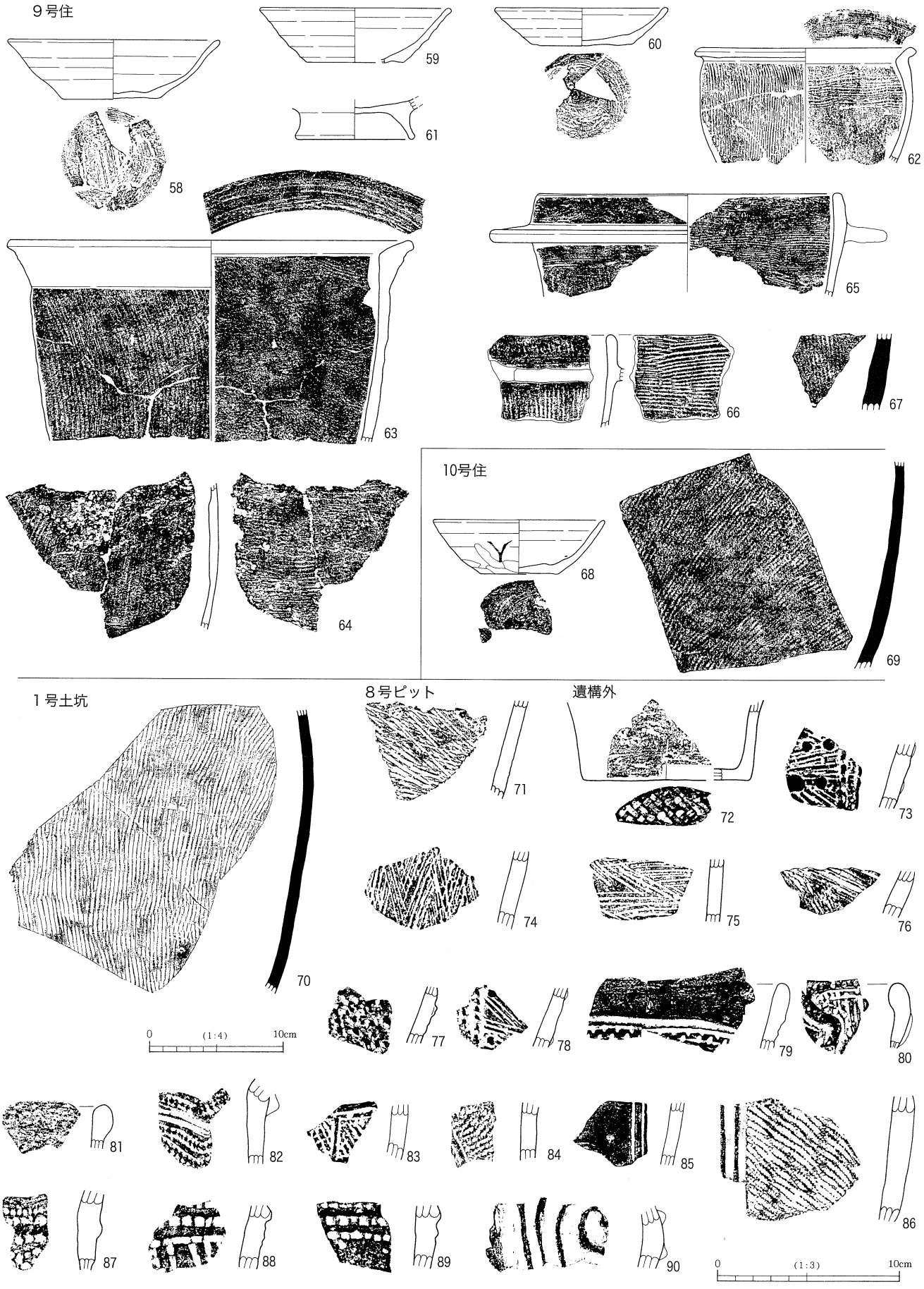






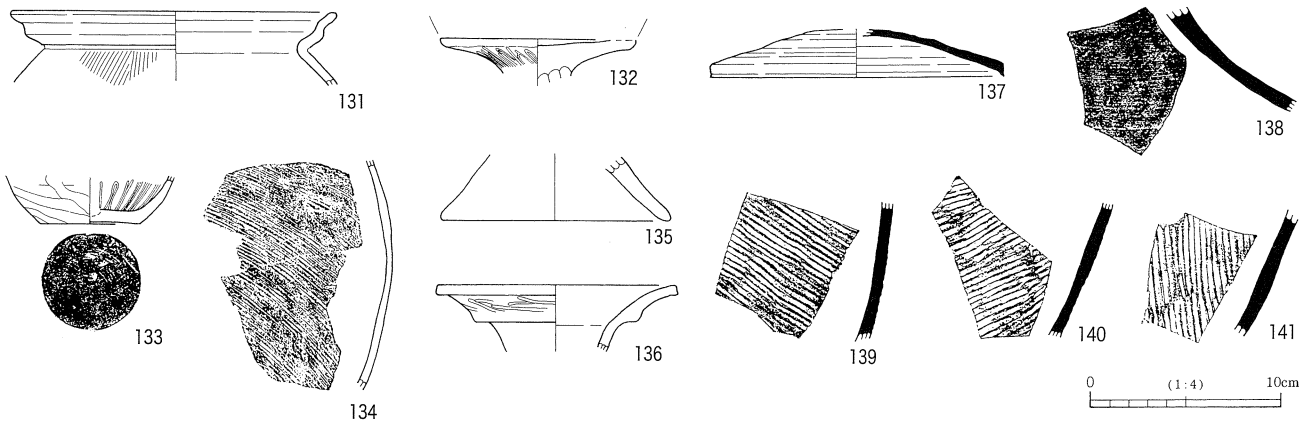


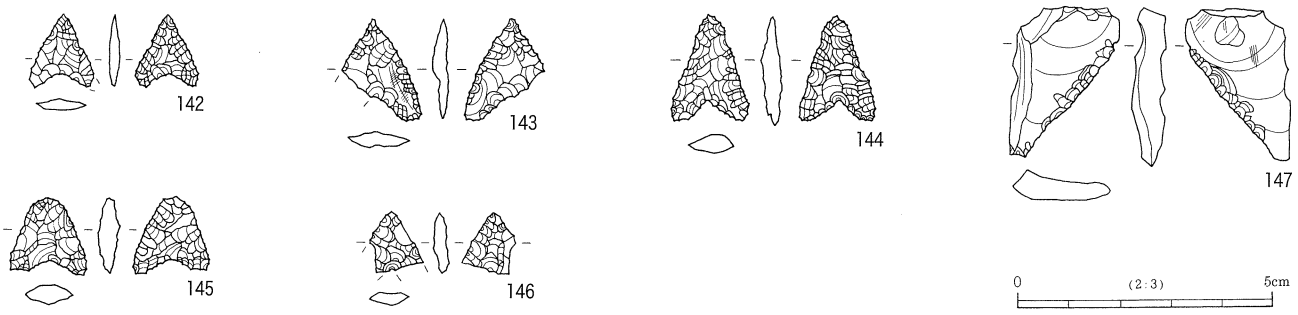
第22図　7号住居跡・8号住居跡出土遺物

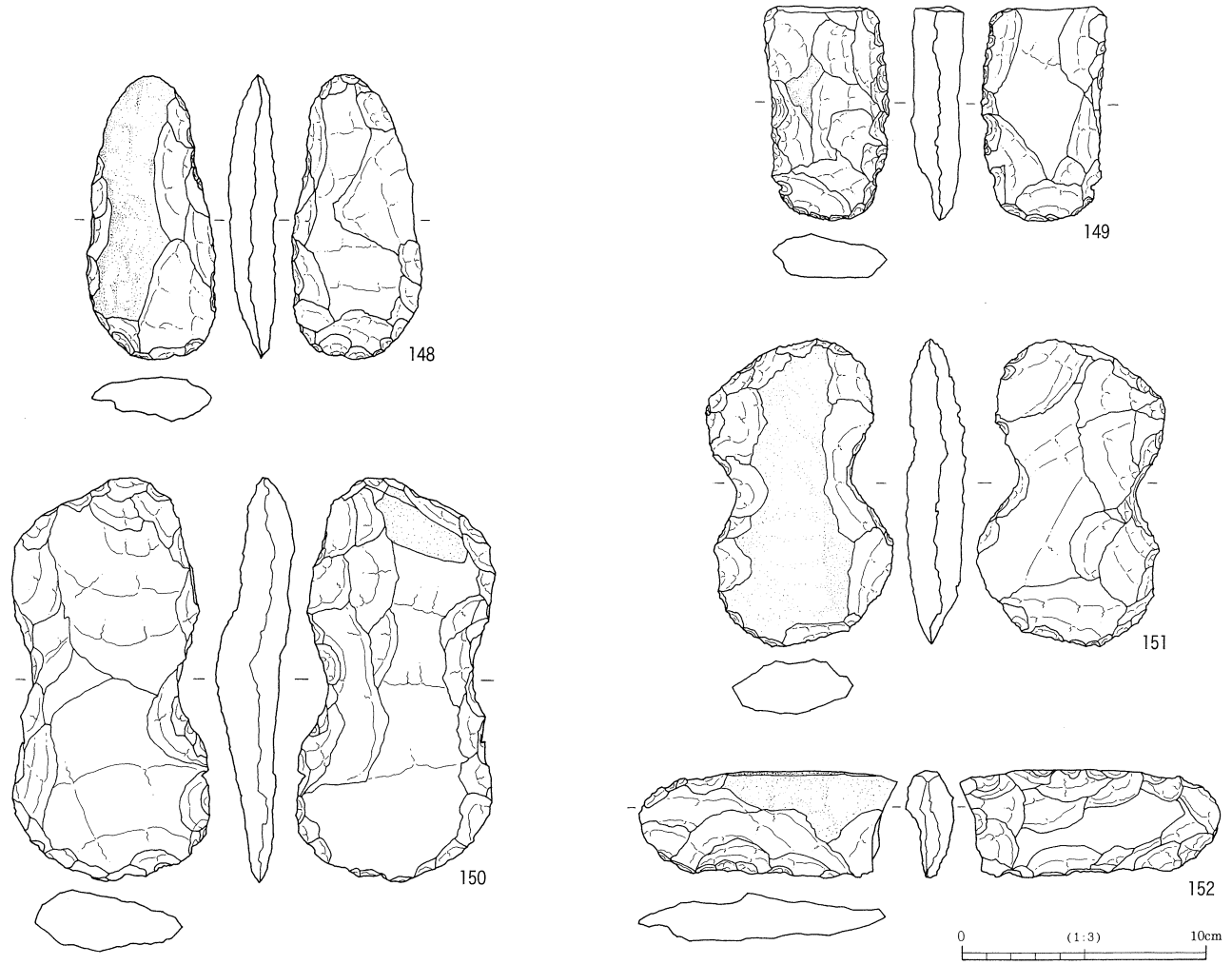


第23図　９号住居跡・10号住居跡・土坑・ピット・遺構外出土遺物

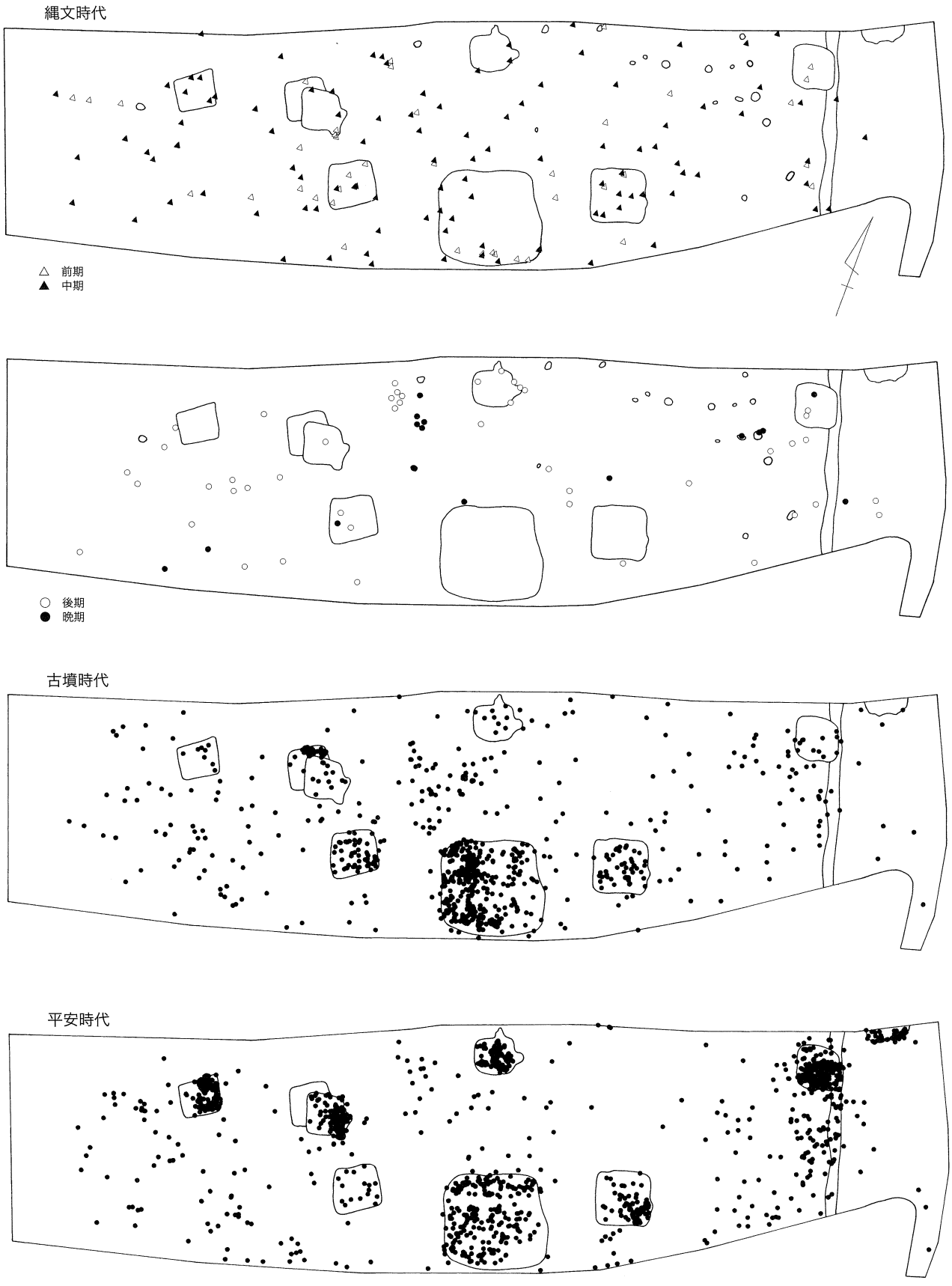
第24図　遺構外出土遺物



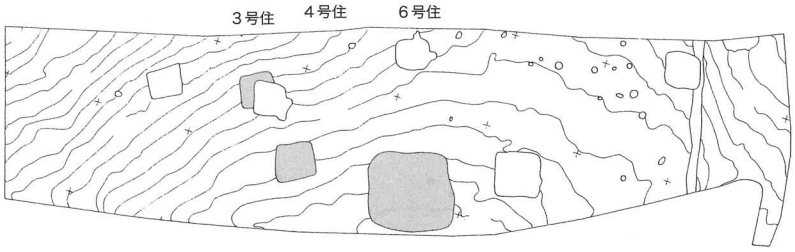




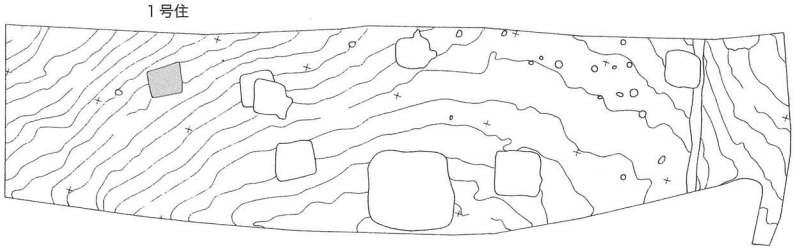
第25図　遺構外出土遺物



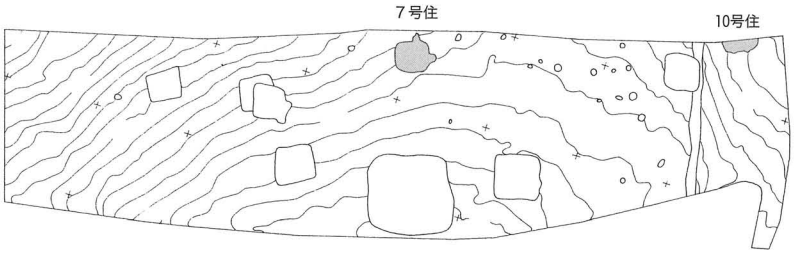
第26図　遺物出土状況



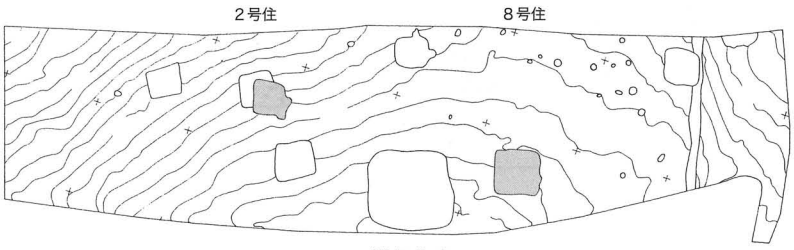
古墳時代前期



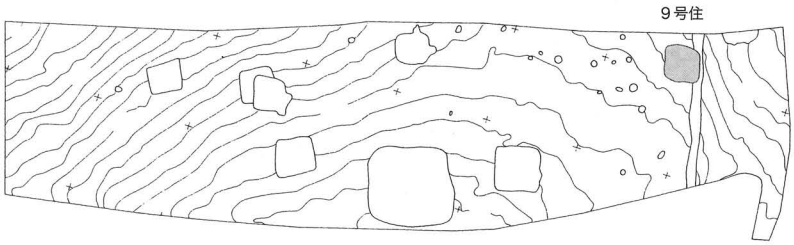
9世紀前半



9世紀中頃



9世紀後半



10世紀中頃

第27図　遺構変遷図

第1表　長坂町遺跡分布一覧

（旧石＝旧石器時代　縄＝縄文時代　弥＝弥生時代　古＝古墳時代　平＝平安時代　中＝中世　戦国＝戦国時代　江戸＝江戸時代）

053	窪田遺跡　縄　古　平	114	大々神A遺跡　平	158	上日野C遺跡　縄　平
056	渋田北遺跡　平	115	大々神B遺跡　古　平	159	姥久保遺跡　古　江戸
057	渋田遺跡　弥　平　中	116	治郎田遺跡　古　平	160	日野原遺跡　中　江戸
059	東原遺跡　中	117	頭無A遺跡　平	161	上日野原遺跡　縄　平　中　江戸
060	柳新居遺跡　縄　古　平	118	樫木遺跡　弥　古	162	富岡遺跡　江戸
062	柳坪A遺跡　縄　弥　古　平	119	塚川・柳坪遺跡　縄　江戸	164	大林遺跡　旧石　縄　平　江戸
063	柳坪B遺跡　縄　弥　古　平	120	頭無遺跡　縄　古	167	西屋敷遺跡　古
064	小屋敷遺跡　縄　平　中	121	新田遺跡　縄	168	上町南遺跡　縄
065	久保地遺跡　縄	122	塚之越遺跡　縄　平	169	龍角西遺跡　縄　弥　古　平　中　近代
066	成岡遺跡　縄　弥　平　中	123	原町北遺跡　古　平	170	龍角遺跡　縄　古　平　中
067	成岡新田遺跡　弥　平　中	124	原町遺跡　江戸	171	長坂上条遺跡　縄　弥　古　平
068	曲田遺跡　縄　平	125	上久通北遺跡　縄　平	172	西久保遺跡　縄
069	石原田北遺跡　縄　平　中	126	塚川の土塁　中　戦国	173	新宿区健康村遺跡　旧石　縄　平　中　江戸
070	石原田南遺跡　縄　平	127	下村遺跡　縄　平　中	174	長坂下条・藤塚
071	塚原遺跡　縄	128	塚川十三塚群　中	175	和田遺跡　弥　古
073	久保遺跡　縄	129	宮久保遺跡　縄　平　中	176	古屋敷遺跡　縄
074	房屋敷遺跡　縄　江戸	130	下村南遺跡　縄	177	泥里遺跡　縄
080	和手山東遺跡　中	131	泥里西遺跡　縄　平	179	渋沢・上町遺跡　縄
081	小尾平遺跡　旧石　縄　中	132	勝見遺跡　縄　平	180	下屋敷北遺跡　縄　平
082	間の原遺跡　縄	133	競馬場遺跡　縄　平	181	柳坪南遺跡　平
086	和手遺跡　縄　平	134	寺前遺跡　縄　平　中	182	柳坪北遺跡　縄　弥　平　中
087	腰巻遺跡　縄	135	上久通遺跡　縄	183	境原遺跡　縄　弥　平
088	城山上北遺跡　縄　平　中　江戸	136	反田遺跡　縄　平　中	184	北村北遺跡　縄　平
089	城山上遺跡　縄　中	137	三井氏屋敷址　中　江戸	185	酒呑場東遺跡　縄　弥　平
090	中丸砦址　戦国	138	北村遺跡　縄　古　平	186	山本遺跡　縄
091	居久保遺跡　縄　平	139	新居遺跡縄　平　中	187	北村東遺跡　縄　古
092	清春白樺美術館南遺跡　縄	140	相吉氏屋敷址　中	188	大久保遺跡　縄　中
093	細久保遺跡　縄	141	相吉遺跡　奈　平	189	天王塚古墳　古
098	下鳥久保遺跡　縄	142	植松氏屋敷址　中	190	池之平北遺跡　縄　平
099	鳥久保遺跡　縄　江戸	143	下屋敷遺跡　縄	191	清水頭北遺跡　縄　平
100	高松遺跡　縄	144	清水頭遺跡　縄　古　奈　平	193	成岡・藤塚
101	上町遺跡　縄　奈	145	向原遺跡　平	194	馬越場塚　中
102	酒呑場遺跡　旧石　縄　古　平　江戸	146	三ツ墓古墳２（消滅）　古	195	紺屋遺跡　縄　平　中
103	東村A遺跡　縄　奈　平　中　江戸	147	農業高校前遺跡　縄　古　平	196	治郎田北遺跡　平
104	東村B遺跡　古　平　中　江戸	148	三ツ墓古墳３（消滅）　古	197	竹原遺跡　縄　中　江戸
105	中村遺跡　古　平　中　江戸	149	三ツ墓古墳１　古	198	天白砦址　中　戦国
106	錨田遺跡　平	150	池ノ平昭和堤北遺跡　縄	199	下原遺跡　縄
107	西村遺跡　古　平　中　江戸	151	池ノ平A遺跡　縄　奈　平	200	下日野遺跡　縄
108	中反遺跡　縄　平	152	向井丹下屋敷址　中	206	長坂上条・藤塚遺跡　古　平
109	柿平・藤塚	153	池ノ平B遺跡　縄	207	池之窪遺跡　縄　平
110	長坂氏屋敷址　古　平　中	154	上日野遺跡　縄　江戸	208	段道遺跡　旧石　縄　平
111	白山神社前遺跡　縄　平	155	田中氏屋敷址　中	209	上日野D遺跡　縄
112	上ノ屋敷遺跡　縄　平　中　江戸	156	上日野A遺跡　縄　平	210	蟻塚遺跡　縄　古　平
113	大々神十三塚　中	157	上日野B遺跡　縄　平	211	上条宮久保遺跡　縄

第2表　放射性炭素年代測定および樹種同定結果

出土遺構	試料名	試料の質	樹種	補正年代 BP	δ13C (‰)	Code.No.
3号住居跡	炭化物1	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1910±70	−26.4	IAA−446
	613	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	2090±70	−25.7	IAA−447
	616	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1680±80	−25.7	IAA−448
7号住居跡	炭化物a	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1470±70	−22.9	IAA−433
	炭化物b	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1370±70	−25.1	IAA−434
	炭化物f	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1560±80	−25.8	IAA−435
	炭化物h	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1210±70	−26.1	IAA−449
	炭化物j	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1520±60	−26.4	IAA−436
	炭化物k	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1540±60	−25.6	IAA−437
	炭化物l	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1500±60	−24.8	IAA−438
	炭化物s	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1180±50	−25.4	IAA−439
	炭化物u	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1390±70	−24.1	IAA−440
	炭化物v	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1340±70	−25.9	IAA−441
	炭化物た	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1300±70	−25.6	IAA−442
	炭化物と	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1250±70	−25.7	IAA−443
	炭化物n	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	−	−	−
9号住居跡	炭化物1	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	1150±70	−26.1	IAA−444
9号住居跡	炭化物2	炭化材	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	860±70	−25.7	IAA−445

1）年代値の算出には、Libbyの半減期5570年を使用。
2）BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3）付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

第3表　暦年較正結果

出土遺構と試料名	補正年代（BP）	暦年較正年代（cal）											相対比	Code No.
3号住居跡　炭化物1	1910±70	cal	AD	4		cal	AD	10	cal	BP	1,946	− 1,940	0.026	IAA−446
		cal	AD	19	−	cal	AD	135	cal	BP	1,931	− 1,815	0.793	
		cal	AD	154	−	cal	AD	175	cal	BP	1,796	− 1,775	0.096	
		cal	AD	193	−	cal	AD	211	cal	BP	1,757	− 1,739	0.084	
3号住居跡　613	2090±70	cal	BC	330		cal	BC	325	cal	BP	2,280	− 2,275	0.017	IAA−447
		cal	BC	202	−	cal	BC	37	cal	BP	2,152	− 1,987	0.895	
		cal	BC	32	−	cal	BC	20	cal	BP	1,982	− 1,970	0.044	
		cal	BC	12	−	cal	BC		cal	BP	1,962	− 1,950	0.044	
3号住居跡　616	1680±80	cal	AD	242		cal	AD	434	cal	BP	1,708	− 1,516	1.000	IAA−448
7号住居跡　炭化物a	1470±70	cal	AD	444	−	cal	AD	446	cal	BP	1,506	− 1,504	0.004	IAA−433
		cal	AD	471		cal	AD	479	cal	BP	1,479	− 1,471	0.032	
		cal	AD	531		cal	AD	656	cal	BP	1,419	− 1,294	0.964	
7号住居跡　炭化物b	1370±70	cal	AD	603	−	cal	AD	693	cal	BP	1,347	− 1,257	0.822	IAA−434
		cal	AD	699	−	cal	AD	715	cal	BP	1,251	− 1,235	0.092	
		cal	AD	750		cal	AD	763	cal	BP	1,200	− 1,187	0.086	
7号住居跡　炭化物f	1560±80	cal	AD	422		cal	AD	564	cal	BP	1,528	− 1,386	0.930	IAA−435
		cal	AD	571	−	cal	AD	578	cal	BP	1,379	− 1,372	0.029	
		cal	AD	588	−	cal	AD	597	cal	BP	1,362	− 1,353	0.040	
7号住居跡　炭化物h	1210±70	cal	AD	694		cal	AD	697	cal	BP	1,256	− 1,253	0.020	IAA−449
		cal	AD	717	−	cal	AD	748	cal	BP	1,233	− 1,202	0.177	
		cal	AD	766	−	cal	AD	889	cal	BP	1,184	− 1,061	0.803	
7号住居跡　炭化物j	1520±60	cal	AD	440		cal	AD	451	cal	BP	1,510	− 1,499	0.075	IAA−436
		cal	AD	465	−	cal	AD	518	cal	BP	1,485	− 1,432	0.346	
		cal	AD	528	−	cal	AD	601	cal	BP	1,422	− 1,349	0.579	
7号住居跡　炭化物k	1540±60	cal	AD	434		cal	AD	563	cal	BP	1,516	− 1,387	0.973	IAA−437
		cal	AD	591	−	cal	AD	596	cal	BP	1,359	− 1,354	0.027	
7号住居跡　炭化物l	1500±60	cal	AD	442		cal	AD	448	cal	BP	1,508	− 1,502	0.032	IAA−438
		cal	AD	468	−	cal	AD	482	cal	BP	1,482	− 1,468	0.071	
		cal	AD	530	−	cal	AD	640	cal	BP	1,420	− 1,310	0.897	
7号住居跡　炭化物s	1180±50	cal	AD	776		cal	AD	896	cal	BP	1,174	− 1,054	0.910	IAA−439
		cal	AD	923	−	cal	AD	940	cal	BP	1,027	− 1,010	0.090	
7号住居跡　炭化物u	1390±70	cal	AD	564		cal	AD	589	cal	BP	1,386	− 1,361	0.116	IAA−440
		cal	AD	596	−	cal	AD	690	cal	BP	1,354	− 1,260	0.880	
		cal	AD	755	−	cal	AD	756	cal	BP	1,195	− 1,194	0.004	
7号住居跡　炭化物v	1340±70	cal	AD	639		cal	AD	722	cal	BP	1,311	− 1,228	0.785	IAA−441
		cal	AD	742	−	cal	AD	770	cal	BP	1,208	− 1,180	0.215	
7号住居跡　炭化物た	1300±70	cal	AD	661		cal	AD	774	cal	BP	1,289	− 1,176	1.000	IAA−442
7号住居跡　炭化物と	1250±70	cal	AD	686		cal	AD	783	cal	BP	1,264	− 1,167	0.635	IAA−443
		cal	AD	789	−	cal	AD	829	cal	BP	1,161	− 1,121	0.229	
		cal	AD	839	−	cal	AD	864	cal	BP	1,111	− 1,086	0.136	
9号住居跡　炭化物1	1150±70	cal	AD	782		cal	AD	791	cal	BP	1,168	− 1,159	0.061	IAA−444
		cal	AD	811	−	cal	AD	844	cal	BP	1,139	− 1,106	0.195	
		cal	AD	855	−	cal	AD	904	cal	BP	1,095	− 1,046	0.316	
		cal	AD	912	−	cal	AD	976	cal	BP	1,038	− 974	0.427	
9号住居跡　炭化物2	860±70	cal	AD	1,043		cal	AD	1,092	cal	BP	907	− 858	0.295	IAA−445
		cal	AD	1,119	−	cal	AD	1,140	cal	BP	831	− 810	0.130	
		cal	AD	1,154	−	cal	AD	1,224	cal	BP	796	− 726	0.504	
		cal	AD	1,228	−	cal	AD	1,241	cal	BP	722	− 709	0.071	

計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV4.4（Copyright 1986−2002 M Stuiver and PJ Reimer）を使用
計算には表に示した丸める前の値を使用している。
付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68％が入る範囲）を年代値に換算した値。

第4表　石器一覧表

図版	番号	出土位置	器種	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	石材	備考
第25図	142	遺構外	石鏃	1.45	1.25	0.2	0.2	黒曜石	
第25図	143	遺構外	石鏃	2.0	(1.7)	0.3	0.5	黒曜石	片脚欠損
第25図	144	遺構外	石鏃	2.15	1.55	0.4	0.7	黒曜石	
第25図	145	遺構外	石鏃	(1.55)	(1.55)	0.4	0.6	黒曜石	片脚欠損
第25図	146	遺構外	石鏃	(1.2)	(1.05)	0.3	0.2	黒曜石	両脚欠損
第25図	147	遺構外	削器	3.1	2.1	0.65	2.7	黒曜石	
第25図	148	遺構外	打製石斧	11.8	5.3	2.0	129.8	流紋岩	
第25図	149	遺構外	打製石斧	(8.9)	4.8	2.1	117.6	ホルンフェルス	
第25図	150	遺構外	打製石斧	16.6	8.0	2.7	383.9	ホルンフェルス	
第25図	151	遺構外	打製石斧	12.8	7.4	2.3	251.5	ホルンフェルス	
第25図	152	遺構外	横刃形石器	4.4	(10.2)	1.95	96.3	流紋岩	

第5表　遺構内ピット一覧表

遺構名	ピットNo.	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1号住	1	37.5	32	32.9	
	2	38	32	27.8	
	3	21	20	38.9	
	4	35.5	35	39	
	5	33	26.5	35	
2号住	1	51	40	14.6	
3号住	1	29	24		
4号住	1	26	24	23.3	
	2	31	23	25.8	
	3	32.5	25	21.9	
	4	19	19	11.6	
6号住	1	41	33	15.5	
	2	61.5	53	24	
	3	42	38.4	13.5	
	4	45	38	16.6	
	5	56	41	12	
	6	88	66	24.2	
	7	59	52	15.6	
	8	54	53	13.5	
	9	75	69	21.9	
	10	38	29	10	
	11	89	88	21.5	
7号住	1	52	36	52.2	
	2	76.5	69	44.9	
	3	49	31.6	40	
	4	53	46.5	40.3	
	5	67.5	(48)	35.8	
	6	49.4	35	32.1	
	7	67	57	35.2	
	8	66	44	10.2	
10号住	1	22	18	8	
	2	50	41	42	壁柱穴
	3	46	35.5	54	壁柱穴

第6表　土坑・ピット一覧

遺構名	出土位置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
1号土坑	C－3	79.0	55.0	38.9	
1号ピット	D－5	78.0	58.0	31.5	
2号ピット	C－6	48.0	32.0	40.0	
3号ピット	D－6	90.0	58.0	29.0	
4号ピット	E－8	56.0	48.0	45.0	1号掘立
5号ピット	D－8	48.0	39.0	40.0	1号掘立
6号ピット	D－7	61.0	51.0	42.0	1号掘立
7号ピット	D－7	88.0	80.0	25.0	
8号ピット	D－8	81.0	76.0	55.0	1号掘立
9号ピット	D－8	86.0	74.0	33.0	
10号ピット	D－6	70.0	50.0	38.0	
11号ピット	D－7	58.0	44.0	51.0	
12号ピット	D－7	52.0	42.0	47.0	
13号ピット	D－8	50.0	41.0	35.0	1号掘立
14号ピット	D－8	76.0	49.0	34.0	1号掘立
15号ピット	D－8	120.0	52.0	32.0	
16号ピット	C－8	62.0	54.0	28.0	

第7表　土器一覧表

図	遺物番号	出土位置	時代	時期	型式	土器種別	器種	残存率	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	その他(cm)	重さ(g)	焼成	胎土	色調	調整	特徴
第19図	1	1号住	平安	－	－	土師器	甲斐型坏	40%	4.8	12.2	6.0	－	75.0	良好	長石、雲母、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)ロクロナデ、下部ヘラ削り(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	(内)暗文
第19図	2	1号住	平安	－	－	黒色土器	坏	80%	4.4	(12.5)	6.0	－	124.8	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)橙色(内)黒色(底)橙色	(外)ロクロナデ(内)ヘラミガキ	(内)暗文
第19図	3	1号住	平安	－	－	黒色土器	坏	80%	4.5	12.6	6.4	－	121.1	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい黄橙色(内)黒色(底)にぶい黄橙色	(外)ロクロナデ(内)ヘラみがき	
第19図	4	1号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	10%	(9.1)	(23.0)	－	－	153.7	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)赤褐色(内)にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)胴部ヨコハケメ	
第19図	5	1号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	130.7	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)褐色(内)暗褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
第19図	6	1号住	平安	－	－	土師器	ロクロ甕	70%	(17.0)	(13.8)	－	－	449.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい赤褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
第19図	7	1号住	平安	－	－	土師器	ロクロ甕	口縁～底部破片	(15.6)	(15.6)	－	－	188.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい褐色(内)灰黄褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
第19図	8	1号住	平安	－	－	土師器	ロクロ甕	70%	(34.5)	(18.6)	－	胴径(22.0)	930.0	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)橙色(内)にぶい橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
第19図	9	2号住	平安	－	－	黒色土器	坏	95%	4.7	12.7	6.4	－	168.6	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい橙色(内)黒色(底)にぶい橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)ナデ	(内)暗文
第19図	10	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型フタ	60%	3.3	(16.6)	－	－	128.1	良好	黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)ロクロナデ、ヘラミガキ(内)ヘラミガキ	つまみ－ミガキ、(内)暗文
第19図	11	2号住	平安	－	－	須恵器	フタ	60%	4.2	(15.2)	－	－	102.7	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	暗灰黄色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
第19図	12	2号住	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	360.1	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	黄灰色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
第19図	13	2号住	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	74.4	良好	長石、金雲母、赤色粒子	灰色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
第19図	14	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	(8.7)	(25.0)	－	－	65.4	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)明赤暗色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)胴部ヨコハケメ	
第19図	15	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁部破片	(3.7)	(25.2)	－	－	50.5	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)口縁部ヨコハケメ部分有り	
第19図	16	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	31.6	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)赤褐色(内)にぶい赤褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
第19図	17	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	胴～底部破片	(7.4)	－	(8.0)	－	79.3	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	赤褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ(底)木葉痕	
第20図	18	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	(6.8)	(25.0)	－	－	93.4	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第20図	19	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	(6.6)	(23.2)	－	－	60.1	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第20図	20	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	50%	17.1	(15.0)	(7.6)	－	243.3	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)暗褐色(底)明暗褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ(底)木葉痕	
第20図	21	2号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	38.4	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	赤褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
第20図	22	2号住	平安	－	－	土師器	ロクロ甕(小)	60%	(13.1)	(10.4)	－	－	187.8	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	にぶい褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ、ナデ	
第20図	23	3号住	古墳	前期	－	土師器	壺	50%	(30.5)	(23.5)	－	胴径(29.2)頸径(9.8)	1850.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい褐色	(外)櫛目(内)櫛目	

第７表　土器一覧表

図	遺物番号	出土位置	時代	時期	型式	土器種別	器種	残存率	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	その他(cm)	重さ(g)	焼成	胎土	色調	調整	特徴
第20図	24	3号住	古墳	前期	－	土師器	壷	60%	(34.7)	(23.5)	7.6	胴径(31.1) 頸径(10.3)	2350.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)橙色(底)褐灰色	(外)胴部櫛目・ナデ、口縁部ヘラミガキ (内)胴部ヘラナデ、口縁部ヘラミガキ	
第20図	25	3号住	古墳	前期	－	土師器	S字甕	30%	(24.1)	－	－	胴径(26.2)	460.0	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)黒褐色(内)にぶい褐色	(外)櫛目(内)ナデ、櫛目	
第20図	26	3号住	古墳	前期	－	土師器	小型壺	50%	14.5	(13.5)	5.5	胴径(14.5) 頸径 (7.0)	306.4	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)灰褐色・橙色(内)灰黄褐色(底)橙色	(外)ヘラナデ、櫛目(内)指押さえ、櫛目(底)ヘラナデ	
第20図	27	3号住	古墳	前期	－	土師器	器台	90%	8.5	9.8	－	頸径 (2.0) 脚径 12.0	168.2	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)橙色・褐灰色(内)にぶい褐色・褐灰色(脚)褐灰色	(外)ナデ(内)ナデ(脚)ナデ、ミガキ	(脚部)３穴
第21図	28	4号住	古墳	前期	－	土師器	S字甕	口縁～胴部破片	－	(16.0)	－	－	58.5	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)灰褐色(内)にぶい褐色	(外)口縁部ロクロナデ、胴部櫛目(内)指押さえ、ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第21図	29	4号住	古墳	前期	－	土師器	S字甕	脚部破片	－	－	－	脚高 (4.2) 脚径 (9.0)	47.7	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい褐色	(外)ナデ、櫛目(内)ナデ(脚)ナデ	
第21図	30	4号住	古墳	前期	－	土師器	小型壷	95%	8.9	4.7	3.9	頸径 4.3 胴径 10.0	229.7	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい褐色(内)にぶい赤褐色(底)褐灰色	(外)胴下半分ヘラナデの後全面にミガキ(内)ナデ(底)ヘラナデ	
第21図	31	4号住	古墳	前期	－	土師器	高坏	脚部破片	－	－	－	脚径(13.8)	94.1	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)橙色(内)にぶい橙色	(外)ナデ一部ミガキ(内)ナデ	
第21図	32	4号住	古墳	前期	－	土師器	小型丸底鉢	30%	－	－	－	－	60.2	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)明赤褐色(底)にぶい赤褐色	(外)指ナデ・ケズリ(内)指ナデ(底)ナデ	(底)丸底
第21図	33	6号住	古墳	前期	－	土師器	S字甕	口縁部破片	－	(16.6)	－	－	13.1	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	にぶい黄橙色	(外)口縁部下櫛目(内)ロクロナデ	S字状口縁
第21図	34	6号住	古墳	前期	－	土師器	S字甕	脚部破片	－	－	－	脚高 (4.3) 脚径 (9.4)	22.1	良好	長石、石英、雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)橙色(内)にぶい橙色	(外)櫛目(内)櫛目、脚部下に内側への折り返し有り	
第21図	35	6号住	古墳	前期	－	土師器	小型壷	80%	(4.5)	－	2.8	－	65.9	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)赤褐色(底)にぶい赤褐色	(外)手こね、胴下部ヘラケズリ(内)櫛目	
第21図	36	6号住	古墳	前期	－	土師器	壷	80%	64.0	27.4	－	頸径 16.4 胴径 54.0	14900.0	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい黄橙色(内)にぶい黄橙色(底)にぶい褐色	(外)ミガキ(内)口縁部ミガキ	
第21図	37	6号住	古墳	前期	－	土師器	小型壷	90%	15.0	9.0	(5.6)	胴径 12.3 頸径 5.5	491.9	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	橙色	(外)ナデ、胴中央部櫛目(内)ナデ、頸部櫛目(底)ナデ	外面下半分にススの付着有り
第21図	38	6号住	古墳	前期	－	土師器	高坏	40%	(5.5)	(17.8)	－	－	38.8	良好	石英、雲母、赤色粒子	にぶい黄橙色	(外)ロクロナデ、ヘラミガキ(内)ロクロナデ、ミガキ	
第21図	39	6号住	古墳	前期	－	土師器	高坏	脚部破片	－	－	－	脚径 (7.4) 脚高 (7.3)	119.1	ほぼ良好	長石、雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい黄褐色(内)にぶい黄橙色	(外)指ナデ(内)指ナデ	
第21図	40	6号住	古墳	前期	－	土師器	高坏	80%	－	10.8	－	頸径 2.6	186.7	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい褐色(内)橙色	(外)ミガキ(内)ミガキ	
第21図	41	6号住	古墳	前期	－	土師器	小型丸底鉢	98%	5.0	13.7	－	－	131.7	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	明赤褐色	(外)ヘラケズリの後ナデ(内)ミガキ(底)ヘラナデ	(底)丸底
第21図	42	6号住	古墳	前期	－	土師器	小型丸底鉢	70%	5.4	(12.2)	－	－	76.0	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)ヘラナデ(内)ミガキ(底)ヘラミガキ	
第21図	43	6号住	古墳	前期	－	土師器	壷	胴部破片	－	－	－	－	95.9	良好	長石、石英、雲母、赤色粒子	(外)にぶい黄褐色(内)明赤褐色	(外)ミガキ(内)横位の櫛目	
第21図	44	6号住	平安	－	－	須恵器	坏	口縁～胴部破片	(5.1)	(16.2)	－	－	43.1	堅緻	長石、石英、黒色粒子、白色粒子	(外)褐灰色(内)灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
第21図	45	6号住	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	206.3	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子	(外)オリーブ黒色(内)灰色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
第22図	46	7号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	－	(25.0)	－	－	163.1	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ (内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第22図	47	7号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	－	(23.0)	－	－	455.0	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ (内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第22図	48	7号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	－	(24.8)	－	－	75.8	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)黒褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ (内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第22図	49	7号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	365.4	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)橙色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
第22図	50	7号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	口縁～胴部破片	－	－	－	－	39.2	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ (内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第22図	51	7号住	平安	－	－	須恵器	高台付坏	80%	5.6	15.4	9.3	脚径 (8.0) 脚高 (0.4)	263.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)灰黄褐色(内)黄灰色(底)にぶい褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り後高台付け	
第22図	52	8号住	平安	－	－	土師器	甲斐型坏	50%	4.1	(11.4)	(4.7)	－	72.1	良好	黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)灰褐色(底)にぶい赤褐色	(外)ロクロナデ、ヘラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り後ヘラケズリ	(内)暗文
第22図	53	8号住	平安	－	－	土師器	坏	70%	4.4	11.5	4.9	－	82.3	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)ロクロナデ、ヘラケズリ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	
第22図	54	8号住	平安	－	－	土師器	甲斐型フタ	80%	5.3	(20.6)	－	－	317.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	にぶい橙色	(外)ロクロナデ、ロクロケズリ(内)ロクロミガキ	
第22図	55	8号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	60%	(31.3)	(26.0)	－	－	501.8	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)橙色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ (内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第22図	56	8号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	74.0	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	にぶい橙色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
第22図	57	8号住	平安	－	－	土師器	甲斐型甕	胴部破片	－	－	－	－	38.4	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)明赤褐色(内)橙色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
第23図	58	9号住	平安	－	－	土師器	坏	50%	4.4	－	7.0	－	119.7	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)橙色(内)明褐色(底)橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	玉縁口縁
第23図	59	9号住	平安	－	－	土師器	坏	口縁～胴部破片	－	－	－	－	53.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)明赤褐色(内)明赤褐色(底)明褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	玉縁口縁
第23図	60	9号住	平安	－	－	土師器	坏	30%	2.8	(13.0)	(7.5)	－	48.9	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)明赤褐色(内)にぶい橙色(底)明赤褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り	玉縁口縁
第23図	61	9号住	平安	－	－	土師器	高脚高台坏	脚部破片	－	－	－	脚径 (9.0) 脚高 (1.9)	100.5	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい褐色(内)にぶい橙色(底)にぶい橙色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ(底)ナデ	
第23図	62	9号住	平安	－	－	土師器	甕	口縁～胴部破片	－	(15.6)	－	－	275.1	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ (内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第23図	63	9号住	平安	－	－	土師器	甕	口縁～胴部破片	－	(29.8)	－	－	749.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ (内)胴部ヨコハケメ、口縁部ロクロナデ	
第23図	64	9号住	平安	－	－	土師器	甕	胴部破片	－	－	－	－	118.9	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)明赤褐色(内)にぶい褐色	(外)タテハケメ(内)ヨコハケメ	
第23図	65	9号住	平安	－	－	土師器	羽釜	口縁～胴部破片	－	(22.6)	－	－	629.7	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母	(外)にぶい赤褐色(内)褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)ヨコハケメ	
第23図	66	9号住	平安	－	－	土師器	羽釜	口縁～胴部破片	－	－	－	－	60.3	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	にぶい赤褐色	(外)胴部タテハケメ、口縁部ロクロナデ(内)ヨコハケメ	
第23図	67	9号住	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	37.7	良好	長石、石英、赤色粒子、白色粒子	褐灰色	(外)ロクロナデ、タタキメ(内)ロクロナデ	
第23図	68	10号住	平安	－	－	土師器	甲斐型坏	40%	4.0	(12.6)	(5.8)	－	75.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)橙色(内)にぶい橙色(底)橙色	(外)ロクロナデ、ヘラケズリ(内)ロクロナデ(底)回転糸切り後ヘラケズリ	(外)墨書(人)
第23図	69	10号住	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	286.6	堅緻	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)黒褐色(内)灰黄色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
第23図	70	1号土坑	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	394.8	堅緻	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)灰・灰褐色(内)黄褐色	(外)タタキメ(内)ナデ、指押え	
第23図	71	Pit８	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	35.3	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、白色粒子	にぶい黄橙色	(外)条痕文(内)ナデ	条幅２㎜位の条痕文
第23図	72	遺構外	縄文	前期後半	諸磯	－	深鉢	胴～底部破片	－	－	－	－	25.1	良好	長石、金雲母、黒雲母、赤色粒子	(外)にぶい橙色(内)灰褐色(底)にぶい橙色	(内)ナデ(底)網代痕	
第23図	73	遺構外	縄文	前期後半	諸磯	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	21.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい橙色(内)橙色	(外)ボタン状貼付、浮線文(内)ナデ	
第23図	74	遺構外	縄文	前期後半	諸磯	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	27.7	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)集合沈線文(内)ナデ	
第23図	75	遺構外	縄文	前期後半	諸磯	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	21.7	良好	長石、石英、黒雲母、赤色粒子	にぶい黄橙色	(外)対角線文(内)ナデ	対角線文
第23図	76	遺構外	縄文	前期後半	諸磯	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	16.8	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	にぶい黄橙色	(外)集合沈線文	
第23図	77	遺構外	縄文	前期後半	諸磯	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	14.5	良好	長石、黒雲母、赤色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)橙色	(外)結節浮線文	
第23図	78	遺構外	縄文	前期後半	諸磯	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	12.1	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)橙色	(外)対角線文、ボタン貼付状突起(内)ナデ	対角線文、ボタン貼付
第23図	79	遺構外	縄文	中期初頭	五領ヶ台	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	37.7	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子	(外)赤褐色(内)にぶい赤褐色	(外)２状の沈線文の間に、交互刺突文を施す(内)ナデ	
第23図	80	遺構外	縄文	中期初頭	五領ヶ台	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	11.6	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子	橙色	(外)隆帯、沈線	口縁部より蛇行隆帯で貼付
第23図	81	遺構外	縄文	中期初頭	五領ヶ台	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	13.7	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	明赤褐色		
第23図	82	遺構外	縄文	中期初頭	五領ヶ台	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	29.9	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子	にぶい橙色	(外)隆帯(内)ナデ	隆帯、押引文
第23図	83	遺構外	縄文	中期初頭	五領ヶ台	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	10.9	良好	長石、石英、赤色粒子	(外)橙色(内)明赤褐色	(外)細い沈線	細い沈線
第23図	84	遺構外	縄文	中期初頭	五領ヶ台	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	12.4	良好	長石、石英、赤色粒子	(外)橙色(内)黒褐色	(外)縄文	縄文、部分的に剥離

第７表　土器一覧表

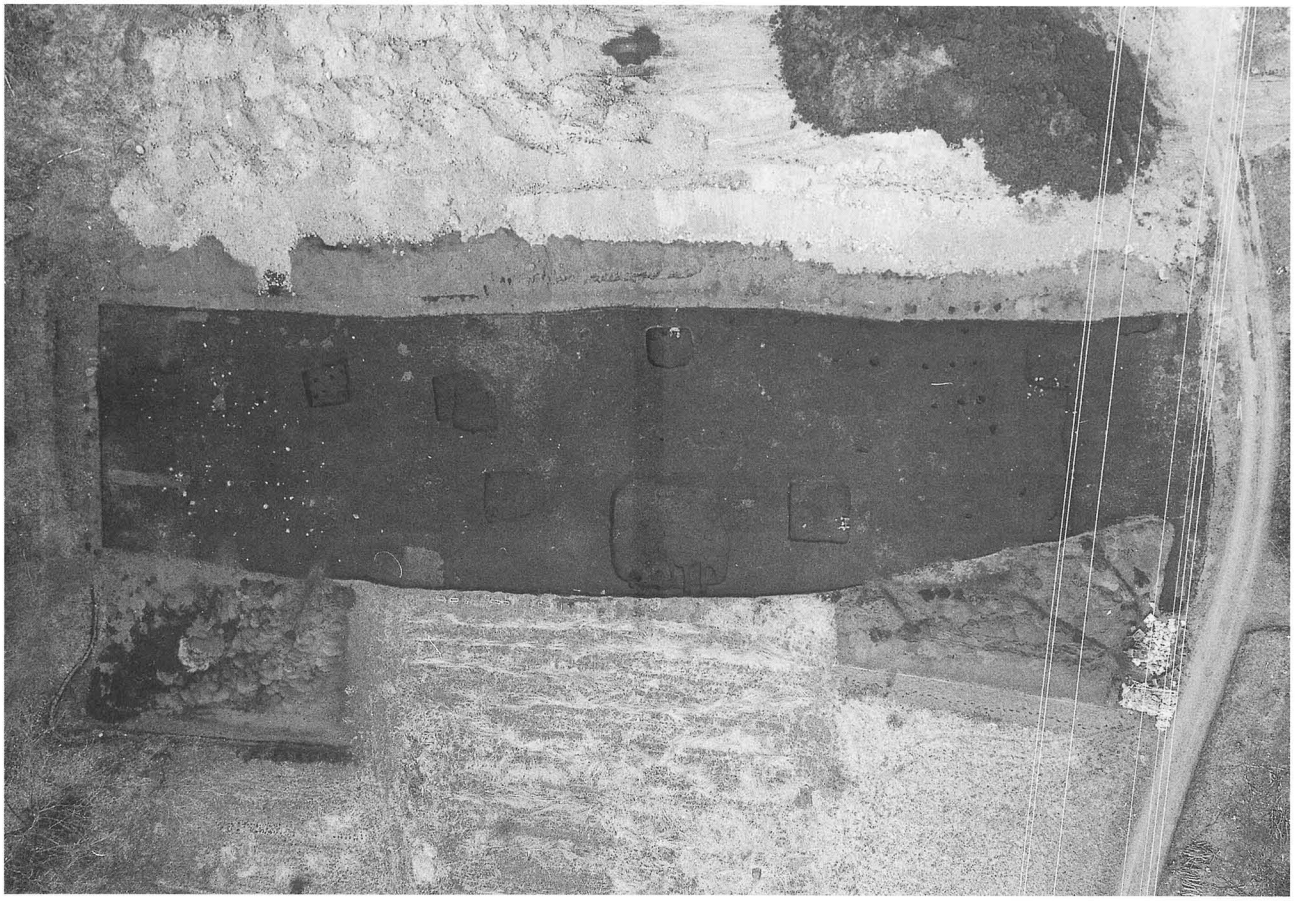
図	遺物番号	出土位置	時代	時期	型式	土器種別	器種	残存率	器高(cm)	口径(cm)	底径(cm)	その他(cm)	重さ(g)	焼成	胎土	色調	調整	特徴
第23図	85	遺構外	縄文	中期初頭	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	16.3	良好	長石、金雲母、赤色粒子	橙色	(外)沈線	沈線
第23図	86	遺構外	縄文	中期中葉	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	77.3	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)橙色(内)にぶい橙色	(外)隆帯、縄文(内)ナデ	
第23図	87	遺構外	縄文	中期中葉	狢沢	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	16.6	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	にぶい橙色	(内)ナデ	
第23図	88	遺構外	縄文	中期中葉	狢沢	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	25.8	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)角押文	
第23図	89	遺構外	縄文	中期中葉	狢沢	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	23.6	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)角押文(内)ナデ	
第23図	90	遺構外	縄文	中期中葉	井戸尻	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	47.6	良好	長石、金雲母、黒雲母、赤色粒子	(外)にぶい赤褐色(内)にぶい橙色	(外)渦巻き状隆帯(内)ナデ	
第24図	91	遺構外	縄文	中期中葉	井戸尻	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	27.6	良好	長石、黒雲母、赤色粒子	にぶい褐色	(外)隆帯(内)ナデ	
第24図	92	遺構外	縄文	中期中葉	－	－	深鉢	把手破片	－	－	－	－	19.1	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)竹管による刺突(内)ナデ	
第24図	93	遺構外	縄文	中期	－	－	深鉢	底部破片	－	－	－	－	165.3	良好	長石、金雲母、黒色粒子	(内)にぶい橙色(底)橙色	(内)ナデ(底)網代痕	網代痕
第24図	94	遺構外	縄文	中期	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	67.0	良好	長石、黒雲母、赤色粒子	にぶい黄橙色	(外)無文(内)ナデ	
第24図	95	遺構外	縄文	中期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	28.6	良好	長石、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子	にぶい黄橙色	(外)縄文(内)ナデ	
第24図	96	遺構外	縄文	中期後半	曽利	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	34.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)黒褐色(内)にぶい橙色	(外)沈線(内)ナデ	広い沈線
第24図	97	遺構外	縄文	中期後半	曽利	－	深鉢	胴(頭部)破片	－	－	－	－	29.2	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)黒褐色(内)にぶい橙色	(外)沈線文(内)ナデ	頭部に多段化した沈線文
第24図	98	遺構外	縄文	中期後半	曽利	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	21.3	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい橙色(内)にぶい褐色	(外)条線文(内)ナデ	半裁竹管外皮による条線文
第24図	99	遺構外	縄文	中期後半	曽利	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	39.3	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子	(外)にぶい橙色(内)にぶい褐色	(外)隆帯、櫛目(内)ナデ	隆帯、櫛目
第24図	100	遺構外	縄文	中期後半	－	－	深鉢	胴～底部破片	－	－	－	－	72.9	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)赤褐色(内)にぶい橙色(底)赤褐色	(内)ナデ(底)木葉痕	縄文、底部に木葉痕
第24図	101	遺構外	縄文	中期後半	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	46.8	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	にぶい赤褐色	(外)縄文、沈線(内)ナデ	
第24図	102	遺構外	縄文	中期後半	曽利	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	48.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)灰褐色(内)橙色	(外)櫛目(内)ナデ	
第24図	103	遺構外	縄文	中期後半	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	54.1	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	にぶい黄橙色	(外)縄文、沈線(内)ナデ	
第24図	104	遺構外	縄文	中期後半	曽利	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	22.9	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)橙色(内)にぶい褐色	(外)隆帯、綾杉状文(内)ナデ	
第24図	105	遺構外	縄文	中期後半	曽利Ⅴ	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	13.3	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	明黄褐色	(外)ハの字文(内)ナデ	
第24図	106	遺構外	縄文	中期後半	曽利	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	20.0	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	にぶい赤褐色	(外)櫛目による条線文(内)ナデ	
第24図	107	遺構外	縄文	後期前半	堀之内	－	深鉢	口縁～胴部破片	－	－	－	－	131.7	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	橙色	(外)沈線、隆帯、無文(内)ナデ	口縁部沈線と隆帯
第24図	108	遺構外	縄文	後期前半	堀之内	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	50.5	良好	長石、石英、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)灰黄褐色	(外)沈線文(内)ナデ	
第24図	109	遺構外	縄文	後期前半	堀之内	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	16.9	良好	石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい黄褐色(内)にぶい黄橙色	(外)沈線文(内)ナデ	
第24図	110	遺構外	縄文	後期前半	堀之内	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	12.6	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)橙色(内)にぶい橙色	(外)沈線(内)ナデ	
第24図	111	遺構外	縄文	後期前半	堀之内	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	11.5	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)橙色(内)褐灰色	(外)沈線(内)ナデ	
第24図	112	遺構外	縄文	後期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	39.7	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)にぶい橙色	(外)沈線、縄文(内)ナデ	沈線と縄文
第24図	113	遺構外	縄文	後期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	14.0	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)灰褐色(内)黒褐色	(外)縄文、沈線(内)ナデ	
第24図	114	遺構外	縄文	後期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	12.3	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	明赤褐色	(外)沈線、縄文(内)ナデ	
第24図	115	遺構外	縄文	後期	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	29.2	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい黄褐色(内)にぶい黄橙色	(外)口縁部沈線(内)ナデ	
第24図	116	6号住	縄文	晩期	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	16.0	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母	(外)明褐色(内)褐色	(外)浮線文(内)ナデ	
第24図	117	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	47.4	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母	(外)暗褐色(内)褐色	(外)浮線文(内)ナデ	
第24図	118	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	37.0	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母	褐色	(外)浮線文(内)ナデ	
第24図	119	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	26.7	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母	(外)灰黄褐色(内)褐色	(外)浮線文(内)ナデ	
第24図	120	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	口縁部破片	－	－	－	－	25.4	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母	にぶい黄褐色	(外)浮線文(内)ナデ	
第24図	121	遺構外	縄文	晩期	－	－	浅鉢	口縁部破片	－	－	－	－	32.1	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)灰褐色(内)にぶい黄褐色	(外)浮線文(内)ナデ	
第24図	122	遺構外	縄文	晩期	－	－	浅鉢	口縁部破片	－	－	－	－	40.8	良好	長石、石英、金雲母、赤色粒子	(外)黒色(内)黒褐色	(外)浮線文(内)ナデ	
第24図	123	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	13.6	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	にぶい黄褐色	(外)条痕文(内)ナデ	
第24図	124	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	9.5	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外)褐色(内)にぶい黄褐色	(外)条痕文(内)ナデ	
第24図	125	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	35.0	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	(外) 暗褐色 (内)褐色	(外)条痕文(内)ナデ	地文を施文後、波状沈線を施す
第24図	126	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	11.8	良好	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子	褐色	(外)条痕文(内)ナデ	
第24図	127	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	20.3	良好	長石、金雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)暗褐色	(外)条痕文(内)ナデ	
第24図	128	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	14.4	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)にぶい黄橙色	(外) 条痕文 (内) ナデ	
第24図	129	遺構外	縄文	晩期	－	－	深鉢	胴部破片	－	－	－	－	9.1	良好	長石、黒色粒子、赤色粒子	(外)にぶい褐色(内)赤褐色	(外)櫛目(内)ナデ	櫛目
第25図	131	遺構外	古墳	前期	－	土師器	S字甕	口縁～胴部破片	－	(16.6)	－	－	18.5	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい褐色(内)橙色	(外)胴部櫛目、口縁部ロクロナデ(内)ナデ	S字状口縁
第25図	132	遺構外	古墳	前期	－	土師器	高坏	坏底部破片	－	－	－	－	49.0	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	橙色	(外)みこみ部ミガキ、ナデ(内)ナデ	
第25図	133	遺構外	平安	－	－	土師器	甲斐型坏	胴～底部破片	－	－	5.3	－	40.5	良好	黒色粒子、赤色粒子	(外)明赤褐色(内)橙色(底部)明赤褐色	(外)ロクロナデ、ヘラケズリ(内)ロクロナデ、ヘラミガキ(底)回転糸切り	(内) 暗文
第25図	134	遺構外	古墳	前期	－	土師器	S字甕	胴部破片	－	－	－	－	43.4	良好	長石、石英、金雲母、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子	(外)黒褐色(内)にぶい褐色	(外)ナデ、櫛目(内)ナデ	
第25図	135	遺構外	古墳	前期	－	土師器	高坏	脚部破片	－	－	－	脚 (11.6)	46.7	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)にぶい黄褐色(内)にぶい黄橙色	(外)ナデ(内)ナデ	
第25図	136	遺構外	古墳	前期	－	土師器	壷	口縁部破片	－	(12.4)	－	－	34.8	良好	長石、石英、黒雲母、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	明赤褐色	(外)ナデ、ミガキ(内)ナデ	
第25図	137	遺構外	平安	－	－	須恵器	フタ	30%	－	(15.4)	－	－	42.8	堅緻	長石、石英、黒色粒子、白色粒子	灰色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
第25図	138	遺構外	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	45.0	堅緻	長石、石英、黒色粒子、赤色粒子、白色粒子	(外)褐灰色(内)灰黄褐色	(外)ロクロナデ(内)ロクロナデ	
第25図	139	遺構外	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	45.0	堅緻	長石、赤色粒子、白色粒子	(外)灰黄褐色(内)黄灰色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
第25図	140	遺構外	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	38.5	堅緻	長石、赤色粒子、白色粒子	黄灰色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	
第25図	141	遺構外	平安	－	－	須恵器	甕	胴部破片	－	－	－	－	36.4	堅緻	長石、石英、赤色粒子、白色粒子	黄灰色	(外)タタキメ(内)ロクロナデ	

第8表　遺構別出土土器内訳表

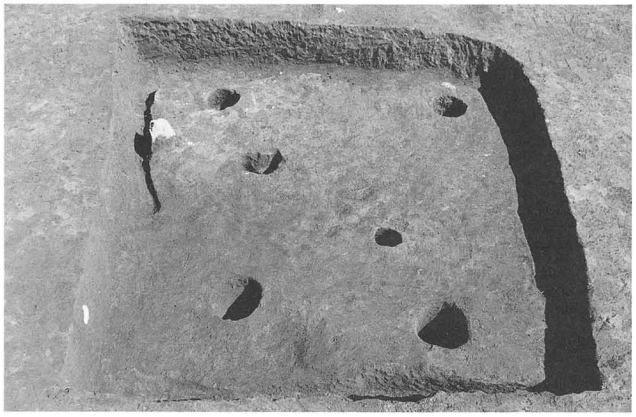
遺構名		縄文					古墳									平安																近世	時期不明	合計
							土師器									甲斐型			土師器						黒色土器	須恵器				灰釉陶器		不明	陶磁器		
		前期	中期	後期	晩期	不明	S字甕	甕	壷	小壷	高坏	器台	鉢	埦	不明	坏	甕	蓋	坏	台付坏	甕	ロクロ甕	蓋	羽釜	坏	坏	碗	甕	蓋	壷	碗				
1号住	個数		5				7									7	56		2		8	100			11									12	208
	重量(g)		51				26									16	457		7		23	1,404			258									74	2,315
2号住	個数	1	3	1		1		9				2				5	79	6	8		24	32			12			2	5		1	1		4	195
	重量(g)	17	97	11		16		96				23				25	1,282	149	92		183	317			296			360	103		4			28	3,081
3号住	個数	1					42	2	13	1		1																						59
	重量(g)	16					599	11	4,240	306		168																						5,324
4号住	個数	3	4	1	1	3	35	18	4						1	10	1		1			1			2							1		83
	重量(g)	55	52	35	9	53	224	344	146						2	17	5		11			8			6									911
6号住	個数	5	10			5	147	72	203	6	11	1	11		2	72	40	4	9			4	1		2	7		2				14		28	651
	重量(g)	48	149			27	644	738	5,409	758	241	15	119		7	199	135	19	35			34	30		8	80		206						67	8,917
7号住	個数		3	5		1		7			2						124		3		3	3			1	9			1					1	163
	重量(g)		31	60		2		92			30						2,000		13		16	31			7	275			7					25	2,588
8号住	個数	2	8		6	12	16	29								33	30	7	14			1			7			2						11	176
	重量(g)	15	232		47	133	46	192								136	1,127	318	148			26			42			71						30	2,548
9号住	個数	2		2	1	1		9	1							4			116	1	110	10		8	10	2	3	2				12		26	318
	重量(g)	13		26	6	3		100								18			584	101	2,121	116		630	31	15	12	60						124	3,945
10号住	個数															22	10		3	1		4						2				2		1	45
	重量(g)															189	34		8	30		31						287						1	579
1号土	個数																											3						3
	重量(g)																											489						489
4号ピ	個数					2		2																										4
	重量(g)					13		107																										119
6号ピ	個数					1																												1
	重量(g)					15																												15
7号ピ	個数							1																									1	2
	重量(g)							4																									6	10
8号ピ	個数				2																													2
	重量(g)				49																													49
9号ピ	個数					1																												1
	重量(g)					31																												31
14号ピ	個数				1	1																												2
	重量(g)				12	2																												14
15号ピ	個数							1																										1
	重量(g)							6																										6
1号溝	個数					1										1			3													1		6
	重量(g)					13										6			4															23
遺構外	個数	27	74	37	25	70	61	215	26		4	2		1	2	188	89	2	40			21			15	5		25	1	1		25	8	83	1,020
	重量(g)	388	1,845	895	444	859	276	3,780	457		74	53		13	17	466	525	6	173			112			70	46		529	43	23			86	302	11,092
合計	個数	41	107	46	36	99	308	365	247	7	17	6	11	1	5	342	429	19	199	2	145	176	1	8	60	23	3	38	7	1	1		8	167	2,940
	重量(g)	552	2,456	1,026	566	1,168	1,814	5,469	10,252	1,064	345	259	119	13	26	1,071	5,565	492	1,075	131	2,343	2,078	30	630	717	416	12	2,002	152	23	4		86	656	42,055

調査区全景（南から）

図版 2



調査区全景（真上から）



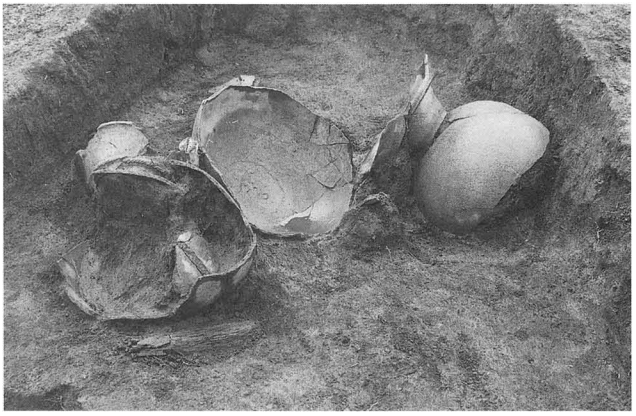
1 号住居跡　全景（西から）

1 号住　遺物出土状況

2・3 号住居跡　全景（西から）

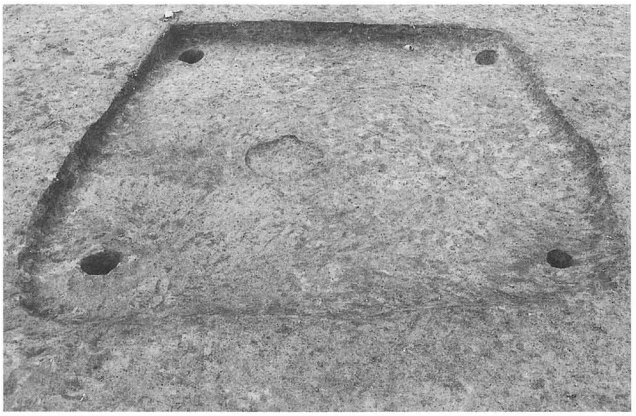
2 号住　1 号カマド

2 号住　2 号カマド



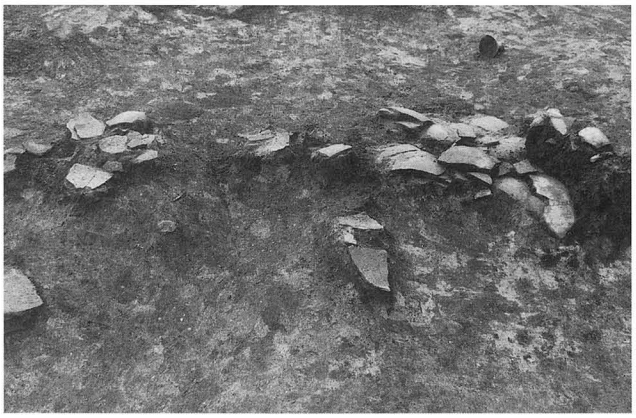
3 号住　遺物出土状況①

3 号住　遺物出土状況②

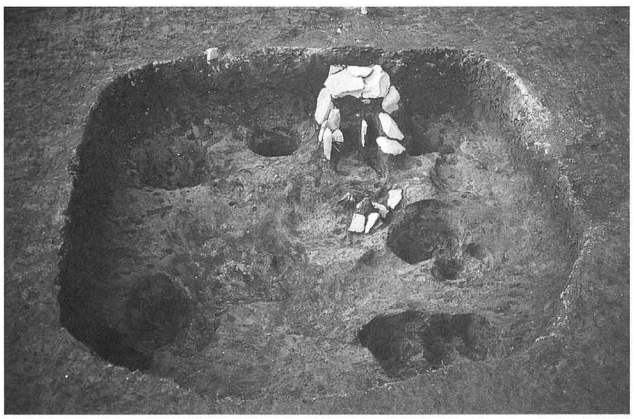


4 号住居跡　全景（南から）

6 号住居跡　全景（西から）



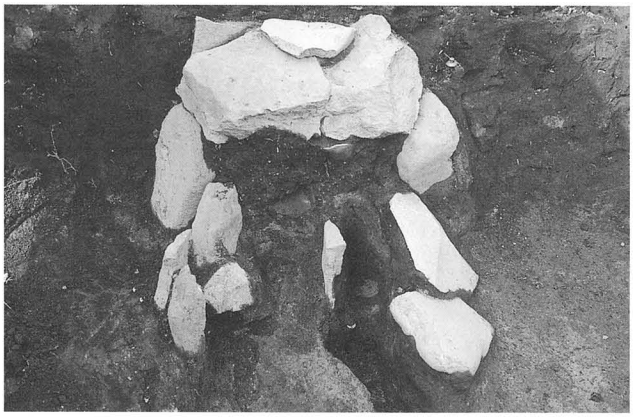
6 号住　遺物出土状況



7 号住居跡　全景（南から）

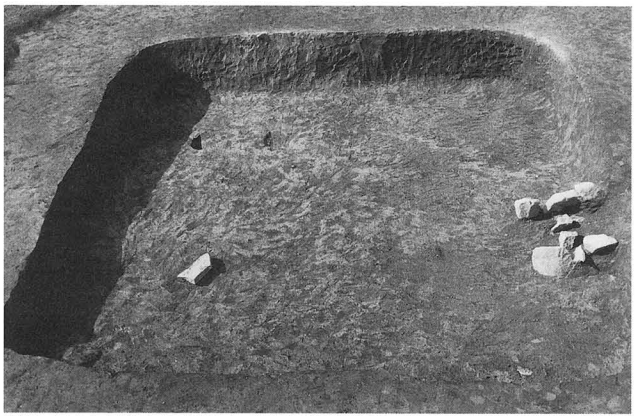
7 号住　炭化物出土状況

図版 4

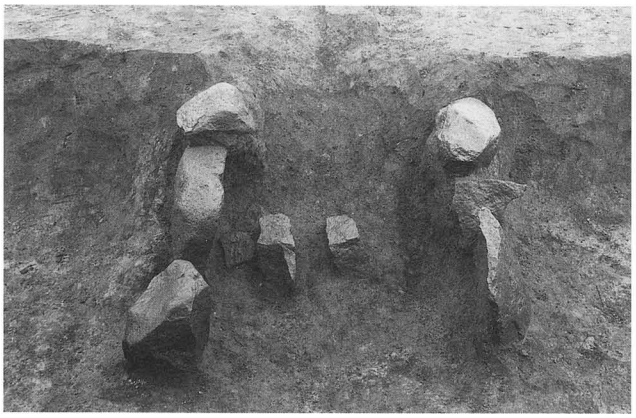


7 号住　2 号カマド

7 号住　遺物出土状況



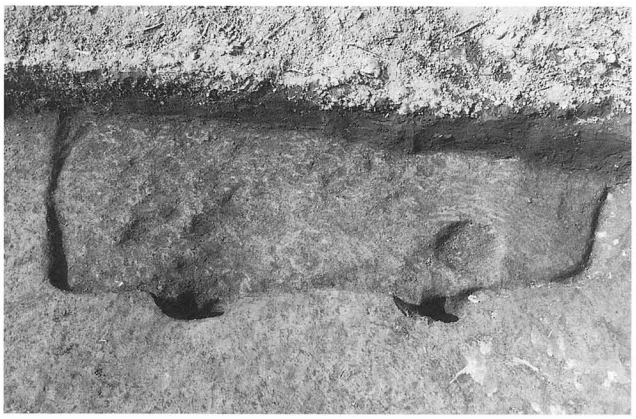
8 号住居跡　全景（南から）



8 号住　カマド

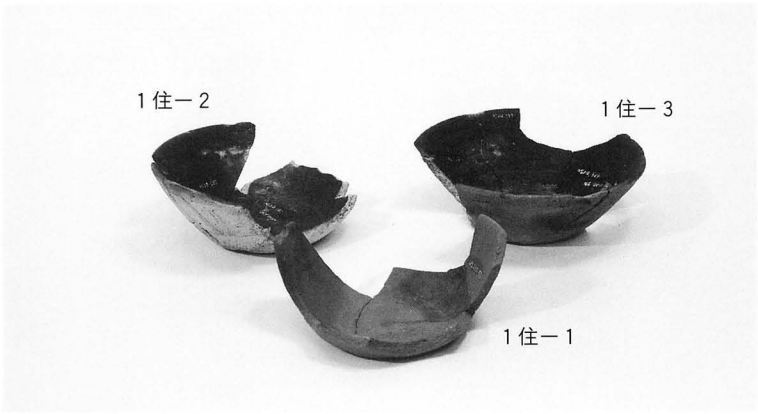
9 号住居跡　全景（南から）

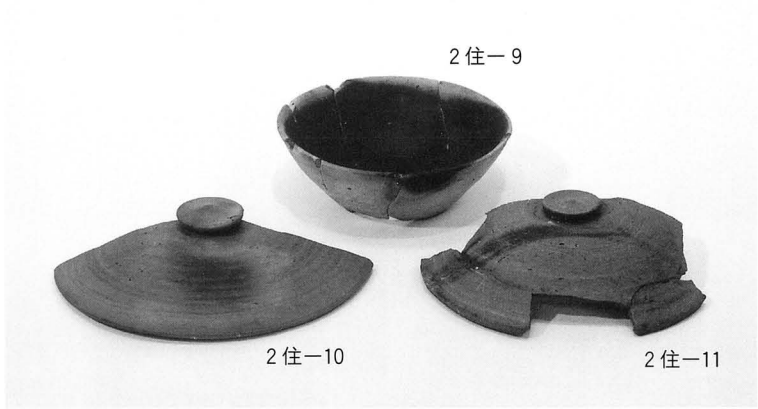
9 号住　遺物出土状況

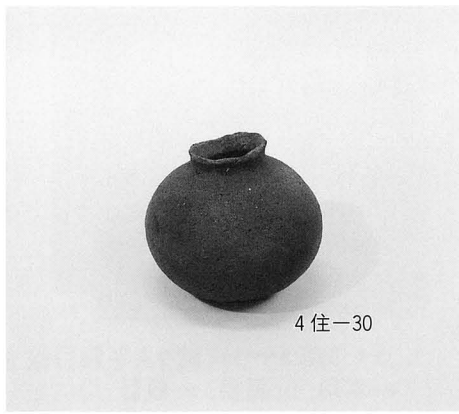


10号住居跡　全景（南から）

1 号土坑　遺物出土状況



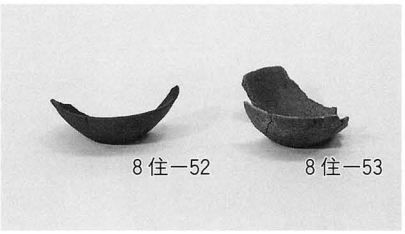


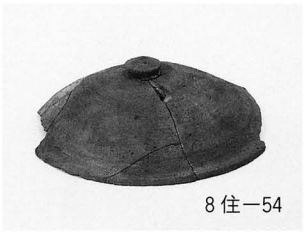


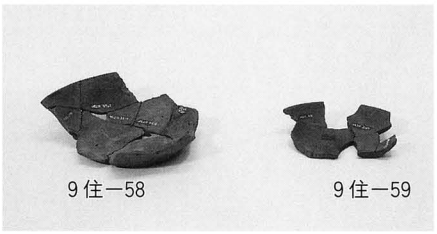
出土遺物①

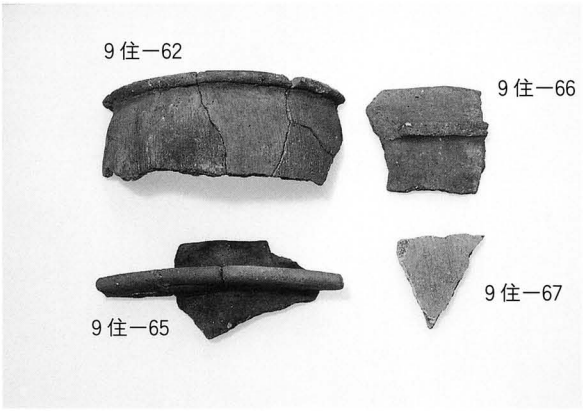
図版 6

6 住－36



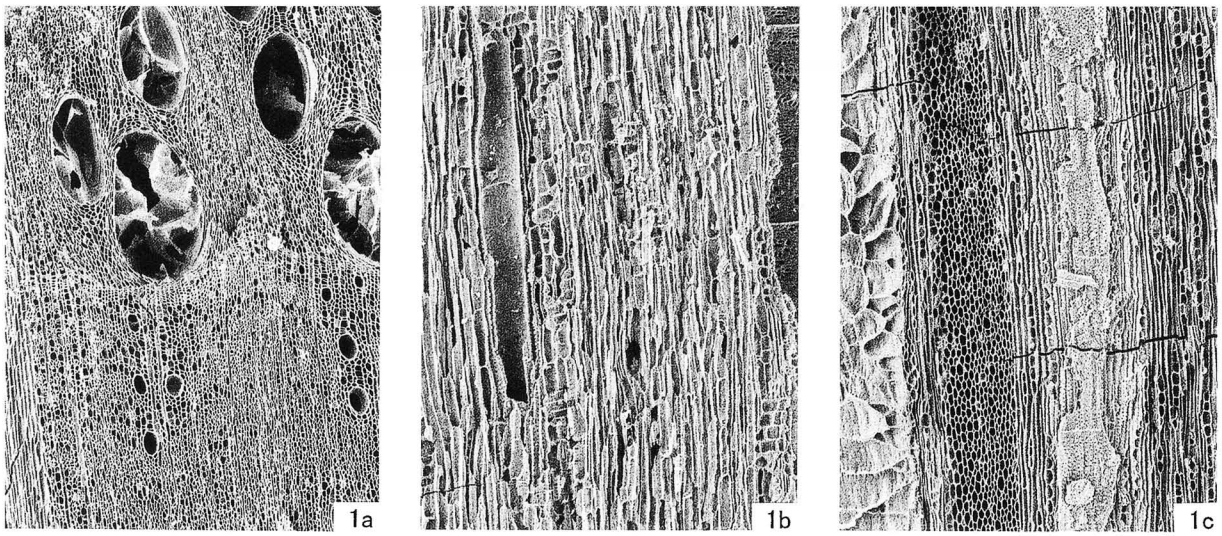






縄文時代晩期の土器

出土遺物②



1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節（7住 炭化物）
a：木口，b：柾目，c：板目

200 μ m:a
200 μ m:b,c

炭化材割断面拡大写真

報告書抄録

フリガナ	アリヅカイセキ
書名	蟻塚遺跡
副題	中山間活性化ふれあい支援農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シリーズ	長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書第29集
著者名	長谷川誠
編集・発行機関	長坂町教育委員会
住所・電話	〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19 TEL 0551－32－2111 (代)
印刷所	鬼灯書籍株式会社 〒381－0012　長野県長野市柳原2133－5
発行日	2004年3月31日
遺跡所在地	山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条字蟻塚地内
遺跡番号	長坂町　No210
1／25,000地図名 位置・標高	若神子 北緯35° 49′ 08″　東経138° 22′ 51″　標高685m
調査原因	中山間活性化ふれあい支援農道整備事業
調査期間	2003年2月11日～2003年3月31日
調査面積	1,617m²
主な時代	縄文時代・平安時代
主な遺構	古墳時代（竪穴住居跡3軒） 平安時代（竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡1棟、土坑1基、ピット16基） その他（溝1条）
主な遺物	縄文時代（土器、石器、黒曜石） 古墳時代（土師器） 平安時代（土師器、黒色土器、須恵器、灰釉陶器）

長坂町埋蔵文化財発掘調査報告書　第29集

蟻塚遺跡

2004年３月25日　印刷
2004年３月31日　発行

編集・発行　長坂町教育委員会
〒408－0021　山梨県北巨摩郡長坂町長坂上条2575－19
TEL　0551－32－2111㈹
印　　刷　鬼灯書籍株式会社
〒381－0012　長野県長野市柳原2133－5
TEL　026－244－0235㈹